国立国語研究所学術情報リポジトリ

Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 12 Nara and Wakayama

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002252

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第12巻　奈良・和歌山

国立国語研究所資料集　13-12

国立国語研究所
2002

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて，「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が，文化庁によって実施されました。調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていました。その後，時を経て，この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は，文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで，国立国語研究所では，受け継いだ資料を有効に利用するために，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で，平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また，データベース化にあたっては，平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった，音声と文字化の電子化データを備えていますので，研究や教育に活用いただけることと思います。なお，本資料集の作成については，情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては，全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として，多くのみなさまから御協力を得ました。また，各都道府県教育委員会の関係者，および，有志の御助力がありました。刊行にあたって，記して深く感謝の意を表します。

平成14年１月

国立国語研究所長　甲斐　睦朗

利用にあたって

1．内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	
奈良県五條市1981			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【趣味と病気，商売と跡とり，害虫と自然】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	
和歌山県田辺市1981			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【子供の遊び，子供の手伝い，田辺のことば，田辺まつり】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROMは，CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。
談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ，お使いください。

2．著作権

この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3．利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

（1）国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。

（2）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。

（3）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記の（2）は守ってください。

（4）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，

「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」

などのように，明記してください。

あわせて，成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。

（5）以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620
東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所 情報資料部門
「全国方言談話データベース」係
FAX：03-3906-3530

4．付記

データの電子化，CD-ROM，CD の作成については，「全国方言談話資料データベース」として，平成9 (1997)～13(2001)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所 13－12

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第12巻 奈良・和歌山

目次

刊行のことば …… 3
利用にあたって …… 5

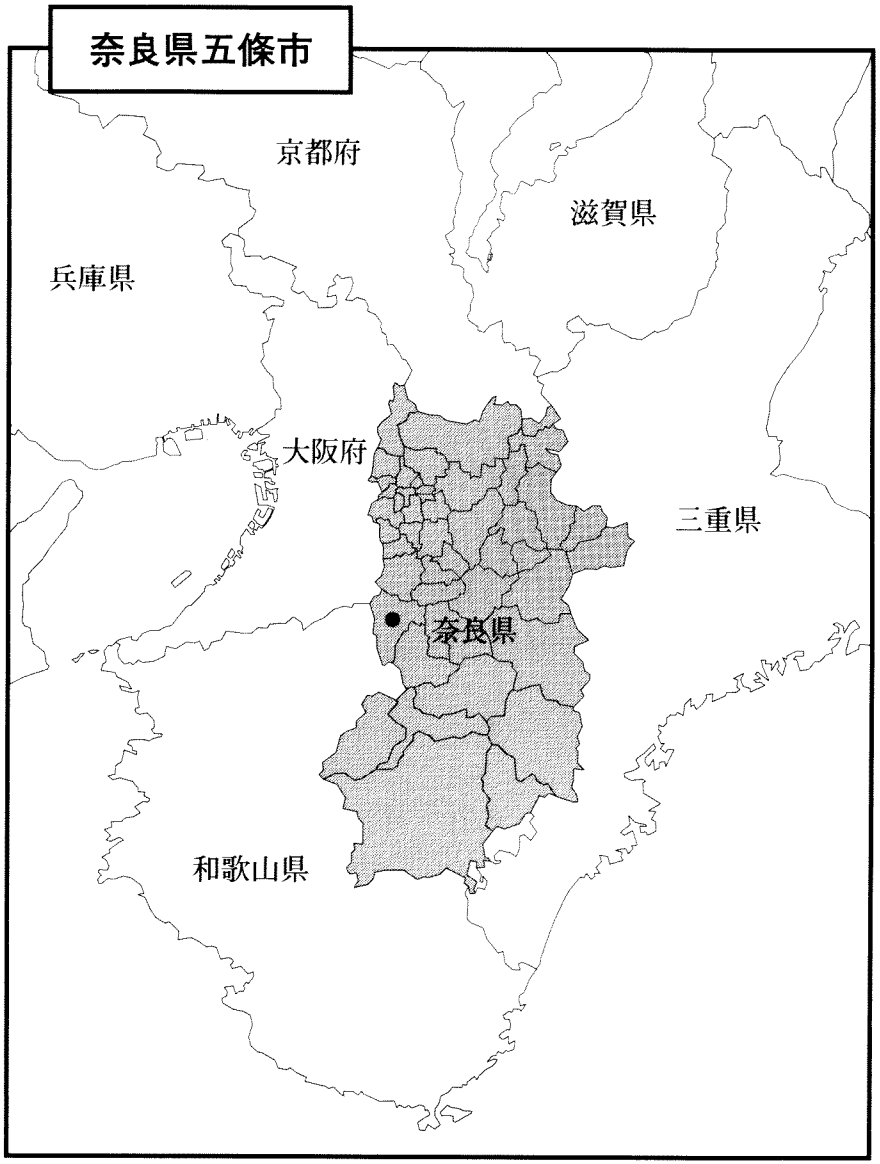
Ⅰ．奈良県五條市1981 …… 11
地図 …… 12
話者・担当者 …… 13
解説 …… 14
凡例 …… 23
談話 …… 28
【趣味と病気，商売と跡とり，害虫と自然】 …… 29
注記 …… 97

Ⅱ．和歌山県田辺市1981 …… 99
地図 …… 100
話者・担当者 …… 101
解説 …… 102
凡例 …… 108
談話 …… 113
【子供の遊び，子供の手伝い，田辺のことば，田辺まつり】 …… 114
注記 …… 194

作成・公開の経緯 …… 197
「各地方言収集緊急調査」について …… 199

「各地方言収集緊急調査」地点一覧……203
「各地方言収集緊急調査」地点地図……208
各地方言収集緊急調査補助全体計画……209
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項……210
各地方言収集緊急調査実施要領……211
各地方言収集緊急調査の実施について……214
調査実施上の留意事項について……216
「全国方言談話データベース」について……222

Ⅰ. 奈良県五條市
1981


奈良県五條市
京都府
滋賀県
兵庫県
大阪府
三重県
奈良県
和歌山県

奈良県五條市1981話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	平井俊子
	増谷栄一
収録担当者	今西敏夫
文字化担当者	今西敏夫
解説担当者	佐藤虎男
	鹿谷勲

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一
	江川清
	田原広史
	井上文子
校正担当者	高木千恵
	鳥谷善史

奈良県五條市1981解説

収録地点名　　奈良県五條市五條

収録地点の概観

県中央部の西端，和歌山県と境を接する五條市の中心をなすのが吉野川の右岸に位置する五條の町である。1889(明治22)年に五條・新町・須恵・二見・大島の5つの藩制村が統合されて五條町ができた。大島を除いた4ヵ村は，東西に通じる伊勢街道（紀州街道）沿いの街村で，そのうち特に五條はこの東西交通に加えて，奈良盆地の中央と西部をそれぞれ南北に走る中街道と下街道，さらに和歌山県の本宮・新宮へと紀伊半島を縦断する西熊野街道（十津川街道）の交差する地点で，古くから陸上交通の要衝であると同時に，筏を中心とした吉野川の水運の拠点でもあった。

江戸時代初期には，公用の貨客を継ぎ立てる伝馬所の設置が認められ，宿駅としての繁栄ぶりは『大和名所図会』(1791(寛政３)年）に，「五條里は宇智郡の駅にして四方の旅客はここにゆききし遠近の産物もここに交易して朝市夕市とて商家多く郷の賑ひいはん方なし」と記されている。1679(延宝７)年以降は周辺の村と共に幕府領となり，1790(寛政２)年には吉野地方をはじめとする南大和の幕府領を支配する五條代官所がこの地に設けられた。近世を通じて，南大和の中心として，多彩な商工業者が生業を営み，独自な町場として活況を呈していた。

『大和國町村誌集』(1891(明治24)年）によれば，五條は，戸数572戸・人口2,184人（男1,074人　女1,110人）・川船20艘・人力車２輌・荷車11輌，税地は田24町６反余・畑６町余・宅地７町５反余他で総計39町余であった。寺院は宝満寺・称念寺・講御堂，神社は八幡社・蛭子社・八王子社。物産は木綿晒10,000反，製茶1,000斤，鮎30万尾，農業32戸，商業370戸。

『奈良県勢要覧1989』（奈良県企画部調査課）「市町村別面積，所帯数，人口及び人口密度」によれば，1985(昭和60)年10月1日現在の国勢調査における五條市は，面積8,889km²，所帯数9,433所帯，人口数33,887人（男16,330人，女17,557人），人口密度381.2人／km²となっている。

収録地点の方言の特色

音韻

(1) ダ行・ザ行・ラ行音の交代

ダシキ（座敷）　ダイサン（財産）　ネンダ（捻挫）

イデン（以前）　オーデ（大勢）　ドード（どうぞ）

ゼンチュー（電柱）

レンセス（伝説）　アッタケロ（あったけど）

デーカ（冷夏）

(2) ／ｓ／→／ｈ／の交代

オレテヒモテ（折れてしまって）

ヨバレマヒョカ（よばれましょうか）

センセハン（先生さん）

(3) ／ｒ／の脱落

ワシラヨイ　シタン　ナンネ。トシカー　ユーター。

（わしらより下になるのだ。歳からいったら。）

コータンカ　シャンケオ（買ったのかしらないけど）

タコ　ナットーサカイ（高くなっているから）

ドツカエタラ（なぐられたら）

モータ（もらった）

(4) １音節語の長呼

テー（手）

ヒー（日）

ミータイ（見たい）

スレスレグライマデ　キーテ（すれすれぐらいまで来て）

(5) 撥音添加

ミンニ　イタラ（見に行ったら）

カエスノンデ　メームカンナン（借金を返すので苦しまねばならない）

(6) 促音化・促音添加

シマッショ（始末書）

ヤマモッサン（山本さん）

ウチデッケド（うちですけど）

トッショリ（年寄り）

(7) 鼻濁音

鼻濁音があり，たいてい語中語尾に現れる。人による程度の差があるように思われる。

(8) ツァ

イチグッツァン（市口さん）のように，人名呼称によく現れる。

アクセント

下北山村や十津川村とは違って，イエ，アルのような京阪アクセントの範疇のものと言える。文の抑揚もまた，下北山村のような台頭後起型はなくて，京阪的抑揚である。

語法

(1) 文末詞

①ナー，エ・エーが著しい。ナーには，ワナー・ガナーのような複合形があり，エーには，ナーエ・ヤエ・ドエ・ワエ・ノエなどがある。

エライ　ゾーサ　カケタナー。（たいへん造作かけたね。）

アノ　ヒトワ　ショーギ　スキエ。（あの人は将棋が好きだよ。）

サー　ソノ　ジブンニナーエ。（さあその頃にねえ。）

ソーユー　ケーカクモ　タエトコヤエ。

（そういう計画も立てておこうよ。）

ドコ　イクンドエー。（どこへ行くのです？）

ドヤイドッタワエ。（どなっていたよ。）

イカレヘンノエ。（行けないのよ。）

エがデス・ダス・マスに下接して，デッセ・ダッセ・マッセとなることもよくある。このエに類するヤ・ヨも行われる。

マー　ノボッテヨ。（まああがってちょうだい。）

シャカンヤサンデスンヨ。（左官屋さんですのよ。）

②ゾ・ド・デがある。

ホデ　オマハン　ドナイ　シトンドー。

（そしてあんたどうしているのかね。）

ムチャナ　コト　シタラ　アキマヘンデー。

（無茶なことしたらだめですよ。）

③問いの文末詞はカ・カイのほか，ケがよく行われる。

ヤスケー　イタラダッカ。（弥助へ行ったらですか。）

ナニガ　コワイ　コト　アルカイ。

（なにが怖いことなんかあるものか。）

マダ　キタラヒンケ。（まだ来ていないの？）

④転成の文末詞には，ワ・ワイ・ト・ネ・ヤンカ・ヤンケなどが用いられる。ワは「コーテキマッサー。（買って来ますわ。）」のように，デス・マスなどに下接してデッサ・マッサになりがちである。ネは，「あのネ。」のネとは違って，「ノヤ」からの転成と見られるものである。

アノヒトワ　オッタワイ。（あの人はいたよ。）

ナリマシテンヤト。（なりましたんですって。）

ノケタラ　イカレヘンヤンカ。（どけたら行けないじゃないか。）

なお，ミーは，動詞「見る」からの転成であるが，間投詞として一括することもできる。

キョーエーカイ　ヤッタ　トキニミー。マエバタヤトカ。

（競泳会をやった時にね。前畑だとか。）

(2) 間投詞

アノミー・ミナハレなど「見る」系のもののほか，「それ」系のソーがある。

ン。コノ　トキナ。アノーミーエ，エライ　ナンノ　マーリブチデ。

（ん。この時にね。あのほら，大規模な何の曲り淵で。）

ソノカーリ　ホカノ　コト　ミナハレ　ナンデモ　シャハリマスワナ。

（そのかわり，ほかのことは，ごらんよ，なんでもなさいますわね。）

ソントキ　ソー　ハシノ　ウエ　トーッテナ。

（その時，ほら，橋の上を通ってね。）

(3) 敬語法

尊敬法では，ナサル系のナハル・ヤハル・ハルがある。

ココデ　コモッテナサッタノヤ。（ここに篭もっていなさったのよ。）

イヤハルカイナー。(おられるかなあ。)

イハリマスカイナ。(おられますかな。)

カイッテ　キナハレヤ。(帰って来なさいよ。)

ナハルはこのような命令形が多いが，命令形でないナサルもある。

これに対して，ハル・ヤハルは逆に命令形はなくて，その他の活用形が多い。

丁寧法ではダス・デス・マス，および形容詞につくハス・アスが中心である。オマスも行われる。

ミンナ　ゲンキダッカー。(みんな元気ですか。)

ブジデ　ヨロシハシタナー。(無事でよろしかったですね。)

メー　ワルハンノケ。(目がわるいんですか。)

エラアスデー。(偉いですよ。)

ホンマニ　ウレシオマッサ。(ほんとにうれしいですわ。)

ヨルは，卑近・親近の気持ちを表すものとしてよく行われる。

イカダッテ　ドンナ　モンカ　シリヨレヘン。

(筏ってどんなものか知っちゃいない。)

(4) アスペクト

進行態は～トルまたは～テル，存続態は～トル・～タルまたは～テルが用いられる。

ノンキニ　ヤットルラシー。(呑気にやっているらしい。)

マンシュー　イトッテ(満州に行っていて)

ホケンニ　ハイッタールサカイ(保険に入っているから)

イママデ　ノコッテル。(今まで残っている。)

終結態は～テシモタ，それが縮まって～テモタ。

(5) 断定

たいていは～ヤであるが，老年層で～ジャが出る。

フタリ　オッタンジャ。(二人いたんだ。)

イチドキニ　キタモンジャサカイナー。(一度に来たものだからね。)

ワシグライガ　モー　サイゴノ　イッペーヤッタンジャー。

(わしぐらいがもう最後の一兵だったのだ。)

(6) 推量

ほとんど～ヤロである。形容詞の推量形も通常はナイヤロのように言うが，稀にナカローのような例もある。

ミズワ　モー　クル　コト　ナカロート　ソナイ　オモテー

（水はもう来ることがないだろうと，そう思って）

打消推量にマイを使うことは，ほとんどない。～ンヤロ・～ヘンヤロが主である。

シンボシテ　クレマヘンヤロカ。

（辛抱してくださいませんでしょうか。）

なお，助動詞ではないが，「セー　ヒクイカシテ」（背が低いらしく）のような一種の推量の表現があることにも注意しておきたい。

(7) 打消

～ン・～ヤン・～ヘンがある。

ヤンは五段以外の動詞につく。

オボレヤン（溺れない）

～ヤンの仮定形は，～ヤナである。ナは「ねば」から来ている。

イヌ　ツナイドイテ　クレヤナ　コマルデ。

（犬を繋いでおいてくれないと困るよ。）

～ヘンはもともと，「～はせぬ」の「せぬ」が変化したものである。

取りはせぬ＞とりゃせん＞トラヘン＞トレヘン

トレヘンのほうが，トランよりもむしろよく行われる。

シレヘン（知らない）

ノレヘン（乗らない）

ヒックラカエレヘン（ひっくりかえらない）

打消過去の言い方には，～ナンダ・～ンダ・～ンカッタなどがある。

ワシモ　ハジメ　シラナンデンケド。

（わしも初め知らなかったんだけど。）

イカンダラ　ヨカッター。（行かなかったらよかった。）

アガランカッタワ。（あがらなかったわ。）

～ンカッタは新しい形である。

不可能の意を表すには，次のような言い方がある。

ニゲレン（逃げられない）

アルカレヘン（歩けない）

ヨー　アルカン（歩けない）

「～ではない」にあたる～チャウ（～と違う）がある。

カイッテッタン　チャイマンノ。

（帰って行ったんじゃないんですの？）

(8) 連用形命令法

ガッコ　イキーテ　ワシ　ユーテ。（学校へ行きなとわしが言って。）

ソコデ　タンネテ　ミー。（そこでたずねてごらん。）

(9) 一段活用動詞の五段化

ニンゲンサマ　ヒトッツモ　タベラント　ムシバッカシ　タベテナー。

（人間さまはちっとも食べないで，虫ばかりが食べてねえ。）

タタミ　アゲラナ　アカンデー。（畳をあげなければだめだよ。）

(10) 音便

ワ行五段動詞のウ音便が行われる。

ワロタ（笑った）

形容詞もウ音便形をとる。

アツーテ（暑くて）

フコテ（深くて）

「悪くない」はワルナイともワルイナイとも言う。

(11) 主格を表す格助詞の潜在

モー　ヒー＿タッテ（もう日がたって）

メー＿ワルハンノケ。（目が悪いの？）

(12) 方向を表す格助詞

～エムイテ，短く～イミテがある。

ドボッカエムイテ　ハナシシーニ　イッタ。

（土木課へ話をしに行った。）

(13) 理由を表す接続助詞

～ヨッテニ・～サカイニ・～ハカイ・～デなどがある。

キー　ツケテ　イクヨッテニ。(気をつけて行くから。)

ホヤヨッテニナ。(だからね。)

マッテマッサカイニ。(待っていますから。)

ニギットンネヤカイニ。(握っているんだから。)

(14)「ながら」を表す接続助詞

～モテ・～モッテがある。

キキモテ　イキマス。(聞きながら行きます。)

オモイモッテ (思いながら)

語彙

(1) 接辞～ハン・～サン

オマハン (あんた)　　キリストハン (キリストさま)

ホカサン (ほかのお方)　　オカイサン (おかゆ)

オハヨーサン (お早う)

(2) 動詞

カサデモ　カッテ　カエロカ。(傘でも借りて帰ろうか。)

「借りて」の意のカッテの終止形は「借りる」ではなく,「借る」(五段活用動詞) である。「買って」はコーテと言う。

(3) 形容詞

アカイ (明るい)

アコ　ナッテキタ。(明るくなってきた。)

オトロシ (厄介だ・面倒だ)

[歳とるとだんだん] オトロシ　ナッテモテナー。

(4) 副詞

ドナイ (どのように), コナイ (このように), ナンボ (いくら) などの大阪に通じる事象がある。

(5) 挨拶ことば

路上の出会いの挨拶では, 朝はオハヨーサン, 昼はコンニチワ, 夜はコンバンワが普通であるが, たいていはそれに続いて「どこに行くのか。」と問うことばが添えられる。訪問を受ける応辞には「オコシ。」(いらっしゃい。), 謝辞や讃辞を受ける応辞には「イーエ　ナカナカ。」(いいえ, どう

いたしまして。）など。

参考文献

鏡味明克（1987）「言語」五條市史編集委員会編『五條市史 新修』五條市役所
鏡味明克（1988）「奈良県の言語」奈良県史編集委員会編『奈良県史 13 民俗下』名著出版
岸田定雄（1982）『現創新書 4 近畿民俗叢書 3 大和のことば―民俗と方言―（上）』現代創造社
岸田定雄（1982）『現創新書 5 近畿民俗叢書 4 大和のことば―民俗と方言―（下）』現代創造社
佐治圭三（1977）「奈良県吉野郡南部方言地図―その一部の中間報告―」『女子大文学』28 大阪女子大学国文学研究室
新藤正雄（1949）『大和方言集』大和地名研究所
都竹通年雄（1955）『近畿方言双書 第3冊 奈良県北部方言覚書』近畿方言学会
西宮一民（1962）「奈良県方言」楳垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂
西宮一民（1982）「奈良県の方言」飯豊毅一，日野資純，佐藤亮一編『講座方言学 7 －近畿地方の方言－』国書刊行会
廣濱文雄（1986）「大和のことば」天理大学学術研究会編『天理大学学報 別冊2』天理大学学術研究会
稲田浩二，小澤俊夫責任編集（1977）『日本昔話通観 15 三重・滋賀・大阪・奈良・和歌山』同朋社

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿，および，『奈良県文化財全集 第17集 奈良県の方言－奈良県方言収集緊急調査報告書－』（奈良県教育委員会，1991年）によるものである。）

奈良県五條市1981凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーナンデス　　ヨソレデ　ワタシガ　イッタンデス

そうなんですよ。　それで　私が　行ったんです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように、開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／　「文字」なんですね。

[ ]　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］乗せて

＝　　〈全角〉

［ ］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔 〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔 〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，収録県名と，そのページの方言音声が収録されているCDのトラック番号を示している。「奈良01-1」はCDトラック番号が01で，その1ページ目ということである。「奈良01-1」「奈良01-2」……「奈良01-7/02-1」……「奈良11-9」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。 ↑01 ， 01↑02 ，……11↑12 ， 12↑ のように表示される。

第12巻のCD（65分24秒）には，奈良県五條市の談話，【趣味と病気，商売と跡とり，害虫と自然】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を基準として表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.29,1.1	p.35,1.15	0:03:12
02	p.35,1.17	p.42,1.7	0:02:59
03	p.42,1.7	p.47,1.15	0:03:00
04	p.47,1.15	p.53,1.5	0:02:55
05	p.53,1.5	p.59,1.1	0:03:02
06	p.59,1.3	p.65,1.3	0:03:01
07	p.65,1.5	p.71.1.1	0:03:11
08	p.71,1.3	p.75,1.7	0:02:20
09	p.75,1.9	p.81.1.3	0:02:53
10	p.81,1.5	p.88,1.1	0:03:05
11	p.88,1.1	p.96,1.3	0:04:01
計			0:33:39

奈良県五條市1981談話

収録地点　　奈良県五條市五條（ごじょうしごじょう）

収録日時　　1981（昭和56）年9月15日

収録場所　　――――――

話題　　趣味と病気の話，商売と跡取り，害虫と自然

話者

A　男　明治40年生　（収録時74歳）
B　女　大正12年生　（収録時58歳）

調査員

男　（収録談話中に発話なし）

収録時間（CD）　33分39秒

なお，「各地方言収集緊急調査」の報告書として，奈良県教育委員会によって『奈良県文化財全集 第17集 奈良県の方言－奈良県方言収集緊急調査報告書－』（奈良県教育委員会文化財保存課編集・奈良県教育委員会発行，1991（平成３）年３月31日）が作成されている。

【趣味と病気，商売と跡とり，害虫と自然】

話し手

A　男　明治40年生　(収録時74歳)
B　女　大正12年生　(収録時58歳)

1A：アー。　(B　ンー)　ソノ、　X1サントー　オンナジ
ああ。　(B　んー)　その、　X1さんと　同じ
↑01
＊＊＊デ　ソノー　X2サンモナー。
＊＊＊で　その　X2さんもねえ。

(B　フーン。フン　フン　フン)　アルモー、　ンー、　ワリヤイニ、
(B　ふうん。ふん　ふん　ふん)　あれも、　んー、　割合に、

ノンキソーニ　ヤッテ　ヤットルラシーナ。
暢気そうに　やって、　やっているらしいね。

2B：アー　アー　チョーム〔1〕サンナ。
ああ　ああ　長夢さんね。

3A：アノヒトモ　アシー　タタンノヤー。
あの人も　足［が］　立たないんだ。

4B：ソー　ソー　ソー。　(A　ナ)　セヤケ　　アタマワナ、
そう　そう　そう。　(A　ね)　だけ［ど］　頭はね、

ワルイナイサカイナ。
悪くないからね。

5A：ウン、　ソラ　　ソー、　アタマ　　ワルナイ。
うん、　それは　そう、　頭［は］　悪くない。

6B：アタマ　　ワルイナイシ　ホテ　　テーガー　イゴイテ　ジー
頭［は］　悪くないし　　そして　手が　　動いて　　字［を］

カケルサカイナ。　(A　ン　　ソー　ソー　ソー　ソー)　ホンデ
書けるからね。　　(A　うん　そう　そう　そう　そう)　それで

アシダケガ　マー　イゴ、ケヘン　テ　ユー、ダケデナー。
足だけが　　まあ　動かない　　と　いうだけでねえ。

7A：ハー　ハー　ハー　ハー。　カタメーワー　ワルインデケド　コラー
はあ　はあ　はあ　はあ。　片目は　　悪いんだけど　　これは

マエカラヤハカイナー。
前からだからねえ。

8B：アー　メー　　ワルハンノケ。
ああ　目［が］　お悪いんですか。

9A：ハー。　(B　フーン)　ドクガンリューア　アノヒトワ。
はあ。　(B　ふうん)　独眼龍だ　　あの人は。

10B：アレー。　(A　ハー)　フーン。
あれ。　(A　はあ)　ふうん。

11A：セヤケド　ソラー、　ソノー、　サイキンニ　ワン　ナッタワケデナイシ。
だけど　それは、　その、　最近に　悪く　なった訳ではないし。

(B　フン)　アノ　モー　ソラ　モー　ナラサレトルサカイニ、
(B　ふん)　あの　もう　それは　もう　慣れておられるから、

(B　フン)　ン　ヒトツデ　モー　ジューブン　ヨーワ　タセルンデ。
(B　ふん)　うん　ひとつで　もう　十分　用は　足せるので。

(B　アー)　タダ　アルカレン　チュダケノコトデナー。
(B　ああ)　ただ　歩けない　というだけの事でねえ。

12B：フン。　ホンデ　アノヒトカッテ　モー　ソノ　タッシャナトキカラナ、
ふん。　それで　あの人だって　もう　その　達者な時からね、

マー　エー　カイタリナ、(A　ソ)　センリュー　ツクッタリ、
まあ　絵[を]　かいたりね、(A　そう)　川柳[を]　作ったり、

ソンナー　アノー　シュミー、　モットルサカイナ　アナイシテ
そんな　あの　趣味[を]、　持っているからね　ああして

ビョーキン　ナッタカッテナー　(A　アー　アー　アー　アー)
病気に　なったってねえ　(A　ああ　ああ　ああ　ああ)

ソレオ　マー　イキガイニ　シテナー。　(A　アー　ソエデ　マー)
それを　まあ　生きがいに　してねえ。　(A　ああ　それで　まあ)

マー　ソノー　クヨクヨ　クヨクヨ　マイニチ　セントナー、
まあ　その　くよくよ　くよくよ　毎日　しないでねえ、

(A　アー　アー)　スゴシテ　イケルケォ　コレガ　ナンーニモ
(A　ああ　ああ)　過ごして　いけるけど　これが　何も

シュミノナイシト　アナイ　ナッテ　ミナハレ。　モー　ホンマニ
趣味のない人［が］ああ　なって　ごらんなさい。もう　本当に

ウツビョーニ　カカルカダッセ、(A　ダンダン　モ　ススス)
うつ病に　かかるかですよ、(A　だんだん　もう　××)

ボケテシマウカナー　アタマ。
ぼけてしまうかねえ　頭。

13A：ススンデシマウバッカリン　ナンネナー。
［病状が］進んでしまうばかりに　なるんだねえ。

14B：フン。　ソナイ　ナリマス　(A　フーン)　ホンデ　モー
ふん。　そう　なります。(A　ふうん)　それで　もう

アーユーヒトノホーガ、　モー、　ソンナ
ああいう人の方が、　もう、　そんな

シュミノナイヒトノホーガナー、　ビョーキ　(A　フーン)
趣味のない人の方がねえ、　病気［の］(A　ふうん)

ススムノ　ハヤイシ　(A　フン)　ヨワンノ、
進むの［が］早いし　(A　ふん)　弱るの［が］、

ハヨ　ナリマスワナー。
早く　なりますよねえ。

15A：フン。　ソー。　ソーナル　ト　オモウワナー。　（B　ンー）
ふん。　そう。　そうなる　と　思うよねえ。　（B　ふうん）

ンデ　アノヒトワー　ショーギン　スキエ。　（B　アー）
それで　あの人は　将棋が　好きで。　（B　ああ）

ホナ、　ショーギノトモダチガー、　アノー　チョイチョイ
そしたら、　将棋の友達が、　あの　ちょくちょく

キテクレルソーナー。　（B　ハー）　オンデー　キテクレントキワ
来てくれるそうだ。　（B　はあ）　それで　来てくれない時は

ワガメ　ヒトリデ　サスンヤ。
自分　ひとりで　さすんだ。

16B：アッレー。　（A　ハー）　ヒトリデ　ショーギ　デキマンノケー。
あらあ。　（A　はあ）　ひとりで　将棋［が］　できるんですか。

アイテ　ドー　{笑}
相手［が］　××　{笑}

17A：マー　ゴーデモ　ショーギデモ　デケルラシ　アレ　シンブンニ
まあ　碁でも　将棋でも　できるらしい　あれ　新聞に

チョイチョイ、　ノットルワナー。
ちょくちょく、　載っているよねえ。

18B：ハーン。　ホデ　　コー　ウッタラ　アイテガ　コー、
はあん。　それで　こう　打ったら　相手が　　こう、

クル　ッチョヨニシテ　　アイテノブンモ　ウチマスンヤロ。
くる　というようにして　相手の分も　　打ちますんでしょう。

(A　ソア　　ソア　　ソヤ。　{笑})　フーン。
(A　そうだ　そうだ　そうだ。　{笑})　ふうん。

19A：ホンデ、　マー　イツマデ　イテモー　カツモンモ　マケルモンモ
それで、　まあ　いつまで　いっても　勝つ者も　負ける者も

デケランカモワカランケドー。　(B　フーン)　イヤ　コーユー
できないかもしれないけど。　(B　ふうん)　いや　こういう

キテモ　　アル、　(B　フン)　コーユー　テモ
きて［＝打ち手］も　ある、　(B　ふん)　こういう　手も

アル　ッチューコトワ　(B　フン)　ジブンデ　ヤッパリ、
ある　ということは　(B　ふん)　自分で　やはり、

ヤットリャー　ハッケンスルンヤロナ。　(B　アー)　イママデ
やっていれば　発見するんだろうね。　(B　はあ)　今まで

キー　　ツカンダケドモ　　(B　フン　フン。　フン)
気［が］　つかなかったけれども　(B　ふん　ふん。　ふん)

コー　ナッタトキニワ　コー　ヤッタラ　(B　フン　フン)
こう　なった時には　こう　やったら　(B　ふん　ふん)

タスカル　ト。　（B　フン）　ユーフナコト
助かる　と。　（B　ふん）　［そう］いうふうなこと［が］

ワカッテクンネン　タブン。
わかってくるんだ　たぶん。

20B：アー。　アンナ　ショーギヤ　ゴーデモ　ソラ　モー　オクワ　フコテ
ああ。　あんな　将棋や　碁でも　それは　もう　奥は　深くて

フコテ　（A　{笑}）　ヘンナモン、　ナー。
深くて　（A　{笑}）　そんなもの、　ねえ。

（A　ソーラシー　＊＊ヤ）　ハテシナイサカイ、　ンー　ドコマデー
（A　そうらしい　＊＊だ）　果てしないから、　んー　どこまで

アノー　デ〔2〕　モー　エー　ッチューコト　アレシマヘンワナ。
あの　で　もう　いい　ということ［が］　ありませんよね。

（A　アー）　ナンボナト、　テー　ア　アルラシーサカイ。
（A　ああ）　いくらでも、　手［が］　×　あるらしいから。

（A　アー）　ナー。　フーン。
（A　ああ）　ねえ。　ふうん。

01↑02

21A：ワシラ　ソナイ　ソー、　ショーギモ　アカナー、　ゴーモ
私［は］　そう　その、　将棋も　だめなら、　碁も

ヨー　ウタン　ナー。　（B　ホー）　モ　コレ　サッパリ　ソノ、
打てない、　ねえ。　（B　ほう）　もう　これ　さっぱり　その、

ソンナハナシ　デタトキニワ　モー.　{笑}　タダ
そんな話［が］　でた時には　もう　{笑}　ただ

22B：ソノカーリ　ホカノコト　ミナハレ　ナンデモ　シハリマスワナ。
そのかわり　他の事　ごらんなさい　何でも　なさいますよね。

23A：イーヤ　ナンデモ　ッテユーコト　ナイ　モ、　ダンダン
いや　何でも　っていうこと［は］　ない、　も、　段々［と］

オトロシナッテモーテ。　{笑}
じゃまくさくなってしまって。　{笑}

24B：フン。　イヤ　ワタシカッテナ　（A　コンキー）　アノ
ふん。　いや　私だってね　（A　根気）　あの

リョコーノトキノナー　（A　{笑}）　キロクナ、　（A　ウー）
旅行の時のねえ　（A　{笑}）　記録ね、　（A　ううう）

アルバムイ　ハッテナ　シャシン。　（A　アー）　ホテー
アルバムへ　貼ってね、　写真［を］。　（A　ああ）　そして

アノー　ナニ　ショー　ト　オモテ、　イヤー
あの　あれ［を］　しよう　と　思って、　いや

センキョ〔3〕サンノ　ミセテモータラナ　イヤ　コナイ
仙居さんの［を］　みせてもらったらね　いやあ　こう

シトイタ　オモイデン　ナルナー　ト　オモテ　オモイモッテ　コノ、
しておいたら　思い出に　なるなあ　と　思って　思いながら　この、

ア、　アノ　シャシン　　タマッテシモテ。　　（A　アー）　ホイテ
×　　あの　写真［が］　たまってしまって。　（A　ああ）　そして

イッペン　アルバム　　セーリ　モ　　ショーガツノーヤスミコソ
一度　　アルバム［を］　整理　　もう　正月の休みこそ

アルバム　　セーリセンナン　　ト　オモテ、　シトッタ
アルバム［を］　整理しなければならない　と　思って、　していたら

ショーガツニ　ナッタラ　イヤ　ハツモーデッタラ
正月に　　なったら　いや　初詣だとか

ダレヤラ　キタ　　ユタラ　　（A　{笑}）
誰か［が］　きた［と］　いったら　（A　{笑}）

ヒトッツモ　デケシマヘンヤロ　　（A　アー）　ホイ
ひとつも　できやしませんでしょう。　（A　ああ）　そして

ソノウチニ　モー　ヒー　　タッテ　チョッ　　コナイダ、
そのうちに　もう　日［が］　経って　ちょっと　この間、

ヤット　マー　アルバムイナ、　（A　ハー）
やっと　まあ　アルバムへね、　（A　はあ）

アノー、　ハルダケ　ハッタンナ。　（A　アー）　ホテ
あの、　貼るだけ　貼ったのね。　（A　ああ）　そして

ソコイ　ヤッパイ　ネンガッピ　イレテ。　（A　アー）　ホテー
そこへ　やはり　年月日［を］　入れて。　（A　ああ）　そして

アノー、 チョットナー ナンカー カコカナ ット オモゥケ
あの、 ちょっとねえ 何か 書こうかな っと 思うけ［ど］

ナッカナカ ソナイ シヨー ト オモタラ ダイブ テマ
なかなか そう しよう と 思ったら 大変 手間［が］

カカルワ ヤッパィ ソノトキ ソノトキニ、
かかるよ。 やはり その時 その時に、

（A モ カエッタラナ。 ソ、 ソア ソア） ナー。
（A もう 帰ったらね。 そ、 それは そうだ） ね。

（A ハー） モー アタマイ アタラシートキニナー。
（A はあ） もう 頭に 新しい時にねえ。

（A アー） カンゲキノ。 （A アー） アノ チャット
（A ああ） 感激の。 （A ああ） あの ちゃんと

シトカナアキマセンワ。
しておかないとだめですよ。

25A：ナー、 ヒトツー ヒトツオ カタヅケテイケバナー。
ねえ、 ひとつ ひとつを 片付けていけばねえ。

（B ハー。 ハー） デケルケドモー、 ヤー マター
（B はあ。 はあ） できるけども、 やあ また

コド モー コンド ツイデニ ヤロー。
今度 もう 今度 ついでに やろう。

26B：コンド　スルワ　ト　オモトッタラ
　　今度　　するわ　と　思っていたら

27A：ホタ　　マター　ツギノー　　マタ　デケル、　(B　フン　ソー)
　　そしたら　また　　次の［が］　また　できる、　(B　ふん　そう)

　　コ　コ　コレモ　ツイデヤ。　(B　ソーナ)
　　×　×　これも　ついでだ。　(B　そうよ)

　　ツイデ　ツイデン　ナッテモタラ　　モー　{笑}
　　ついで　ついでに　なってしまったら　もう　{笑}

28B：ホンーマニ　アキマセンワ。
　　本当に　　だめですよ。

29A：ヤルトキ　　ノーナッテモテナー。　　(B　ナー)　アー。
　　やる時［が］　なくなってしまってねえ。　(B　ねえ)　ああ。

　　(B　フーン)　ホテー　カレワ　ソノー　スモーガ　スキデナ。
　　(B　ふうん)　そして　彼は　　その　　すもうが　好きでね。

30B：チョーム〔1〕サン。
　　長夢さん。

31A：ハー。　(B　ハー)　オーズモー　イマー　マー　アキバショ
　　はあ。　(B　はあ)　大相撲　　今　　まあ　秋場所［を］

　　ヤッテマスノデ。　　(B　フーン)　ア　マ　ネンニ　ロッカイー
　　やっていますので。　(B　ふうん)　あ　ま　年に　　6回

ソノー　バショガ　アルンデ　（B　フン）　ホンデー　（B　アー）
その　　場所が　　あるので　（B　ふん）　それで　　（B　ああ）

シトツカラ　ヒトツマデワ　ワリアイニー、　アン、　ン　ミジカイー、
ひとつから　ひとつまでは　割合に、　　あの、　ん　短い、

（B　フン）　イー　ヒニチデ　マタ　ソノ　ツギガ　クル　トー。
（B　ふん）　ええ　日数で　　また　その　次が　　来る　と。

（B　アー）　コンド　キューシューバショヤー　（B　フン　フン）
（B　ああ）　今度　　九州場所だ　　（B　ふん　ふん）

ホラ　ナゴヤバショ、　（B　フン）　マタ　トーキョーヤ
ほら　名古屋場所、　　（B　ふん）　また　東京だ

ッチュヨーナ、　（B　フン、　フン）　ホンデ　アレー　ヤッパリ
というような、　（B　ふん、　ふん）　それで　あれ　　やはり

ソノ　ヒ、　ヒーキオ　モットンヤー。　{笑}
その　×　　ひいきを　持っているんだ。　{笑}

32B：アー。　ホンデ　イマ　マタ　ナンダンナ　　チヨノフジカナー
ああ。　そして　今　　また　あれですね　　千代の富士かな、

（A　アー　アー）　アシ、　　ネンダシテー　アノー
（A　ああ　ああ）　足［を］、　捻挫して　　あの

キュージョーデッシャロー。　（A　＊＊）　ホデ　　タカミヤマ
休場でしょう。　　（A　＊＊）　それで　高見山［が］

キュージョーデスヤロー。　ホデ　　ニンキリキシ　　ミナハレヨ。
休場でしょう。　　それで　人気力士［を］　ごらんなさいよ。

フタリモ　キュージョーン　ナッタラ　チョットナー。（A　アー　{笑}）
ふたりも　休場に　　なったら　ちょっとね。　（A　アー　{笑}）

オーサカバショナー。　ホイ　　チヨノフジ　　ミータイ　ト
大阪場所ねえ。　　それで　千代の富士［を］　見たい　と

オモテ、　イクヒト　　オーデ　オンノニナー。
思って、　行く人［が］　大勢　　いるのにねえ。

（A　ソヤ　　ソヤ　　ソヤ）　　フーン。　アリヤー
（A　そうだ　そうだ　そうだ）　ふうん。　あれは

エライコトン　ナッタナー。
大変なことに　なったねえ。

33A：アレ、　　キュージョースンカナー。
あれ［は］、　休場するのかな。

34B：キュージョーシマスワ。
休場しますよ。

35A：フーン。　キノーノトコデ　　アレ　ダイブ、
ふうん。　きのうのところで　あれ　大分、

36B：キノーデナ、　　（A　イタソヤッタカラナー）
きのう［の取り組み］でね、　（A　痛そうだったからねえ）

コノ　イタイホーノアシナ、キューット　コナイ　ナッテマシタワエー。
この　痛い方の足ね、　きゅっと　こう　なっていましたよ。

37A：サー。　オリウトキナー。　モー。
そうだ。［土俵から］　下りる時ねえ。　もう。

38B：フーン。　ホデ　ポキット　オト　ナリマシテンヤト。
ふうん。　それで　ポキッと　音［が］　なったんですって。

（A　フーン　{笑}）　{笑}　ホンデ　ココガナ、（A　フーン）
（A　ふうん　{笑}）　{笑}　それで　ここがね、（A　ふうん）

02↑03

ヤッパリ　ソラ　ムリデ　モー　チカラ　ツッパラレシマヘンワナ
やはり　それは　無理で　もう　力［が］、つっぱれませんよね。

コレ　アシデ　ツッパンノ　イチバン　ダイジヤノンナー。
これ　足で　つっぱるの［が］　一番　大事なのにねえ。

（A　アー。　ソーカイ）　ホンデニ、　アノー　キュージョー
（A　ああ。　そうかい）　それで、　あの　休場

スルラシーデスワ。（A　フーン）　セッカク　ヨコヅナニ
するらしいですよ。（A　ふうん）　せっかく　横綱に

ナッテナー。（A　ハー　{笑}）　ンー。　マタ　アンナヒト
なってねえ。（A　はあ　{笑}）　んー。　また　あんな人［は］

ワカイサカイ　ジキニ　ナオリマスヤロケド。（A　ンー。　ンー）
若いから　すぐに　治るでしょうけど。（A　ふうん。　ふん）

フン。　ナー　カラダノコショーワ　イチバン、　アンナ、
ふん。　ねえ　体の故障は　　一番、　　あんな［の］、

カナイマセンデナー。
かないませんよね。

39A：アー。　マー、　マー　アノヒトワー　マ、　スモートリデ
ああ。　まあ、　まあ　あの人は　　ま、　相撲取りで

ユタラ　ケーリョーキューヤハカイナー。
言ったら　軽量級だからねえ。

40B：ソー　ソー　ソー。　（A　ナー）　ソラー　タカミヤマラノ
そう　そう　そう。　（A　ねぇ）　それは　高見山なんかの

（A　ソノー　ソノ）　コト　　オモタラナー。　（A　{笑}）
（A　その　　その）　こと［を］　思ったらねえ。　（A　{笑}）

オーカラー　アノ　キタノウミヤタラ　アノ　オンナ　ヨコズマデモナー。
それから　あの　北ノ湖だとか　　あの　同じ　横綱でもねえ。

41A：モ　オトナトー　コドモ　ッチューヨィ　モット　（B　フン）
も　大人と　　子供　　というより　　もっと　（B　ふん）

ヒドイグライヤー。　（B　ナー）　フン。
ひどいぐらいだ。　（B　ねえ）　ふん。

42B：チョード　アノー　マエノ、　ワカノハナー、テユー、　ア、
ちょうど　あの　　前の　　若ノ花っていう［か］、　あ、

ワカノハナ、　アリマシタヤロ。　（A　ハー）　イマノ
若ノ花［が］、　いましたでしょ。　（A　ああ）　今の

ワカノハナノ、　（A　ア　モ　　ヒトツ＊）　オヤ。　（A　アー）
若ノ花の、　　（A　あ　もう　ひとつ＊）　親。　　（A　ああ）

トカ　アノ　タイホートカ。　（A　アー　アー　アー　アー）
とか　あの　大鵬とか。　　（A　ああ　ああ　ああ　ああ）

アンナー、カタデンナ。　タカノハナトカ。　（A　フン）
あんな型ですね。　　貴ノ花とか。　　（A　ふん）

アーユーフーナ　アノ　チョット　マー　ミーノ
ああいうふうな　あの　少し　　まあ　身の

キンニクノシマッタホーノナ、　（A　ン　　ソー）
筋肉のしまった方のね、　　（A　うん　そう）

アンコガタヤナシニ。
あんこ型じゃなくて。

43A：キンニクシツナホーデナ。
筋肉質な方でね。

44B：キンニクシツノホーデナー。　（A　ハー）　ホンデ　ココノー
筋肉質の方でねえ。　　（A　はあ）　それで　ここの

ウデノキンニクデモ　（A　ナー。　アノー）
腕の筋肉でも　　（A　ねえ。　あの）

モリアガッテマスワナ。　（A　ウン　ウン　ウン）　スゴイワ。　ナー。
もりあがっていますよね。　（A　うん　うん　うん）　すごいよ。　ねえ。

45A：フンデンー、　マー　ソノー　ジューリョーキューニ　クラベタラ、
それで、　まあ　その　重量級に　比べたら、

ソノ、　カラダデワ、　ツイテイケンハカイニ、　（B　フン）　ヤッパリ
その、　体では、　ついていけないから、　（B　ふん）　やはり

イジトカ、　（B　フン）　ワザトカナ、　（B　フン）　ソーユモンデ
意地とか、　（B　ふん）　技とかね、　（B　ふん）　そういうもので

アレ　イキマスワナー。　（B　ソラ　ソーダンナ）　デー
あれ　いきますよねえ。　（B　それは　そうですね）　それで

ソレダケニ　ヤッパリ、　ジブンノカラダニ　ムリオ　ソノ
それだけに　やはり、　自分の体に　無理を　その

カサネルコトン　ナル。　（B　ソー　ソー　ソー　ソー　ソー。
重ねることに　なる。　（B　そう　そう　そう　そう　そう。

フン）　ホンデンー　カリニ　アンター、　ヒャクゴジュッキロト、
ふん）　それで　仮に　あなた、　150キロと、

ヒャッキロトッタラナー　（B　フーン）　チカラデワー　トア
100キロといたらねえ　（B　ふうん）　力では　それは

チョット、　ムリデワイ。　（B　ソラナー）　アー。　ソンデン
ちょっと、　無理だよ。　（B　それはねえ）　ああ。　それで

ソノ、 マー タカミヤマアタリワ ベットシテ、 (B フン) ムリオ
その、 まあ 高見山あたりは 別として、 (B ふん) 無理を

スルンデ、 (B フン) ン モー アシヤー、 テーヤトカ
するので、 (B ふん) うん もう 足だ、 手だとか [を]

コー ネンダヒタリナー。 (B ソーナー) アーユー
こう ねんざしたりねえ。 (B そうよ) ああいう

ジゴガ オーイワケデ。 (B ナー) アー。
事故が 多い訳で。 (B ねえ) ああ。

46B : ヤッパイ アノヒトラカッテ モー カラダガ モトデヤサカイナー。
やはり あの人達だって もう 体が 元手だからねえ。

(A ソー ソー ソーエ) カラダノモトデガ
(A そう そう そうよ) 体の元手が

コショーシタラナー、 (A ホァ モー) サッパリ
故障したらねえ、 (A それは もう) さっぱり

シャレシマヘンワ。
仕方ないですよ。

47A : ソラ モー、 アンマ テー オレタヨーナモンジャー。
それは もう、 あんま [の] 手 [が] 折れたようなもんだ。

ナー。 {笑}
ねえ。 {笑}

48B：フンー。　ソーダス　ソーダス。　{笑}　ナー。
ふん。　そうです　そうです。　{笑}　ねえ。

スポーツセンシュワナー　モー　トニカク、カラダガ　モトデヤサカイニ。
スポーツ選手はねえ　もう　とにかく、体が　元手だから。

アトノ、　アノー、　ナント　イッショデ　ダイリ
後の、　あの、　あれと　同じで　代理［が］

キカンノデナー。　（A　ソー　ソー　ソー　ソー）　ハー。　{笑}
きかないのでねえ。　（A　そう　そう　そう　そう）　はあ。　{笑}

（A　マー）　ホー　ホカノー、　アノー　ショーバイトカ
（A　まあ）　×　他の、　あの　商売とか

ナントカ　ッチュタラ　ダイリ　キクケドナー、　（A　アー）
何とか　といったら　代理［が］　きくけどねえ、　（A　ああ）

フーン　オイシャハンデモ　ダイリ　キカンシナー　アンマリ。
ふうん。　お医者さんでも　代理［が］　きかないしねえ　あまり。

{笑}　（A　{笑}）　ア　ナンカイドーノ　ムスコハンカッテ
{笑}　（A　{笑}）　あ　南海堂の　息子さんだって

03↑04

ミナハレナー　ワカイノニ、　ノーケッセンカ　ナンカン　ナッテ。
ごらんなさいねえ　若いのに、　脳血栓か　何かに　なって。

アノー　ニューインシテマスンヤロ。
あの　入院しているんでしょう。

49A：ソーラシーナー。（B フーン） アノー グアイ ワン
そうらしいねえ。（B ふうん） あの 具合［が］ 悪く

ナッタンデ ッチュタトキ （B フーン） キータケドモ、
なったので といったとき （B ふーん） 聞いたけれども、

ソレカラ ノチー ドンナヨータイトカ ンナ、 シランケドナー。
それから 後 どんな容態とか そんな、 知らないけどねえ。

（B フン） チョームクンワ、 アコノムスコワ ヤッパ、 アレ、
（B ふん） 長夢君は、 あそこの息子は やはり、 あれ、

オンナコト ヤッテマッシャロ ウチト。
同じこと［を］ やっているでしょう うち。

50B：アー ハー ハー ハー ハー ハー。 ヤッテマス ヤッテマス
ああ はあ はあ はあ はあ はあ。 やっています やっています

（A ナー） フン。
（A ねえ） ふん。

51A：ホンデー ン カンシンガ アルンカヒテ コナイダノ、
それで 関心が あるらしく この間の、

キターハガキニモナー、 （B ハー） ソノゴ ナンカイドーハンワ
来たハガキにもねえ、 （B はあ） その後 南海堂さんは

ドナイヒテマスカ ッチュヨナコト カイテアンネケド、
どうしていますか というようなこと［が］ 書いてあるんだけど、

（B　アー）　ソノ、　ソバニ　オル　ワシワ　ワカレヘンガナー。
（B　ああ）　その、　近くに　いる　私は　わからないじゃないか。

52B：アー　（A　{笑}　チョ）　テンリビョーイン　ニューインシトル　ッテ
あー　（A　{笑}　××）　天理病院［に］　入院している　って

キキマシタワ。　（A　ア　サヨカー）　ウン。
聞きましたよ。　（A　あ　そう［です］か）　うん。

53A：イズレ　マー、　チョット、　チョーキセンヤナー　ンナー、　ビョーキニ
いずれ　まあ、　ちょっと、　長期戦だねえ　そんな、　病気に

ナルトー。
なると。

54B：ウン。　アノナー、　クモマッカシュッケツ　ッチューヤツデナ、
うん。　あのねえ、　くも膜下出血　というやつでね、

（A　ハー　ハー）　ホンデ　アレワー　アノー、　シュジュツ
（A　はあ　はあ）　それで　あれは　あの、　手術［を］

シタラナー　（A　フン）　ア　ナオルシト　オーインデスンヤト、
したらねえ　（A　ふん）　あ　治る人［が］　多いんですって、

アノ　シュジュツ　シテ　ソノ　シュッケツシトルチーオ
あの　手術［を］　して　その　出血している血を

トッテシモタラナ。　（A　ンー）　フン。　ホンデ　ソノーン
取ってしまったらね。　（A　んー）　ふん。　それで　その

ジキ　　ミテ　シュウツ　　スンチガイマッケ　　アノヒトラ
時期［を］　見て　手術［を］　するんじゃないですか　あの人は

マダ、　（A　フン）　ワカイシナー。
まだ、　（A　ふん）　若いしねえ。

55A：ナッ。　ホラ　ア　アノヒトラモ、　　マー　オクサンモー、　マ
ねっ。　ほら　×　あの人なんかも、　まあ　奥さんも、　　ま

テダスケワ　ヤットッタケドー、　（B　フン）　オクサンニワー、
手助けは　やっていたけど、　（B　ふん）　奥さんには、

アノー　ン　ツマリ　シカク　ッチュヨナモン　　ナイヨッテニ、
あの　うん　つまり　資格　というようなもの［が］　ないから、

56B：アレヘンサカイナッ。　ホンデ　ソンナン　デケシマヘンヤロ。
ないからねっ。　それで　そんなの　できませんでしょう。

（A　アー　ホンデン）　ソンナ、　ハイシャカッテ　イマー
（A　ああ　だから）　そんな、　歯医者だって　今

ヤカマシー　ミナハレヨ、　　（A　アー）　ン　シカク
やかましく　ごらんなさいよ、　（A　ああ）　ん　資格［が］

ナイノニ　ミトッタラ　（A　アー）　エライコトデスヤロ。
ないのに　診ていたら　（A　ああ）　大変なことでしょう。

（A　ホンデン）　ホンデー　アレーカッテナ、　アコノモ
（A　だから）　それで　あれだってね、　あそこのも

ダイリノセンセ　キテクレテマスンヤト。
代理の先生［が］　来てくれているんですって。

57A：ソーラシーネナー。　（B　フン）　セヤケロー
そうらしいんだねえ。（B　ふん）　だけど

ダイシン　ッテユート　アノー、　カンジャカラ　ユワヒタラ
代診　っていうと　あの、　患者から　言わせたら

ヤッパイ、　ソノセンセオ　タヨリニ　イクヒトワナー、　（B　ンー）
やはり、　その先生を　頼りに　行く人はねえ、　（B　んー）

ッパイ　カワッタシトデワ　モト　（B　ソー　ソー　ソー　ソー）
やはり　代わった人では　もっと（B　そう　そう　そう　そう）

ン　ソレイジョーノヒトガ　カリニー　ハイッタト　（B　ハー）
ん　それ以上の人が　仮に　入ったと　（B　はあ）

シタカッテ、　（B　フン）　ヤッパリー、　シンヨーチュノガ
したって、　（B　ふん）　やはり、　信用というのが

アルワナ。　チガウモノナー。　{笑}
あるよね。　違うもんねえ。　{笑}

58B：ソー。　ソー　ソー　ソー。　ウン。　ナー。　（A　アー）
そう。　そう　そう　そう。　うん。　ねえ。　（A　ああ）

セヤケドナ　マ、　ソノー　アンナンー　オイシャハンミタイニ
だけどね、　まあ、　その　あんなの　お医者さんみたいに

ヤッパイ　ミタテ　　ダイジヤサ、サカイニナー　ソラ、
やはり　見立て［が］　大事だからねえ　　それは、

ナンダッケド　コノゴロ　アノー、
あれですけど　この頃　あの、

チリョーワ　タイテー　キカイデ　シマスヤロ。
治療は　たいてい　機械で　しますでしょう。

（A　ンー　ソー　ソー　ソー　ソ　ナー）　ホンデー
（A　うん　そう　そう　そう　そ　ねえ）　それで

デンキ　カケテモラウトカナー。（A　アー　アー）
電気［を］　かけてもらうとかねえ。（A　ああ　ああ）

マッサージノ　ナンカ　キカイ　オイタールサカイ
マッサージの　何か　機械［が］　置いてあるから

ソコデ　ネテ　（A　フン　フン）　キタトカナー。
そこで　寝て　（A　ふん　ふん）　きたとかねえ。

（A　フン　フン）　ヨー　ユーテマスワ。　（A　フン　フン）
（A　ふん　ふん）　よく　言っていますよ。（A　ふん　ふん）

フン。　アンナン　モ　タイガイ　アノー、　ネンダシタシトガ
ふん。　あんなの　もう　たいがい　あの、　捻挫した人が

オーイデスワ。（A　ソラー）　ネンダトカナ。
多いですよ。　（A　それは）　捻挫とかね。

ホデ　リューマチトカナ。（A〔笑〕）　ハンナン　モ　チョット
それで　リューマチとかね。（A〔笑〕）　あんなの　も　ちょっと

ソンナモン、　チョーキセンノシトバッカシナ　クンノワ。
そんなもの、　長期戦の人ばかりね　来るのは。

（A　アー）　フン。　カンセツリューマチトカナー。
（A　ああ）　ふん。　関節リューマチとかねえ。

04↑05

59A：アー。　コドモ　テー　ヌケタンデトカー　（B　フーン）
ああ。　子供の　手［が］　抜けたんでとか　（B　ふうん）

モ、　ソンナン　オイワナー。
も、　そんなん［が］　多いよねえ。

60B：アー　ソー　ソー　ソー　ソー　ソー。（A　ハー）　フン。
ああ　そう　そう　そう　そう　そう。（A　はあ）　ふん。

ヨー　コノ　カターカラ　クット　コー　カタノ　コノー
よく　この　肩から　くっと　こう　肩の　この

ナニ、　ア　ホネ、　キュット　ヌケルヒト、　（A　ハー）
何、　あ　骨［が］、　キュッと　抜ける人［が］、（A　はあ）

ヨー　アリマスワナー。（A　ハー）　フーン。
よく　ありますよねえ。（A　はあ）　ふうん。

61A：＊＊＊　ウチノーマゴカッテ　アノ　オッ　オカグチ〔4〕
＊＊＊　うちの孫だって　あの　××　岡口［に］

オッター　ウエノホーノヤツネー　（B　フーン）　アイツ
いた　　上の方の奴でねえ　　（B　ふうん）　あいつ

ジテンシャニー　テンゴ　　ヒトッテ　ソレニ　マクッテ、
自転車に　　いたずら　していて　それに　転んで、

（B　ハー）　テー　　オレテヒモテナー。　（B　ハー）　ホテー、
（B　はあ）　手［が］　折れてしまってねえ。（B　はあ）　そして、

アイツワ、　コ　コ　コカラ　　コノ、　スネカラ、　コ
あいつは、　×　×　ここから　この、　すねから、　こう

シタノホーデー、　（B　ハー）　アコデ　ホネガ　フタツ、
下の方で、　　（B　はあ）　あこで　骨が　　ふたつ、

コー　アンネヤ、　（B　ハー）　コートデナー。　（B　フン）
こう　あるんだ、　（B　はあ）　これとでねえ。　（B　ふん）

アッチト　コッチトー。　（B　ハー）　ソレー
あちらと　こちらと。　　（B　はあ）　それ［が］

{笑いながら}　ニホントモ　オレテー　（B　イヤー）　ホエ
{笑いながら}　２本とも　　折れて　　（B　いやあ）　それで

コナイ　ナッテモテー。　　（B　ハー）
こう　　なってしまって。　（B　はあ）

ホレガ　ア　ソレモ　アコ　　イテナー、　　（B　ハー）
それが　あ　それも　あそこ［へ］　行ってねえ、（B　はあ）

コノー　ナオッタデ。　（B　アッレー）　モー　アンナン、
この　　治ったよ。　　（B　あらー）　　もう　あんなの、

ナントモ　アレヘンラシー。　（B　ハー）　アー。　モー　カンゼンニ
何とも　　ないらしい。　　（B　はあ）　ああ。　もう　完全に

ホンデー　ツゲータ　ッチューワケジャナー。
それで　　接げた　　という訳だねえ。

62B：ショーガッコントキ。　（A　アー　アー　アー　アー）　フーン。
小学校の時。　　（A　ああ　ああ　ああ　ああ）　ふうん。

（A　{笑}）　ア　ソーデスノカー。　（A　ハー）　モー　ナンラ
（A　{笑}）　あ　そうなんですか。　（A　はあ）　もう　何か

コートーガッコ　ッチュイマシタンカナ。
高等学校　　といいましたのかな。

63A：イヤ、　マダ、　（B　チューガッコ）　チューガッコニ　オンネ。
いや、　まだ、　（B　中学校）　　中学校に　　いるんだ。

（B　ホー）　フン。
（B　ほう）　ふん。

64B：イヤ　セー　　タカイサカイ　モ　　コートーガッコ
いや　背［が］　高いから　　もう　高等学校［へ］

イットルホドノ。　　（A　{笑}）　イツヤラ　ミナハレヨ
行っているほどの。　（A　{笑}）　いつだか　ごらんなさいよ

{スーと息を吸って}　アノー、　アエ　キョネンデシタカナー
{スーと息を吸って}　あのー、　あれ　去年でしたかねえ

アノー　X3　トーギュー〔5〕サン　ナクナッタトキニー
あの　X3　闘牛さん［が］　亡くなった時に

(A　ハー)　アー　オソーシキノトキ
(A　はあ)　ああ　お葬式の時［に］

ツレテイッテモライマシタヤロ、　(A　ハー)
連れて行ってもらいましたでしょう、　(A　はあ)

ホンデ　アノ　ヒーオ　ア　アノー　オソーシキ　シテ　ホテー
それで　あの　日を　×　あの　お葬式［を］　して　そして

イマノ　シモイチ〔6〕ノ　ミナハレヨ。　ケンダイカイヤッタカ、
今の　下市の　ごらんなさいよ。県大会だったか、

(A　アッ)　アノ　アキツソー　イキマシタヤナ、
(A　あっ)　あの　秋津荘［へ］　行きましたよね、

オクッテモライマシタヤナ。
送ってもらいましたよね。

65A：アッ　アキツソーエナッ。　ハー　ハー　ハー　ハー　ハー。
アっ　秋津荘へねっ。　はあ　はあ　はあ　はあ　はあ。

(B　ナー)　ハー。　{しばらく沈黙}
(B　ねえ)　はあ。　{しばらく沈黙}

66A：X4サンモ、　チョット　シバラク、
　　X4さんも、　ちょっと　しばらく、

　　ヨー　デオトランノデケドモ　（B　ハー）　アノー、
　　出会えていないのだけれども　（B　はあ）　あの、

　　コノアイダー　トショカンノー　カンチョーノナー、　（B　ハー）
　　この間　　図書館の　　館長のねえ、　　（B　はあ）

　　X5サンガナー　（B　ハー）　アノー、　アノヒトモ、
　　X5さんがねえ　（B　はあ）　あの、　　あの人も、

　　センニカラー　ニューインヒトッタンラシワー。
　　先だってから　入院していたらしいよ。

67B：アノヒトカテ　ドコヤラ　アシー　（A　{笑}　＊＊＊）
　　あの人だって　どこか　　足［が］　（A　{笑}　＊＊＊）

　　ドナイ　ナッタ　ッチュテマシタナー。
　　どうか　なった　っていっていましたねえ。

68A：アー。　コシ　　タタンニ
　　ああ。　腰［が］　立たない［よう］に

　　ナッテ＊マンネン　　テ。　　{笑}
　　なっているんです、　って［言っていた］。{笑}

　　（B　イヤー）　ホテー　ソノ　イトルー
　　（B　いやー）　そして　その　［お見舞いに］行っている

(B　フン)　トキニー、　アノー　シモイチノシトデ
(B　ふん)　時に、　あの　下市の人だ、

ッチュノガー　(B　ハー)　アノー、　カナリー
というのが　(B　はあ)　あの、　かなり

トシバエノージョーヒンナヒトー、　キトッタワー　チュテ。
年配の上品な人［が］、　来ていたよ　って言って。

(B　ハー)　ド、　ドンナヒトデッ、　イタラ
(B　はあ)　×　どんな人だ、［って］　言ったら

ソラ、　アノー　アコノヤスケ〔7〕ヤノナー、(B　ハー)
それは、　あの　あそこの弥助のねえ、　(B　はあ)

アノー　カンケーノアルヒトデ　ッチュテ。　(B　フーン)
あの　関係のある人だ　って言って。　(B　ふうん)

エ、　ホテー　ソレカラー、　アノヒトノー、カオヤ
え、　そして　それから、　あの人の顔や

カタチノコト、　アノー　コマゴマ　ユーテナー。
形のこと［を］、　あの　こまごま［と］　言ってねえ。

(B　フン)　キーテミタラ　ヤッパイー　イ　X4サンヤ、
(B　ふん)　聞いてみたら　やはり　×　X4さんだ、

X4サン　チュー　コトー　シランノヤ。　アノヒトワ
X4さん［だ］　という　ことを　知らないんだ。　あの人は

アン　マ　　カンケー　　ナイサカイナー
あの　まあ　関係［が］　ないからねえ。

05↑06

69B：フーン。　（A　フン）　ア　ド、　アノ　ナニ、
ふうん。　（A　ふん）　あ　×　　あの　何、

アノー　ヤスケー　イタラダッカィ。　ドコ　　イター、
あの　　弥助へ　　行ったらですか。　どこ［へ］　行ったら、

70A：イヤ　ゴジョ、　ゴジョービョーイン　イットッタンナ。
いや　××　　五條病院［に］　　行っていたん［だ］よ。

ホテ　　アノヒトワ、　X5ハンワ　ニューインシトルシ。
そして　あの人は、　　X5さんは　入院しているし。

（B　フン）　ソノヘヤエムイテ、　（B　フン）
（B　ふん）　その部屋へ　　（B　ふん）

アノー　ミマイニ　イカハッタ＊＊ナ。
その　　見舞に　　行かれた［んだ］ね。

71B：ア　　ミマイニ。　（A　ハー）　ハー　ハー　ハー　ハー
あ、　見舞いに　（A　はあ）　はあ　はあ　はあ　はあ

ハー　ハー　ハ。
はあ　はあ　はあ。

72A：ソノトキ　ソンナーハナシガ　アッター　チュテ。
その時　　そんな話が　　あった　　って言って。

73B：ハーー　ホンダ　　X4サンガ　ミマイニ　キマシタンヤナ。
はあ、　そしたら　X4さんが　見舞いに　きたんですね。

（A　ハー　ハー　ハー　ハー）　フーン。
（A　はあ　はあ　はあ　はあ）　ふうん。

74A：ホンデ、　X5サンニシテミタラー　ワシト
それで、　X5さんにしてみたら　　私と

X4ハントノカンケーモ　シレヘンシ。　（B　アー）　ナー。
X4さんとの関係も　　知らないし。　（B　ああ）　ねえ。

（B　フーン）　ホンデ　アノヒトワー　ソノ、
（B　ふうん）　それで　あの人は　　その、

ヤスケハントワ、　コーユーカカワリノアルヒトデ、
弥助さんとは、　こういうかかわりのある人で、［と］

（B　フン）　ユーテ、　ハナヒタンエー。
（B　ふん）　言って、　話したん［だ］よ。

（B　フン）　＊＊＊＊＊
（B　ふん）　＊＊＊＊＊

75B：ド　ド　ホンダ　　アノ　X4サンワナ、　（A　アー）
×　×　そしたら　あの　X4さんはね、　（A　ああ）

ヤスケノ　ドナイ　ナリマンノ。
弥助の　　どう　　なりますの。［＝弥助とはどういう関係になるんですの］

ヤスケノ、ムスコデスンカ。　ヤスケノ。
弥助の息子なんですか。　弥助の。

76A：アッレワ、　イマ　アノヒト、　アノヒトワ　ヨーシカモナー。
あれは、　今　あの人、　あの人は　養子かもな。

イマノヤスケハンワ。
今の弥助さんは。

77B：ア　イマノ。　アー　ソーデスンカー。　(A　フーン)　フーン。
あ　今の。　ああ　そうなんですか。　(A　ふうん)　ふうん。

78A：ソシテ　ホラー、　ワシモ　ハッキリトモ　ワカランノデケドナー。
そして　ほら、　私も　はっきりとも　わからないんですけどねえ。

(B　フン)　ナンカ　オモヤ　シンタクノカンケーカ
(B　ふん)　何か、　母屋［と］　新宅の関係か

ナンド　アッテ、　ソシテー　マー、　アノー、　アコノー
なにか［が］　あって、　そして　まあ、　あの、　あそこの

マ、　イ　ツルベズシナー。　(B　フン、　フン)　アノー
まあ　×　釣瓶ずしねえ。　(B　ふん、　ふん)　あの

スシーノ、　ケンキュートカ　ソノ　ツクリカタワ、　モー　スベテ、
すしの　研究とか　その　作り方は、　もう　すべて、

アノ　X4サンガ　サイハイオ　フットンネ、
あの　X4さんが　采配を　ふるっているんだ、

ホテ　ワガメ　ジブンデ　（B　アー　アー　アッ）
そして　自分が　自分で　（B　ああ　ああ　あっ）

ホーチョー　モッテナ。
包丁［を］　持ってね。

79B：フンー　フン　フンー　ヤッテマスワナー。　（A　ハー）
ふん　ふん　ふん。　やっていますよねえ。　（A　はあ）

フン　フン　フン　フン。　ホンデ　アノヒト
ふん　ふん　ふん　ふん。　それで　あの人［は］

アンナ　チョーリノ、　ナンカ　アノー　コト　シテマシタンケ
あんな　料理の、　何か　あの　事［を］　していたんですか、

ワカイカラ。　マンシューカ　ドコヤラ
若い［時］から。　満州か　どこか［に］

イットッタ　チュテマシタナ。
行っていた　と言っていましたね。

80A：サー。　{笑}　ソラ　イツゴロカラ　ヤリダッタノカ
さあ。　{笑}　それは　いつ頃から　やりだしたのか

ソラ　シランケドモナー。
それは　知らないけれどもねえ。

81B：フン、　マンシュー　イトッテ　ホテ、　アノ　シューセンーニ
うん、　満州［へ］　行っていて　そして、　あの　終戦に

ナッテカー　カエッテッタンチャイマンノ。
なってから　帰ってきたんじゃありませんの。

（A　フーン）　ナンカ　マンシューノホー　イットッタヨーニ、
（A　ふうん）　何か　満州の方［へ］　行っていたように

キーテマスデ。　（B　ハー　ハー　ハー　ハー）　フーン。
聞いていますよ。（B　はあ　はあ　はあ　はあ）　ふん。

（A　フン）　ホイテ　アノ、　X6センセカテ　アノ、
（A　ふん）　そして　あの、　X6先生だって　あの、

X6　ッチュテナ、　（A　ンー　ンー　ンー）
X6　っていってね、（A　んー　んー　んー）

アノー　オンナイ　X6デスヤロ。　（A　ハー）
あの　同じ　X6［という姓］でしょう。（A　はあ）

ゴジョー、　（A　ハー）　ヘ　X6　ッチューノ　ゴジョーデ
五條、　（A　はあ）　へ　X6　というの［は］　五條で

イッケンシカ　アレシマヘンワ。
1軒しか　ありませんよ。

82A：ソー　コッチワ　X6センセノアニキワ　オンネケドナー。
そう、　こっちは　X6先生の兄貴は　いるんだけどねえ。

（B　ア　ゴジョーニ）　アー。　シンマチ［8］ニ。
（B　あ　五條に）　ああ。　新町に。

83B：イヤッ。　ソーデンノ。　（A　ハー　ハー　ハー）
いやっ。　そうですの。　（A　はあ　はあ　はあ）

イヤー　ホンデ　ソノ、　X6ッチューノナ、　（A　ウン）
いやあ　それで　その、　X6っていうのね、　（A　うん）

アソコカテ、　ヤスケカテ　X6デスヤロ、　（A　ハー）
あそこだって、　弥助だって　X6［という姓］でしょう、（A　はあ）

デ　アコト　ナンカー　カンケー　アリマンネヤテナ。
［それ］で　あそこと　何か　関係［が］　あるんですってね。

84A：フーン。　ソーカモシレンナー。
ふうん。　そうかもしれないね。

（B　フン。　ソナイ　ユーテマシタワ）　アンマ、　ソノー
（B　ふん。　そう　言っていましたよ）　あまり、　その

ルイノナイー　セーヤカラヤナー。
珍しい　姓だからねえ。

85B：ハー。　ホンデンナ、　ソノー、　コーサイワ　シテナイケオナ、
はあ。　それでね、　その、　交際は　していないけどね、

（A　ンー　ンー）　ユキキ　シトレヘンケドナ、
（A　んー　んー）　行き来［は］　していないけどね、

（A　アー）　アノー　ドナイヤラ　ナリマンノヤ　ッチュテ
（A　ああ）　あの　どうにか　なるんです　と言って

コナイダナ、 （A フーン） アノー、 X4サン
この間ね、 （A ふうん） あの、 X4さん［が］

ユーテマシタワ。 （A ハー ハー ハー） フン。
言っていましたよ。 （A はあ はあ はあ） ふうん。

06↑07

86A：マー、 シンルイ ッテ ユテモー マー オジ オバ、ガ
まあ、 親類 って 言っても まあ おじ おばが

マ タッシャデアッタラー、 タガイニ マー イキキノ
ま 元気であったら、 互いに まあ 行き来の

アルケド、 （B フーン） モー、 イチダイ トンデ、
あるけど、 （B ふーん） もう、 1代 飛んで、

クダッタラナー。 （B ソーナー） モ ソンナン、 {笑}
下ったらねえ （B そうねえ） も そんなの、 {笑}

（B フン） ハナシ キータカッテ、 ソーケ ソーケ、
（B ふん） 話［を］ 聞いたって、 そうか そうか、［と］

ユートッテモ モー シリカラ ワスレテマウモンナー。
言っていても もう しりから 忘れてしまうものねえ。

87B：ナー。 ホテ アノ X6センセガナ、 アンナ、ショーバイ
ねえ。 そして あの X6先生がね、 あんな商売［が］

キライデナ、 （A アー） アンナー アノー
きらいでね、 （A ああ） あんな あの

リョーリヤミタイナ　アンナン　ンア　イラン　　チュテナ、
料理屋みたいな　　あんなの　あ　　いらない　と言ってね、

（A　アー　アー）　ホテ、　　{スーと息を吸って}
（A　ああ　ああ）　そして、　{スーと息を吸って}

ショーガッコノトキニ、　モー　デタ　　ッテ　ユータカナー。
小学校の時に、　　もう　[家を] 出た　って　言ったかな。

（A　フーン）　ソンナコト　　ユーテマシタデ。
（A　ふうん）　そんなこと [を]　言っていましたよ。

（A　{笑}　サヨカ〔9〕）　　フン。　ホンデ　ワタシー
（A　{笑}　そう [です] か）　ふん。　それで　私 [は]

ヤー　　ソンナン　シランダワー　　ト　ユーテマシタンヤケドナ。
いやあ　そんなの　知らなかったよ、　と　言っていたんですけどね。

（A　アー）　X7サンナ、　　（A　アー）
（A　ああ）　X7さん [が] ね、　（A　ああ）

オセツクレマシタンヤ。　（A　ハー　サヨカー）　　フン。
教えてくれたんです。　（A　はあ　そう [です] か）　ふん。

88A：マー、　ソラ　　ムカシワ　マー　ゴジョート　シモイチ
まあ、　それは　昔は　　まあ　五條と　　下市 [と]

ッタラー、　イロイロノーコトデ、　ソノ　　ツナガリワ
いったら、　色々の事で、　　その、　つながりは

ワリニ　フカカッタサカイナ。　（B　フーン）　ンデ　　マー
割に　　深かったからね。　　（B　ふうん）　それで　まあ

ニンゲンノ　ソーユー　ゴーリューモ、　カナリ　アッタンヤロ
人間の　　そういう　合流も、　　かなり　あったんだろう

ト　オモウケドナー。　（B　ソーデンナー）　ンデ　　ソラー
と　思うけどねえ。　（B　そうですねえ）　それで　それは

ナントカー　ナリマンネヤロ　　{笑}　ソレワ。
何とか　　なるんでしょう。　{笑}　それは。

89B：フン。　フン　オンナイミョージデナー、　（A　フーン）
ふん。　その　同じ名字でねえ、　　（A　ふうん）

ア　カズスクナイミョージヤサカイナー、　アノ、
あ　数［の］少ない名字だからねえ、　　あの

ヤッパイ　シンセキ、　ナンカノツナガリ　　アルラシーデスワ。
やはり　　親戚［か］、　何かのつながり［が］　あるらしいですよ。

（A　アー　ハー　ハー）　ンー　イヤー　ソーデンノカ
（A　ああ　はあ　はあ）　んー　いや、　そうなんですか

（A　フン）　X6センセノ、ニーサン　テ　　シン　アノ
（A　ふん）　X6先生の兄さん　　って　××　あの

シンマチニ　イマンノ。
新町に　　いますの。

90A：ハー。 チョットー アタシラヨリー ミッツホド ウエ、ヤケドナ。
はあ。 ちょっと 私らより 三つほど 上だけどね。

（B フン） ホテ イマー ソノ X6センセワ モー
（B ふん） そして 今 その X6先生は もう

ワシラヨイ チョット マター ソノグライ＊＊
私らより ちょっと また そのぐらい＊＊

シタン ナンネ。 トシカー ユータラ。
下に なるんだ。 年から 言ったら。

（B ハー ハー ハー） フンデンー
（B はあ はあ はあ） それで

91B：ハー ホタ X8センセワ。
はあ そしたら X8先生は。

92A：X8センセダッカイ。 （B ン ハー） アノヒトワ、 エー。
X8先生ですか。 （B うん はあ） あの人は、 ええ。

ハナオカセンタロ〔10〕ハン ッチュー コメヤヤッタンデケド。
花岡仙太郎さん という 米屋だったんですけど。

93B：フン フン ソーナ。 （A ナー） ソ アノーセンセナ、
ふん ふん そうね。 （A ねえ） そ あの先生ね、

（A フン） アノ キョーイクチョー モ ヤメマシタヤロ。
（A ふん） あの 教育長［を］ もう やめましたでしょう。

94A：ヤメマヒタンケー。
やめたんですか。

95B：フン、　X8サン。
うん、　X8さん。

96A：イツゴロナ。
いつ頃だい。

97B：イヤ　サイキンナ。
いや　最近［だ］よ。

98A：ア　{笑}　ソラ　トッツモ　シランダ。　（B　フン）
あ　{笑}　それは　ひとつも　知らなかった。　（B　ふん）

フーン。
ふうん。

99B：カラダガナー、　マー、　チョットー、　マエカラ
体がねえ、　まあ　ちょっと　前から

ニューインシタリ　タイインシタリ　シテマシタヤロ、
入院したり　退院したり　していましたでしょう、

アレ　シケンー、　（A　アー）　ケンサ　ウケニー
あれ［は］　試験、　（A　ああ）　検査［を］　受けに

イットッタラシーデスケドナ。　（A　アー　アー　アー　アー　アー）
行っていたらしいですけどね。　（A　ああ　ああ　ああ　ああ　ああ）

セャケド　アノー　ドコ　　ワルインカー　シリマセンケドナ、
だけど　あの　どこ［が］　悪いのか　知りませんけどね、

（A　ハー）　マー　アノー　ソンナ
（A　はあ）　まあ　あの　そんなに

ネテワ、イテハレシマセンケド、　（A　ハー　アー）　マー、
寝てはいらっしゃいませんけど、　（A　はあ　ああ）　まあ、

チョーシ　ワルイ　ッチュンデ　ソレ　キッショニ　モー
調子［が］　悪い　というんで　それ［を］　契機に　もう

ヤメハッタンチャイマッケ。　（A　フーン）　フン。
やめられたんじゃないですか。　（A　ふうん）　ふん。

100A：アコノ　ハナオカセンタロー〔10〕ハンノ、　チョーナンガ、
あそこの　花岡仙太郎さんの　長男が

ソノー　マ、　X9　ッテ　ワシラ、　アー　ドーキューダンノデ。
その　×　X9　って　私たち、　ああ　同級ですので。

101B：アー　ホデ　コメヤ　シテマシタン。
ああ　それで　米屋［を］　していましたの。

102A：コメヤ。　（B　フン　フン　フン）　ソラ　モー　イマ
米屋。　（B　ふん　ふん　ふん）　それは　もう　今［は］

モー　ダレモ　ヤットレヘンシー、　（B　フン。　モー）
もう　誰も　やっていないし、　（B　ふん。　もう）

イエ　アッテ　スマイモ　シトレヘンケド。
家[が]　あって[＝家があるだけで]　住まいも　していないけど。

07↑08

103B：モーナ　アノイエナー、　(A　フン)　アノー、　ダレカー
もうね　あの家ねえ　(A　ふん)　あの、　誰か

{スーと息を吸って}　コータンカ　シャンケ
{スーと息を吸って}　買ったのか　知らないけ［ど］

モ　アコニ　オレシマヘンネヤトー。　(A　ハー)
も　あそこに　いないんですって。　(A　はあ)

ホテ　アコ　ドナイヤラ　サワットッタ　ッチュイマンネヤ。
そして　あそこ　どうか　さわっていた　と言うんですよ。

(A　フーン)　ホンデ　モー　アノ　イエ、　{スーと息を吸って}
(A　ふうん)　それで　もう　あの　家、　{スーと息を吸って}

モ　ダーレモ　オレヘンシ　ムスコハンモ　モー
もう　誰も　いないし　息子さんも　もう

カエッテケーヘンダラ　アノ　ドナイカ　ショブンシタンカナー
帰ってこなかったら　あの　どうか　処分したのかな

ッテ　ワタシ　ユーテマシテンケドナ。　(A　フーン)
って　私　言っていたんですけどね。　(A　ふうん)

ヒロイオウチヤノニナー　ムカシノコメヤデ。
広いおうちなのにねえ　昔の米屋で。

104A：ソラ　モー　ソノー　アニキモ　モー、　アノー、　モー、
それは　もう　その　兄貴も　もう、　あの、　もう、

ショーバイオ、　ヨー　ツズケテイカンシ、　（B　フン）
商売を、　続けていけないし、　（B　ふん）

ンデー　ムスコガ　トーキョーニ　イマスンヤ。　（B　フン）
それで　息子が　東京に　いるんです。　（B　ふん）

デン　ソコイー　チョイチョイ、　マー
それで　そこへ　ちょいちょい、　まあ

イタリヒトッタケドナー。
行ったりしていたけどねえ。

105B：アー　ナンセカ　ショーバイ　シトッテナー、　（A　アー）
ああ　何しろ　商売［を］　していてねえ、　（A　ああ）

ムスコ　エロ　ナッター　アキマヘンネン。
息子［が］　偉く　なったら　だめなんです。

106A：{笑}　（B　{笑}）　ショーバイノホーニ　（B　ハー）
{笑}　（B　{笑}）　商売の方に　（B　はあ）

モー　チカラ　ハイランヨーン　ナンノカナー。
もう　力［が］　入らなく　なるのかな。

107B：ハー。　ハー。　オンデ　ムカシヤッタラナ、
はあ。　はあ。　それで　昔だったらね、

ショーバイデモ　ナンダイ　ツズイタ　トカ　チュテナー
商売でも　　何代　　続いた　　とか　言ってねえ

(A　アー　アー)　ジマンシタケド　モー　キョービ
(A　ああ　ああ)　自慢したけど　　もう　今日では

ソンナンナー、　ア　ナンダイ　ツズイ、　ツズジタトカナー
そんなのねえ、　あ　何代　　×××　　続いたとかねえ

エー　ユーノナー、　ホンマニ、　ダンダン
ええ　いうのねえ、　本当に、　　だんだん

スクノナッテキマスワ。　(A　ソラナー)　　ソーラ
少なくなってきますよ。　(A　それはねえ)　それは

タヒチ〔11〕ミタイニナー、　(A　アー)　モー　アンナケ
太七みたいにねえ　　(A　ああ)　もう　あれだけ

ダイサンガダッセ、　アン　モー　アッタラ　ソラ　　モー
財産がですよ、　　あの　もう　あったら　それは　もう

ダイサンノ、イジスルヒトガ　モー　ソノ　イエニ
財産の維持［を］する人が　　もう　その　家に

オッテモラーナ　　シャーナイケド、　(A　ウン　ウン)
いてもらわないと　仕方ないけど、　　(A　うん　うん)

ハシタナイ　ザイサンヤッタラ　(A　{笑})　ミナハレヨ
中途半端な　財産だったら　　(A　{笑})　ごらんなさいよ、

ナー。　ホナイー　ムリニ、　アノー　ソコデ　ガンバッテー、
ねえ。　そんなに　無理に、　あの　そこで　がんばって、

オランデモ　ミナー　アイヤナー。
いなくても　皆　あれだねえ。

108A：{笑}　モー、　センクリ　ソー　ナッテイキマスワー。　ナー。
{笑}　もう、　次々　そう　なっていきますよ。　ねえ。

109B：センクリ　ソナイ　ナリマスデー。　(A　アー)　フーン。
次々　そう　なりますよ。　(A　ああ)　ふうん。

オイテナー　ムカシ、モー　アカンダトコガ　カネモチニ　ナリー、
そしてねえ　昔　もう　だめだった所が　金持ちに　なり、

カネモチヤッタトコガ　シズミ　テ　コレワ　ンーマニ　ヨノナカ
金持ちだった所が　沈み　って　これは　本当に　世の中

ワタシ　ウマイコト、シテアルナー　トモテ。
私　よくしてあるなあ［＝よくしたもんだなあ］　と思って。

110A：アー　アー　アー。　(B　ンー)　ソラ　モ、　アノ、
ああ　ああ　ああ。　(B　んー)　それは　も、　あの

イシガ　ナガレテ　キノハガ　シズム　ッチュー　{笑}
石が　流れて　木の葉が　沈む　という　{笑}

(B　アー　ナー)　ナカ　ドー、　ドナイ
(B　ああ　ねえ)　［世の］中　どう、　どう

カワッテイクヤワカラン。　（B　ナー）　ナー。
変わっていくかわからない。（B　ねえ）　ねえ。

111B：ソラ　モー　ヨノナカワ　ウマイコト　デキテマスエー。　{笑}
それは　もう　世の中は　よく　できていますよ。　{笑}

112A：{笑}　ハ　マ、　シデンノセツリヤー。
{笑}　は　ま、　自然の摂理だ。

113B：シゼンノセツリダッセ。　（A　ハー）　フーン。
自然の摂理ですよ。　（A　はあ）　ふうん。
08↑

——— 中　略 ———

114B：マー　ヨー　シッテマスゼー　ダイコデモ　ナンデモ　ナッパデモ
まあ　よく　知っていますよ　大根でも　何でも　菜っ葉でも
↑09
マキマスヤロ、　（A　アー）　モー　シランマニ　ムシ
まきますでしょう、（A　ああ）　もう　知らない間に　虫［に］

クワレテマスヤン。　（A　ナー、クワレルナー）　フンー。
くわれていますでしょう。（A　ねえ、食われるねえ）　うん。

ホイーテナー、　ウマイーコト　ニンゲンサン　ニテル　プルット
そしてねえ、　上手に　人間さんに　×××　プルッと

チッソナッテ　オチテナ、（A　セヤ　セヤ　ソー　ソー）
小さくなって　落ちてね、（A　そうだ　そうだ　そう　そう）

ホィデ　ツチノナカ　　マルメコンデ　（A　{笑}）
それで　土の中［へ］　まるめこんで　（A　{笑}）

ハイッテシモタヨナ　　モー　ンナモン
入ってしまったような、　もう　そんなもの

イカレトルヨナモン　　ナンボ　コナイ
いかれてしまっているようなもの　いくら　こう

ミタカテ　ワカレシマ、
みたって　わかりやしま［せん］、

（A　ワッ　ワカレヘンネヤ。　ナー）　ウマイコト、
（A　×　わからないんだ。　ねえ）　よく、

デキテマスワエー。　{笑}
できてますよ。　{笑}

115A：アイツワ、　アノー　ジベタン　ソコカラ　キテ
あいつは、　あの　地面の　底から　来て

ヤルヤツヤサカイナー。　（B　アー）　ホンデン、
する奴だからねえ。　（B　ああ）　それで、

アエ　ナントカ　ユーンヤ　アノムシー
あれ　何とか　言うんだ　あの虫

116B：ア　ツチノナカカラ、　ナン　シ、　デテキマンデッカ。
あ　土の中から、　何　×　出てくるんですか。

117A：ナカ　ナカニ　イマンデー。　（B　フーン）　ホテー、
××　中に　　いますよ。　　（B　ふうん）　そして、

＊　＊　ジカンテキニワ　イツゴロ
＊　＊　時間的には　　いつ頃

カツドースンノカワカランケドモ、　（B　フン）
活動するのかわからないけれども、　（B　ふん）

ダブンー　バンノウチニ　ヤルンヤナー。
たぶん　　夜のうちに　　するんだねえ。

118B：ヨナ、　ヨルダスワ。　（A　ハー。　＊＊＊）
××　　夜ですよ。　　（A　はあ。　＊＊＊）

アイツラ、　メー　　エー　メー　　シテマンヤナー。　{笑}
あいつら、　目［が］　いい　目［を］　しているんですねえ。{笑}

119A：ミ　X10ハンノトコ、　コノクライノジクン
×　X10さんの所、　　このくらいの軸

ナットッタカテ　プチューント　ハナミデ　キッタヨーニナー。
なっていたって　プチューンと　はさみで　切ったようにねえ。

（B　ソーナ）　ハー、　タオレテモートルワ。　　（B　フン）
（B　そうよ）　はあ、　倒れてしまっているよ。（B　ふん）

ホテ　　ソコラタシニ　　ソノ、　アノー　ハーヤトカ、
そして　そこらじゅうに　その、　あの　　葉だとか、

ソノー　イッパイー　クソガ　ノコットルワー。
その　いっぱい　糞が　残っているよ。

（B　ナー）　ナー。　ホンデン　ソイツオナー。　{笑}
（B　ねえ）　ねえ。　それで　そいつをねえ。　{笑}

120B：ホシテ　ソレオ　ムシニモナ、　（A　アー）
そして　それを　虫にもね、　（A　ああ）

キクノスキナムシナ、　ナーノスキナムシナ、　ホイテ　アンナ、
菊の好きな虫ね、　菜の好きな虫ね、　そして　あんな、

アノ　サンショニ　ツクムシナ、　（A　アー。　{笑}）
あの　山椒に　つく虫ね、　（A　ああ。　{笑}）

ミナ　アリマスンヤナー　アレ。　{笑}　フン。
みんな　あるんですよねえ　あれ。　{笑}　ふん。

121A：ホンデ　アノー　ジメンカラー　クルヤツワ　ソノ、
それで　あの　地面から　来る奴は　その、

ン　ヒガイニ　オータ　ソノ　キラレタトコ　ソエカラ
ん　被害に　あった　その　切られた所　それから

ソノー　フンヤトカ、　（B　ハー）　ソレ
その　糞だとか　（B　はあ）　それ［を］

メアテニー　コソコソット　ソノー　ネカタオ
目当て［＝目印］に　こそこそっと　その　根方を

オッテミタラナ、　(B　フン)　コ　コナ　　{笑}
折ってみたらね、　(B　ふん)　×　こんな　{笑}

(B　オリマッケ)　オリマスー。　(B　フーン)　アー。
(B　おりますか)　おります。　(B　ふうん)　ああ。

122B：フーン。　ナー。　(A　アー)　ンー　ホテ
ふうん。　ねえ。　(A　ああ)　んー　そして

(A　ソラー)　ソレ　ソレオ　コロス、　アノー、
(A　それは)　それ　それを　殺す、　あの、

アノ　クスリ　　アルケドナ、　(A　フンー)　アノー
あの　薬［が］　あるけどね、　(A　ふんー)　あの

ムシノキライナニオイスル、クスリナッ。　(A　アー)
虫の嫌いなにおい［の］する薬ねっ。　(A　ああ)

コノ　ウエキノー　シ、　アノ　ネカタエデモ　コー
この　植木の　×　あの　根方へでも　こう

オイトイタラナ、　(A　アー)　アノ　ムシ　ケーヘンノデ
おいておいたらね、　(A　ああ)　あの　虫［が］　こないので

ッテ　ユイマスケドエー。　(A　アー　{笑})　ソヤケド、
って　言いますけどねえ。　(A　ああ　{笑})　だけど、

タベルモンノナー　トコ　ソンナン　スンノン、
食べるもののねえ　所［へ］　そんなの　するの、

キモチワルイシナー。　(A　アー　{笑})　ンー　モー　ホンデ
気持ち悪いしねえ。　(A　ああ　{笑})　んー　もう　それで

ワタシモ　コトシナ、　アノー　キョネン　　ナッパ
私も　　今年ね、　　あの　　去年［は］　菜っ葉［を］

ツクッタケドーモ、　ムシノナー
作ったけれども、　　虫の菜［を］

ツクッタットルヨーナモンデナー。　　(A　ムシヤシナイジャ)
作ってやっているようなものでねえ。　(A　虫養いだ)

ニンゲンサマ　ヒトッツモ　タベラント　(A　{笑})
人間様［は］　ひとつも　　食べないで　(A　{笑})

ムシバッカシ　タベテナー、　(A　アー)　モー　アカン　ト
虫ばかり　　食べてねえ、　(A　ああ)　もう　だめだ　と

オモテ　アキラメテ、　(A　アー)　ンデ　　モー　コトシナ、
思って　あきらめて、　(A　ああ)　そして　もう　今年ね、

ナー　　ツクラントナ、　(A　ナー)　タマネギーヤッタラナ、
菜［を］　作らないでね、　(A　はあ)　玉ねぎだったらね、

タマネギトカ　ホテカラ、　ネギヤッタラナ、　(A　アー)
玉ねぎとか　　そして、　　ねぎだったらね、　(A　ああ)

ソノウチー　ムシ、　　アンマリ
そのうち　　虫［が］、　あまり

(A　ンー　ソレ　　ソヤ　　ソヤ)　　ツケシマヘンシ
(A　うん　それは　そうだ　そうだ)　つきませんし

ショードク　アンマリ　センデモ　　ヨロシヤロー。
消毒［を］　あまり　　しなくても　よろしいでしょう。

09↑10

ホテ　　アレ　ミナハレ、　　ヨロシワナ、　　(A　アー)
そして　あれ　ごらんなさい、　よろしいよね、　(A　ああ)

ネギヤッタラ　カラダニナー。　(A　{笑})　ホンデン
ねぎだったら　体にねえ。　　(A　{笑})　それで

モー　ネギニ　ショー　ト　オモテナー。　モー　ムシト
もう　ねぎに　しよう　と　思ってねえ。　もう　虫と

ニンゲントノチエクラベデナー。　(A　{笑})　ンナ
人間との知恵比べでねえ。　　(A　{笑})　そんな

ムシニ　マケトッタ　　ツマラン　　ト　オモテ。　{笑}
虫に　　負けていたら　つまらない　と　思って。　{笑}

123A：{笑}　ソラ　　マタ　ムシワ　ムシデ、　ニンゲンノチエーニ
　　{笑}　それは　また　虫は　　虫で、　　人間の知恵に

ウワマールヨーナーカンガエ　モットルネワイナ。　　{笑}
上回るような考え［を］　　持っているんだよね。　{笑}

124B：モッテマスデー　　ホンーマニ　エライ、　エラアスデー。
　　持っていますよ。　本当に　　偉い、　　偉いですよ。

125A：マ　デモ　ソレ、　ユーテキカシテー、　(B　フン)
まあ　でも　それ［を］、　言ってきかせて、　(B　ふん)

キョーイクスンデモ　ナイケドー　(B　フン)　シゼンニ、
教育するのでも　ないけど　(B　ふん)　自然に、

ソイツラ　マー　ソナヒテー　セーカツシテイケルヨーナ
そいつら　まあ　そうして　生活していけるような

マー　ナンチューカ　ノーリョク　チュヨナモノ
まあ　何というか　能力　というようなもの

(B　ナッテマスヤロ。　フン)　シゼンニ
(B　なっていますでしょう。　ふん)　自然に

ソナワットンネヤナ。
備わっているんだね。

126B：ナ。　ワタシ　イツデモ　カンシンスンノナ　アノ
ね。　私［が］　いつでも　感心するの［は］ね　あの

ヒガンバナ〔12〕。　(A　アー　アー　アー)　マー
彼岸花。　(A　ああ　ああ　ああ)　まあ

ヒガンバナ　チュテナ、　(A　ハー)　アノー
「彼岸」花　といってね、　(A　はあ)　あの

コトシワ　ナー　アノー　サムイトカ　コトシワ　アツイトカ
今年は　ねえ　あの　寒いとか　今年は　暑いとか

ッチュテナ、　（A　フン。　ウン）　ウ　アツイサカイナ、
って言ってね、　（A　ふん。　うん）　う　暑いからね、

ヒガンバナモナ、　ア　デテクンノ　　ワスレンノカナ　ット
彼岸花もね、　あ　出てくるの［を］　忘れるのかな　っと

オモッタ　ナニガ　　モー　オヒガンー、マエン
思ったら　何が［＝なんのなんの］　もう　お彼岸前に

ナッタ　コナイダモ　チョット、　ミッカホドナー、
なったら　この間も　ちょっと、　３日程ねえ、

アノー　ハタケノホー　イカント　ホテ　ヒョット　イッタ、
あの　畑の方［へ］　行かずに　そして　ひょっと　行ったら、

モー　ニョキニョキト　デテマスンエー。
もう　にょきにょきと　出ているんですよ。

127A：チョード　フクサノサキミタイナヤツナー。
ちょうど　服紗の先みたいな奴ねえ。

128B：ハー。　（A　フン）　マー　エライモンヤナー　ット
はあ。　（A　ふん）　まあ　たいしたものだなあ　っと

（A　ハー）　オモテナー。
（A　はあ）　思ってねえ。

129A：アレワー　ホンマニ　セイカクニ　デマンナ。
あれは　本当に　正確に　出ますね。

130B：セーカクヤワー　アレワー。
　　正確だよ　　あれは。

131A：ワシモ　キノー、　ウチノキンジョーノ　アノ、　（B　フン）
　　私も　　きのう、　うちの近所の　　あの、　（B　ふん）

　　ゴジョーデパートノトコイ、　チョット　カワノフチー
　　五條デパートのとこへ、　　ちょっと　川の淵［を］

　　ノゾキニ　イッタンナ、　（B　フン）　アー　ヒョット
　　のぞきに　いったんだ、　（B　ふん）　ああ　ひょっと

　　キー　　ツイテナー、　（B　フン）　モー　アレモー
　　気［が］　ついてねえ、　（B　ふん）　もう　あれも

　　サクジブンヤナー　ト　オモテ、　（B　フン）　イタラ
　　咲く時分だなあ　　と　思って、　（B　ふん）　行ったら

　　マダー　サイテマヘンダケドナー。
　　まだ　　咲いていませんでしたけどねえ。

132B：サイテナイケド　　ニョキニョキ　デテマスヤロー。
　　咲いていないけど　にょきにょき　出ていますでしょう。

　　（A　ハー。　ハー）　ホデ　　チョード　オヒガンニ
　　（A　はあ。　はあ）　それで　ちょうど　お彼岸に

　　サクヨン　　ナリマンネ。　（A　{笑}　ソー　ソー　ソー　ソー）
　　咲くように　なるんです。　（A　{笑}　そう　そう　そう　そう）

ホンデン　ワタシ　アレー　アノー　ヒガンバナダケワ
それで　私　あれ　あの　彼岸花だけは

ホンーマニ　ダイブ　セーカクニナー。
本当に　だいぶん　正確にねえ。

133A：{笑}　ソラー　アツサ　サムサニー、　カカワラズナー。
{笑}　それは　暑さ　寒さに、　かかわらずねえ。

（B　フン。　ウーン）　キョネンミタイナデーカデモー、
（B　ふん。　うーん）　去年みたいな冷夏でも、

（B　ソーナー）　コトシミタイナ　アツイナツデモ、　（B　ン）
（B　そうよ）　今年みたいな　暑い夏でも、　（B　ん）

ヤッパ　オンナジジブンニ、　（B　オンナイヨーニ）
やはり　同じ時分に、　（B　おなじように）

サキマスワ。　アー。
咲きますよ。　ああ。

134B：デテマスヤロー。　ホーンデ　ワタシ　モ　アレ、
出ていますでしょう。　それで　私　も　あれ、

カンシンスンナ　イツデモ。　フフーン　ホイデン
感心するね　いつでも。　ふふーん。　それで

マー　ヒガンバナ　ッテ　ムカシノヒト、　ウマイコト　ナー
まあ　「彼岸花」　って　昔の人［は］、　うまい具合に　名［を］

(A　アー)　ツケタールナー　ット　オモテナ　(A　フーン)
(A　ああ)　つけてあるなあ　と　思ってね　(A　ふうん)

フーン。　ホテ　アレカッテ　モー　ナンダンナー。
ふうん。　そして　あれだって　もう　あれですねえ。

サキカケワー　ア　マー　カワイラシケド　モー　ン
咲きかけは　あ　まあ　かわいらしいけど　もう　ん

パーット　サイテ　ナニ　シタラ　ナンヤラ
ぱっと　咲いて　何　したら［＝しぼんだら］　何だか

チョット　イヨーナカンジ　シマスンヤデ。　(A　フーン)
ちょっと　異様な感じ［が］　するんですよ。　(A　ふうん)

ナンカ　ソンナ、　アノー　ハナデンナー　アノハナ。
何か　そんな、　あの　花ですねえ　あの花［は］。

135A：ア　ワ　ワタシワー　アレー　コノンデ　トッテキマンネ
あ　×　私は　あれ［を］　好んで　取ってくるんです

アレ。　(B　フーン)　トッテテー　チョット　ツボイ
あれ［を］。　(B　ふうん)　とってきて　ちょっと　壷へ

サンボンカ　ゴホンカ　＊＊＊
３本か　５本か　＊＊＊

136B：ン　ソラー　エ　ヨロシワナー。
ん　それは　×　よろしいよねえ。

137A：ホンナラ　マタ　ソレー　アノー、
　　そしたら　また　それ　　あの、

138B：エーニカテ　カキマスワ　　アレナ。
　　絵にだって　書きますよ、　あれね。

139A：シ　シオレ　アイツワ、　ナッカナカ　モー　ソノ　ミズワ
　　×　しおれ　あいつは、　なかなか　　もう　その　水は

　　ヨー　アガンノカヒテナー。　（B　フン）
　　よく　あがるのかしてねえ。　（B　ふん）

　　シオレシマヘンワー。　ハー。
　　しおれやしませんよ。　はあ。

140B：ソーデス　　アレ　　ミズアゲ　　ヨロシワ。
　　そうです、　あれ［は］　水あげ［が］　よろしいよ。

141A：ホンデー　モー　サキキッタ　ト　オモタラ　マタ　ツギノ
　　それで　　もう　咲ききった　と　思ったら　また　次の

　　（B　フン）　ツボミノヤツオ　ヨッテ　トッテキテナー。
　　（B　ふん）　つぼみのやつを　選んで　取ってきてねえ。

　　（B　フン）　ダイブー　ナガイアイダ　ツズキマスワ。
　　（B　ふん）　大分　　長い間　　続きますよ。

　　タダデー。　{笑}
　　ただで。　　{笑}

142B：アー。　アレ　セヤケド、　チョット　ドク　　アリマスンヤロ。
ああ。　あれ　だけど、　ちょっと　毒［が］　あるんでしょう。
10↑11
（A　サー　アルンカ）　ドク　　アリマスワ。
（A　さあ　あるのか）　毒［が］　ありますよ。

143A：チョト　　ニガイーワナ。　（B　フン）　ア　ドクカ
ちょっと　苦いよね。　（B　ふん）　あ　毒か

クスリカ　シランケドモ。　{笑}
薬か　知らないけれども。　{笑}

144B：フン。　アレ　ホンデン　{スーと息を吸って}　ナンヤラ
ふん。　あれ　それで　{スーと息を吸って}　何とか

ッテ　ユー　ナマエモ　アリマスグライデナ、　アノー、
って　いう　名前も　ありますぐらいでね、　あの、

ドク　　アリマスンヤ　アレ。　（A　ンー）　フン。
毒［が］　あるんです　あれ。　（A　んー）　ふん。

145A：アラ　　マー　シブトバナトカ　ユーサカイニ　ワリニ、
あれは　まあ　「死人花」とか　言うから　割に、

キラワレルケドモナー。
嫌われるけれどもねえ。

146B：アレ　シブトバナ　テナ、　アレー　ハカヤタラニカテ
あれ　死人花　ってね、　あれ　墓やなんかにだって

ヨー　サキマシタヤロ。　　（A　ンー）　ムカシ。　コノゴロ
よく　咲きましたでしょう。（A　うん）　昔。　　この頃［は］

ハカソージシテ　スッサカイ　（A　{笑}）　ミナ　アレ　アンマリ
墓掃除して、　するから　（A　{笑}）　皆　あれ　あまり

サケヘンケド　ヨー、　ハカニ　サイテマシタワ　アノハナ。
咲かないけど　よく、　墓に　咲いていましたよ　あの花。

ホテ　チョード　ソノ　ハカマイリスル　ヒガンニ、（A　{笑}）
そして　ちょうど　その　墓参りする　彼岸に、（A　{笑}）

メニ　カガゥサカイ　ヨケ　ソナイ　オモウンカ
目に　かかる［＝目に付く］から　余計　そう　思うのか

シランケドナ。　フン。
しらないけどね。　ふん。

147A：ソヤケド　アノハナー、　マー　ヨー　サイトルヤツオ、
だけど　あの花［は］、　まあ　よく　咲いているやつを、

アン　イッポンー　ジット　トッテッテ　ミター　ソラ
あの　1本　じっと　取ってきて　見たら　それは

ンマイコト　デケテマスワ　アレナー。
よく　できていますよ　あれねえ。

148B：カワイラシーデスエー。
かわいらしいですよ。

149A：ヒトツノハナトチガウンデ　アレナー。
ひとつの花じゃないんだ　あれねえ。

150B：フン、　ソ　コレノ　コレ　アレ、　ロッポンカ　ナン　ナ、
ふん、　そ　これの　これ　あれ、　6本か　何　ね、

（A　チョッ　チョッ　チョッ　チョットー）　ムッツホドニ
（A　ちよっ　ちよっ　ちよっ　ちよっと）　六つ程に

コー　ワカレテ　（A　アー）　ソレガ　ヒトツズツ
こう　分かれて　（A　ああ）　それが　ひとつずつ

カザグルマミタイニ　（A　ヒトツズツガ　コーナー）
風車みたいに　（A　ひとつずつが　こうねえ）

コナイ　クワーット　ヒロガッテ、　（A　アー　アー）
こう　くわっと　広がって、　（A　ああ　ああ）

ソコイ　メシベガ　コー　ナゴー　デテナー。　（A　アー。　アー）
そこへ　めしべが　こう　長く　出てねえ。　（A　ああ。　ああ）

ンー。　（A　ナカナカ）　アレワ　ホンデ　アレ
うん。　（A　なかなか）　あれは　それで　あれ

キューコンデスヤロー。　（A　キューコンダスー）
球根でしょう。　（A　球根です）

キューコンデ　ホィデ　ムカシ　ミナハレ　アレ、
球根で　それで　昔　ごらんなさい　あれ、

コーニシテ　ドナイヤラ　ッテ、　ショクリョーニシタ
粉にして　どうか　って、　食料にした［と］

ッタカ　ナンヤ、
いったか　何だ、

151A：ノリカー、　（B　ノリカ）　ナンカニ　ツコタンカナー。
のりか、　（B　のりか）　何かに　使ったのかな

（B　ナー）　フン。
（B　ねえ）　ふん。

152B：ホテ　アノ　キューコンニナ、　ミズーガ　ミズオナ、
そして　あの　球根にね、　水が　水をね、

（A　フン）　タクワエテマスンヤテナ。　（A　フーン）
（A　ふん）　たくわえているんですってね。　（A　ふうん）

ナンカ　ソンナ　コト、　｛スーと息を吸って｝　ドコヤラデ
何か　そんな　こと［を］、　｛スーと息を吸って｝　どこかで

ヨンダコト　アリマスワ。
読んだこと［が］　ありますよ。

153A：ホデ　ソイツガ　モー　ハルサキン　ナッタラ、　（B　フン）
それで　そいつが　もう　春先に　なったら、　（B　ふん）

アノー　キツネノカミソリ　ユーテ、
あの　きつねのかみそり［と］　言って、

(B　ソー　ソー　ソー　ソー)　バーット　シコッテ。
(B　そう　そう　そう　そう)　ばあっと　盛んになって。

(B　フン)　ナー。　(B　ウン)　ホンデ　アレワ　モー　ソノ、
(B　ふん)　ねえ。　(B　うん)　それで　あれは　もう　その、

エダモ　ハーモ　ナシニ　ツボーット　アノ　ジメンカラ、　クキ
枝も　葉も　なしに　ツボっと　あの　地面から　茎[が]

デテ、　(B　フン)　ホテ　ハナ　サクンデシタナー。
出て　(B　ふん)　そして　花[が]　咲くんでしたねえ。

154B：フン。　ソー　ソー　ソー　ソー。　ニョキニョキト
ふん。　そう　そう　そう　そう。　にょきにょきと

155A：ア　アレモ　ナカナカ、　ソノー、　ステガタイーフゼー
×　あれも　なかなか　その、　捨てがたい風情[が]

アリマッセー？　(B　ホイテ　アリマスワナ)
ありますよ？　(B　そして　ありますよね)

ソヤケド　サカリ　スギタラ　アレ、　(B　フン)
だけど　盛り[を]　すぎたら　あれ　(B　ふん)

シロボケテクルカラナ、　(B　ソーナー)　アナイ　ナッタ
すすけてくるからね。　(B　そうよ)　ああ　なったら

イヤラシヤロナ。
いやらしいだろうね。

156B：フン。　ソーナ。　イヤ　ナン　ナンノハナモデッケド。
ふん。　そうよ。　いや　何、　何の花もですけど。

157A：ハー。　{笑}　（B　{笑}）　トクニ　アレ、　　イ　イロ
はあ。　{笑}　（B　{笑}）　特に　あれ［は］、　×　色［が］

カワルデナー。
変わるのでねえ。

158B：イロ　　カーッテナー。　（A　ハー　ハー）　フーン。　ナー。
色［が］　変わってねえ。　（A　はあ　はあ）　ふうん。　ねえ。

ホイテ　アレノ　モー、　アノー、　ノビンノガ　ハヤイノナ。
そして　あれの　もう、　あの、　伸びるのが　早いのよ。

（A　ハヤイ　ハヤイ　ハヤイ）　イチニチデ　ホンマニ　ダイブ
（A　はやい　はやい　はやい）　１日で　本当に　だいぶん

ノビマスデ？　（A　{笑}）　アレ。　（A　ノビマスナ）
伸びますよ？　（A　{笑}）　あれ。　（A　伸びますね）

フーン。　ヨイニ　ミテ　アサ　ミタラ　モ　プーット　ノ、
ふうん。　宵に　見て　朝　見たら　もう　ぷっと　×

ア　セー　　タコ　ナットーサカイナー。　タンキカンニ　アレ
あ　背［が］　高く　なっているからねえ。　短期間に　あれ

スウサカイニ。
するから。

159A：セーチョーワ　ハヤイコト　ナンナー。　（B　ナー）　アー。
　　成長は　　早く　　なるねえ。　（B　ねえ）　うん。

160B：マエ　バンガサ〔13〕ノ　コノ　ヒョーシニナ　ハルノヒガンニ
　　前に　『番傘』の　　この　表紙にね　　春の彼岸に

　　アノ　ヒガンバナノナ、　（A　フン）　エーナ、　　アノー、
　　あの　彼岸花のね、　　（A　ふん）　絵［を］ね、　あの、

　　シテアッテナ。　（A　アー）　シャシンカナ。　イヤー、
　　してあってね。　（A　ああ）　写真かな。　　いや、

　　ヨー　コンナコト　　シタナ　ット　オモテナ。　{笑}
　　よく　こんな事［を］　したな　と　思ってね。　{笑}

　　ホンマニ　ハラ　　タッテキテナー。　（A　{笑}　アー）
　　本当に　　腹［が］　立ってきてねえ。　（A　{笑}　ああ）

　　ホンーマニ　ハルノヒガンニ、　（A　{笑}）　コンナ　ヒガン
　　本当に　　春の彼岸に、　　（A　{笑}）　こんな　彼岸

　　モー　ナンチューコト　　スンヤロ　　ト　オモテ　モー、
　　もう　何ということ［を］　するんだろう　と　思って　もう、

　　ナサケナカッタコト　　アリマスデ。　（A　ホーケー）　フーン。
　　情けなかった事［が］　ありますよ。　（A　そうか）　ふうん。

161A：ヒガンバナ　ッチュンネヤ　イマヤッタ　チョード　エー　ト
　　「彼岸」花　　というんだ　　今だったら　ちょうど　いい　と

オモテ　ヤッタンカナー。
思って　やったのかなあ。

162B：イヤ　ヒガンバナー　ッテー　ユータラ、カッテ　アレワ
いや　「彼岸」花　って　言ったって　あれは

アキノヒガンバ、　（A　ソー　ソー　ソー　ソー）
秋の彼岸×　（A　そう　そう　そう　そう）

ヒガンニシカ、　サケシマヘンヤロー。
彼岸にしか、　咲かないでしょう。

（A　サ　サケヘンワ　{笑}）　ソレオ　ハルノヒガンニ、
（A　×　咲かないよ　{笑}）　それを　春の彼岸に、

（A　カンチガイヒタンヤロ）　アンーナ　カンチガイモナー、
（A　勘違いしたんだろう）　あんな　勘違いもねえ、

163A：チョット　ヒジョーシキヤナー。
ちょっと　非常識だねえ。

164B：フン　ナー。（A　{笑}）　ホンナ　ノノホ
ふん、　ねえ。（A　{笑}）　そんな　野の方［へ］

デタコトナイヒトデスンカ。　{笑}　アンマリモ
出たこと［が］ない人なんですか。　{笑}　あまりにも

ジョーシキ　ハズレトンデナ。（A　ソーヤナー）　フーン。
常識［を］　外れているよね。（A　そうだねえ）　ふうん。

165A：エライ　X1サンーノハナシガ　エライトコイ　{笑}
　　ずいぶん　X1さんの話が　大変な所へ　{笑}

166B：エライトコエ　トンデシモタケド。　{笑}
　　大変な所へ　とんでしまったけど。　{笑}

11↑

奈良県五條市1981注記

〔1〕チョーム

長夢。Ｘ２氏のあだ名。

〔2〕デ

前のドコマデーに続く。ドコマデデ。

〔3〕センキョ

Ａ氏の俳号。

〔4〕オカグチ

五條市岡口。岡町への入口であるため。

〔5〕トーギュー

闘牛。Ｘ３氏の俳号。

〔6〕シモイチ

奈良県吉野郡下市町。

〔7〕ヤスケ

弥助。五條の，弥助ずしを作っている店名。

〔8〕シンマチ

五條市新町。

〔9〕サヨカ

ソーケ，ソーカと比べるとそれよりも改まった言い方。

〔10〕ハナオカセンタロ，ハナオカセンタロー

商店名と思われる。

〔11〕タヒチ

太七。五條市内の，古くからの造り酒屋の屋号。

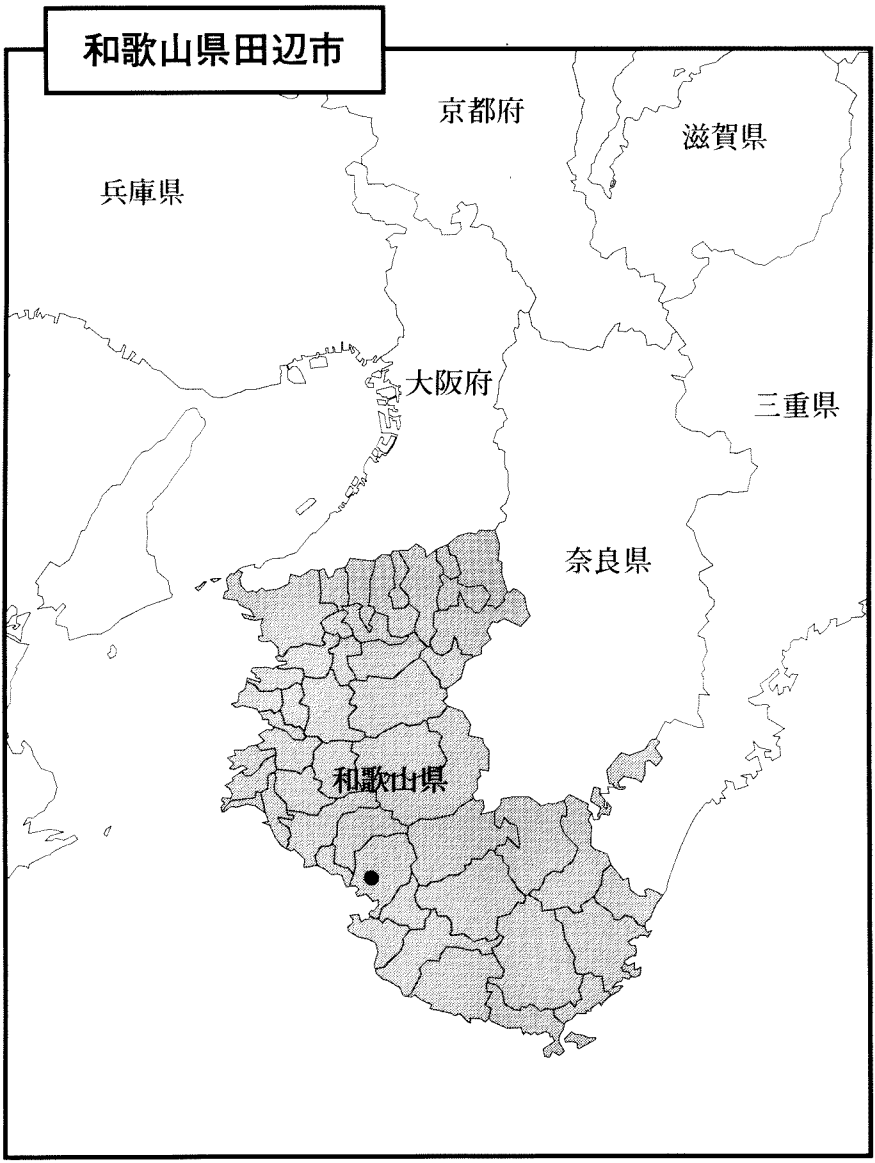
〔12〕ヒガンバナ

曼珠沙華。

〔13〕バンガサ

俳句・川柳の同人誌名。

Ⅱ．和歌山県田辺市
1981


和歌山県田辺市
京都府
滋賀県
兵庫県
大阪府
三重県
奈良県
和歌山県

和歌山県田辺市1981話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	安宅川氏熙
	小切間機久子
	辻淑子
収録担当者	中瀬喜陽
文字化担当者	中瀬喜陽
解説担当者	沖久雄
	中瀬喜陽
	村内栄一

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一
	江川清
	田原広史
	井上文子
校正担当者	高木千恵
	鳥谷善史

和歌山県田辺市1981解説

収録地点名　　和歌山県田辺市

収録地点の概観

位置

紀伊半島が大台が原などの山岳を中心に据えた大きな山塊とすれば，その幾重なす山なみの裾が西側紀伊水道に落ちこむ中央部に，田辺湾を抱いて位置している。古来，京阪からの熊野詣の道はここで大辺路と中辺路とに分かれ，田辺湾は西国と江戸との船による交易の要衝でもあった。

交通

国鉄紀勢線が唯一の交通機関で，和歌山市からは約95km，特急で約１時間，大阪市からは約160km，特急で約２時間の距離である。西牟婁地方の中心地であるから，ここから郡内各地へはバスの便があるが，回数は多くない。

地勢

屈曲した湾，田辺湾にのぞむ小平野には会津川という，そう大きくない川があるのみで，付近に大きな山もなく，温暖な気候に恵まれた農業地帯である。田辺湾は地理的に恰好な位置にあるので漁業の根拠地となっている。

行政区画

紀州藩は，治世上重要な地として筆頭家老の安藤家を据え，その城下町として栄えた。1964(昭和39)年10月の町村合併には隣接の牟婁町を加えた。

戸数・人口

1983(昭和58)年10月1日現在，世帯数22,218戸，人口70,323人。

産業

西牟婁地方第一の商業都市で物資の集散地。また，田辺湾はこのあたり随一の漁港であるので漁獲物の取引も多く，かまぼこ等の水産加工業も盛んである。良好な気候を利用しての柑橘栽培も近年収益を増してきている。文化・教育の中心地でもあるのでこれに関連する近代産業も起こりつつある。

収録地点の方言の特色

和歌山県の方言は，大きくは３地域に分けられ，和歌山市と紀ノ川平野を中心部とした紀北地区，有田郡と日高郡をまとめた紀中地区，西・東牟婁郡を大きくまとめて紀南地区とすることができる。紀北地区は京阪神に近く，ことばの面で，新しい変化を遂げているわけであるが，紀南地区もまた，別の意味で新しいことばの変化を遂げており，地理的に両者の中間地帯である紀中地区がいちばん古い様相を残していると考えられる。調査地点の田辺市は，西牟婁地方の中心的な都市であるのだが，言語的，もっと広く文化的には紀中的な面を多く持っている。

音韻

(1) 脱落現象

① [w]の脱落

[sa̲wa̲ɲi]＞[saaɲi]＞[sa：ɲi]（騒ぎ）

[ta̲wara]＞[ta：ra]（俵）

② [ʃ]の脱落

[hoʃi̲tʃa：ru]＞[hoitʃa：ru]（乾かしてある）

[ika̲ʃitekure]＞[ikaitekure]（行かせてくれ）

③ [r]の脱落

[so̲rewa]＞[soewa]＞[soiwa]（それは）

④ [o]の脱落

[～to o̲moukedo]＞[～to moukedo]（～と思うけど）

⑤ [ra]の脱落

[jakannejaka̲ra]＞ [jakannejaka]（焼かないのだから）

(2) 転訛

① [u]＞[o]

[u̲mi]＞[o̲mi]（海）

② [i]＞[e]

[ebi̲su]＞[ebe̲su]（戎）

③ [e]＞[i]

[sore̲to]＞[soe̲to]＞[soi̲to]（それと）

④ [s]＞[ʃ]

[sentaN]＞[ʃentaN]（先端）

(3) 撥音化

①撥音の添加

[mini]＞[minni]（見に）

② [ri]＞[n]

[nurini ita]＞[nunni ita]（塗りに行った）

③ [o]の脱落

[soŋŋanano＞soŋŋanaN]（そのようなこと）

(4) 拗音の直音化

[wakaiʃu：]＞[wakaiʃi]（若い衆）

(5) 促音の添加

[usui]＞[ussui]（薄い）

[kotobazuka]i＞[kottobazukai]（ことばづかい）

(6) 長音化

[Φutoi]＞[Φu：toi]（太い）

[tabi]＞[tabi：]（足袋）

(7) 短縮化

[oto：to]＞[ototo]（弟）

[jaro：]＞[jaro]（やろう）

アクセント

和歌山県のアクセントは全体としては甲種アクセント（京阪アクセント）に属しているのだが，紀南の一部には変型が見受けられる。そのうちでも田辺市およびその周辺は，語アクセントの中に近世初期の京都アクセントの姿を残しているものが残存するという点で注目されている。

語法

(1) 動詞

①二段動詞の残存

エー　ネーニ　ウルルカラ（良い値に売れるから）

タブル　ヒトニ　ヤイテ　クルル（食べる人に焼いてくれる）

②動詞の二段活用からの類推による，助動詞の二段活用

ウシロカラ　ツカルルンヤ　トー。（後ろから突かれるのだと。）

③一段動詞の五段化

チットモ　デランヨーニ　ナッタ。（ちっとも出ないようになった。）

④継続態（進行形）

・動詞連用形＋イルの形

ヤマ　コエテ　キーイタンヤイダヨ。（山を越えて来ていたんだよ。）

・動詞連用形＋アル（ヤル）の形

サブシテ　ヤリャルンヤロカイ。（寂しくてやっているのだろうよ。）

ミンナデ　オドリヤルミタイデ。（皆で踊っているみたいで。）

⑤結果態

・動詞連用形＋テアルの形

カサ　ノセタッタンヤダヨ。（笠を載せてあったんだよ。）

(2) 助動詞

①打消

・「ン」がもっとも普通の在来の形である。

シラントモテ。（知らないと思って。）

・この「ン」が一段活用動詞の五段化したものにつく。

ミランノー。（見ないね。）

・「ヘン」は新しい語法として若い世代から老年層へと広まりつつある。

セーヘン。（しない。）

・ただし，サ変動詞に続く場合は「シエヘン」という形もある。

カイオキワ　シエヘン。（買い置きはしない。）

・継続態の打消形は次のようになる。

クツラ　ウリナカッタハカイ。（靴などを売っていなかったから。）

・能力の打消形は次のようになる。

ヨー　コサエランン。（こしらえることができない。）

②断定

・「ヤ」が用いられる。

(3) 助詞

①理由を表す接続助詞

・サカイ　　丁寧に言うとき。共通語的。

フネデ　ヨウサカイナイ。(船で酔うからね。)

・サカ　　多少あらたまってはいるが，雑なとき。

デテキタサカヤケド。(出てきたからだけど。)

・ハカイ　　土地の古いことばづかいで上。

リョーシドコダッタハカイナー。(漁師が住む所だったからね。)

・ハカ　　在来のことばで，ざっとしたとき。

クルマ　ヒキマワッタハカノイ。(車を曳きまわしたからね。)

②終助詞

・「ワ」，「ワイ」がよく用いられる。それに「ダ」がついて「ワダ」，「ワイダ」(訛って，ワイラ)。さらに，それに「ヨー」，「ノラ」がついたりもする。

アト　アッタワダノラ。(跡があったわよね。)

キョービ　ナイワイダヨー。(こんにち絶対ないよ。)

カシント　チカ゜ワイダノイ。(菓子とちがうよねえ。)

・「ラ」に「イ」がついて「ライ」。それに「ダ」がついて「ライダ」といった形のものもある。さらに，それに「ヨ」がつくと「ライダヨ」となる。

ソーデスラ。(そうですよ。)

コイ　アケ゜ルンデスラ。(これあげるんですよ。)

ヤスミダッタデスライダ。(休みだったですよ。)

ホラ　シヤナイデスライダヨ。(それは仕方がないですよ。)

③間投詞

・「アノー」などのほか，特色あるものとして，「ナイ」(訛ってナエ)，「ノヤ」，「ヤデ」，「ノイ」などがある。

ボクテ　ヨー　イワナンデナイ，ダマッテ　ウツムイテタンヤ。

(僕と言えなくてねえ，黙って俯いていたのだ。)

モッテイクノデヤデ，コボサンヨーニ　ソロソロ　イッタンヤ。

(持って行くのですよ，こぼさないようにそろそろ行ったのだ。)

(4) 敬語法

この土地にマイテンス語といわれる表現があるが，限定された土地に用いられ，年々，少なくなってきていて若い年代では土地の者でも知らなくなりつつある。

サカナ　カイテンスカ。(魚を買いましたか。)

「カイマッテンヒョー。」(買いましょう。) などの形もあり，紀南の他の土地ではさらに変わった形にもなっている。

語彙

(1) 一人称代名詞

ウラ

アシ (女のことば，多)

(2) 親族呼称

父をオトヤン，祖父をオジヤン式にヤンが多いが，ざっとした呼び方では，オトー式。ハンもあり，兄 (または兄さん格) をアニハン式に言う。

(3) その他

シワクズ (皺だらけ)

ガナカ゜ナニ　オージタ (程度にあった)

ツロク (釣合い)

アバ (浮子)

カカリウド (食客)

カチク゜ルマ (大八車)

(以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿，および，『和歌山県方言調査報告書』(和歌山県文化振興課，1985年) によるものである。)

和歌山県田辺市1981凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を１発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：１Ａ

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーナンデス　　ヨソレデ　ワタシガ　イッタンデス

そうなんですよ。　それで　私が　行ったんです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように、開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

[ ]　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

　　みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［ ］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

　　今　　いう［＝今話題にあがった］

｜｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔 〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔 〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，収録県名と，そのページの方言音声が収録されているCDのトラック番号を示している。「和歌山12-1」はCDトラック番号が12で，その1ページ目ということである。「和歌山12-1」「和歌山12-2」……「和歌山12-8/13-1」……「和歌山22-9」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。 ↑12 ， 12↑13 ，…… 21↑22 ， 22↑ のように表示される。

第12巻のCD（65分24秒）には，和歌山県田辺市の談話，【子供の遊び，子供の手伝い，田辺のことば，田辺まつり】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を基準として表示した。

トラックNo.	開始ページ，行	終了ページ，行	時間:分:秒
12	p.114,1.1	p.121,1.7	0:03:02
13	p.121,1.7	p.129,1.1	0:03:01
14	p.129,1.3	p.138,1.3	0:03:18
15	p.138,1.5	p.145,1.17	0:03:19
16	p.145,1.19	p.153,1.7	0:03:01
17	p.153,1.9	p.156,1.17	0:01:24
18	p.157,1.1	p.164,1.7	0:02:52
19	p.164,1.7	p.172,1.1	0:03:00
20	p.172,1.3	p.179,1.3	0:02:47
21	p.179,1.5	p.185,1.7	0:02:46
22	p.185,1.9	p.193,1.15	0:03:15
計			0:31:45

和歌山県田辺市1981談話

収録地点　　和歌山県田辺市芳養町（たなべしはやちょう）

収録日時　　1981(昭和56)年９月23日

収録場所　　和歌山県田辺市芳養町 話者Ｂ氏自宅

話題　　子どもの遊び，子供の手伝い，田辺のことば，田辺まつり

話者

A	男	大正４年生 （収録時66歳）	和裁教授
B	女	大正９年生 （収録時61歳）	無職（元保育園園長）
C	女	大正９年生 （収録時61歳）	無職（元市役所職員）

調査員

D　男

収録時間（CD）　　約31分45秒

なお，「各地方言収集緊急調査」の報告書として，和歌山県によって『和歌山県方言調査報告書』（付：録音テープ１本，和歌山県文化振興課［編集・発行］，1985(昭和60)年3月30日）が作成されている。

【子供の遊び，子供の手伝い，田辺のことば，田辺まつり】

話し手

A	男	大正４年生	（収録時66歳）
B	女	大正９年生	（収録時61歳）
C	女	大正９年生	（収録時61歳）
D	男		（調査員）

1B：ムセマスノー。　イツマデ　ホントニ。
　　蒸しますねえ。　いつまで　本当に。
　　↑12
　　ヨー　オイデテクダサイマシタ　（A　イエ　イエ）
　　よく　お出でくださいました、　（A　いえ　いえ）

　　センセーモ　ズイブン　ゴブサタモーシテ　スミマセン。
　　先生も　随分　御無沙汰申して　すみません。

2A：コチラコソ。
　　こちらこそ。

3B：Cチャンモ、　ヨー、　オイデテクダサイマシタ。
　　Cちゃんも、　よく、　お出でくださいました。

4C：ア、　イツモ　モー。
　　あ、　いつも　もう。

5B：Dセンセーカラネー、　アノー、　（C　オセワン　ナ）
　　D先生からねえ、　あの、　（C　お世話に　な［って］）

ムカシノ　コドモノジブンラ　アソンダ、　アソビニツイテ
昔の　子どもの時分など［に］　遊んだ、　遊びについて

ナンド、　オモイダスコト　アッタラ、　シャベッテミテ、
何か、　思い出すこと［が］　あったら、　喋ってみて、

6A：クルシナモ、　クルシナモ、　Dセンセーニ　モーシアケ゜テンケド、
来る時も、　来る時も、　D先生に　申し上げたんだけど、

（B　ア　ハー）　オワカイコロ　カワイラシカッタ　ッチューハナシ
（B　あ　はあ）　お若い頃　可愛らしかった　という話［を］

シテタカラ。
していたから。

7B：ワタシデスカ？　（A　ハイ）　{笑}　オー　オー、　（A　アー）
私ですか？　（A　はい）　{笑}　おお　おお、　（A　ああ）

エライコッチャ。　コイ　カワイラシカッタン
大変なことだ。　これ［が］　可愛らしかったん、

コチラサンー　マダ
こちらさん［＝こちらの方］［は］　まだ［＝もっと］

カワイラシカッテノー。　ホンマニ、
可愛らしくてねえ。　本当に、

8A：リョーホー　アノ、　オフタカタトモ　カーイラシカッタ
両方　あの、　お二方とも　可愛らしかった

9B：リョーホー　カワイラシカッタ、　ソー　ユーテ、　ハナ
　　両方　　可愛らしかった、　そう　言って、　花［を］

　　モタイテイタダイタラ　マタ　ウレシナッテキテ
　　持たせて戴いたら　　また　うれしくなってきて

　　ナニ　　シャベリダスヤラ　ワカリマセンデ。
　　何［を］　喋りだすか　　わかりませんよ。

10A：アノジブン　ドンナ、　（B　サー）　コトバズカイデ
　　あの時分　　どんな、　（B　さあ）　ことばづかいで

　　ハナシタンデショーナー。　（B　ナー）　イマミタイニ
　　話したんでしょうねえ。　（B　ねえ）　今みたいに

　　テレビワ　ナイシ。
　　テレビは　ないし。

11B：ソーヤノー。　ズット　チサーイジブン　テ　　ユータラ、
　　そうだねえ。　ずっと　小さい時分　　って　いったら、

　　アノー　オサラ〔1〕ラ　　ヨー　シタケドノ、　ガッコーノー。
　　あの　「おさら」など［を］　よく　したけどね、　学校の。

　　（C　オサラ〔1〕トカ）　ヤスミジカンニ　ナッタラ。
　　（C　「おさら」とか）　休み時間に　　なったら。

　　タケデ　コカ゜ナコト　シナ〔2〕、　セナンダー？　（C　シタ）
　　竹で　こんなこと　××　　しなかった？　（C　した）

12A：シタネー　カエ、　＊＊　カエスノ。
　　したねえ。　××　＊＊　かえすの。

13B：オトコノーコドモサンモ　シタデスカ、
　　男の子供さんも　しましたか、

14A：ヤリマシタ、　エー。
　　やりました、　ええ。

15B：ソーデスカ。　ホィタラ　ポプラノ　＊＊　アノ
　　そうですか。　そしたら　ポプラの　＊＊　あの

　　ダイチショーカ゜ッコノウンドーバデ、（A　エー）　オニコ゜トノ、
　　第一小学校の運動場で、　（A　ええ）　鬼ごっこの、

　　タスケオニコ゜ト　チューナコト　チュヨナコト
　　「助け鬼ごっこ」　というようなこと、　というようなこと［を］

　　（A　ソー）　ヨー　シタ。　デスノー。
　　（A　そう）　よく　した。　ですねえ。

　　ガッコーノヤスミ、アイダニ　シタコトワ。
　　学校の休み［の］間に　したことは。

16A：エー　ポプラノキリアイモ　シマシタシネー。　（B　ソーデスナー）
　　ええ　ポプラの切り合いも　しましたしねえ。　（B　そうですねえ）

　　ア、　アタマハリワ　オトコ　シマシタヨ。
　　あ、　「頭張り」［＝頭の張りあい］は　男［の子は］　しましたよ。

17B：アタマハリ。　〔笑〕　アタマハリワー　ンナ
「頭張り」。　〔笑〕　「頭張り」は　そんな［の］

セーヘンケドノー。　（A　ホラ）　オンナノコワネー、　（A　ハ）
しないけどねえ。　（A　それは）　女の子はねえ、　（A　は）

ツチノナカエネ、　（A　エー）　アノ　ハナビラオ、　ヒロテキテ
土の中へね、　（A　ええ）　あの　花びらを、　拾ってきて

イレテ、　（A　ンー）　ソイ　マタ　ガラスノ、カケラオ
入れて、　（A　んー）　それ［を］　また　ガラスのかけらを

ヒロテキテネ、　ウエ　カブセテ。　ホイデ　コ、　ソーヤネー、
拾ってきてね、　上［へ］　かぶせて。　それで　こう、　そうだねえ、

ジメンエ　キレーナ　コーネ　ステンドグラスミタイナヨーナモン
地面へ　きれいな　こうね　ステンドグラスみたいなようなもの[を]

コサエテネ、　（A　アー　アー）　アソンダリ
こしらえてね、　（A　ああ　ああ）　遊んだり

ジーオ　クキ゜デ　カイトイテ　カクイテネ、
字を　釘で　書いておいて　隠してね、

（A　ア、　ソー　ソー。　エー　ソンナコト）　ナンチュー　ジー
（A　あ、　そう　そう。　ええ　そんなこと）「何という　字［を］

カイターラー。　オマハン　アテトミ〔3〕　テ　ユーヨーナコト。
書いているか。　あなた　あててごらん」　と　いうようなこと[を]。

18C：ソノ、　ンー　アレワ　ソノ　アノ　ナニワ　セナンダデ？
　　その、　んー　あれは　その　あの　あれは　しなかったよ？

　　ガラスノ　ソノ　（B　ハナノ）　ハナビラ。
　　ガラスの　その　（B　花の）　花びら［は］。

19B：アー　ワタシラ　ヨー　シタワ。
　　ああ　私ら［は］　よく　したよ。

20C：ソイワ　＊、　イクック゜ライ。
　　それは　＊　幾つぐらい［の時］。

21B：エ　ショーカ゜ッコーノ　ヤスミジカンニ　（C　ンー）　ウンドーバデ。
　　え　小学校の　休み時間に　（C　んー）　運動場で。

　　アノジブン　リン　ナルマデニ、　センセラ　ジブン
　　あの時分　鈴［が］　鳴るまでに、　先生たち［の］　時分［は］

　　モ　カネダッタデスカ　Aセンセラ。
　　もう　鐘でしたか。　A先生たち。

22A：イエ　イエ、　コズカイサン、　リン　フッテ
　　いえ　いえ、　小使いさん［が］、　鈴［を］　振って

　　（B　リン　フッテイタワナー）　＊＊マシタゼ？　（C　ウン）
　　（B　鈴［を］　振って行ったよねえ）　＊＊ましたよ？　（C　うん）

23B：シマイコ゜ロ　リンダッタケドノ。　ベルダッタケドノ。　（C　ベル）
　　終り頃［は］　鈴だったけどね。　ベルだったけどね。　（C　ベル）

24A：ケンカモネー、　マー　マー、　コドモノコロ　チュッタラ
けんかもねえ、　まあ　まあ、　子供の頃　　といったら

ケンカシタコト、　　オモイダストチカ゜ウンカノー。
けんかしたこと［を］、　思い出すんじゃないかねえ。

25B：ナー　ケンカ　　オーカッタシノー、　ガッコノ　ヤスミジカンノ
ねえ　けんか［が］　多かったしねえ、　学校の　休み時間の

アソビ　タ　　クニトリ　チューノ　　シテン。
遊び　といったら　「国盗り」　というの［を］　したんだ。

26A：ソーデスネー。
そうですね。

27B：セナンダ？
しなかった？

28C：クニトリ　チュタラ、
「国盗り」　といったら、

29B：シッカクニ　コー　（C　ンー　シタ　シタ）　カイテネ、
四角く　こう　（C　んー　した　した）　書いてね、

（A　ソーデスノー　＊タラ）　コー　イクッモ　スジ　セ、
（A　そうですねえ　＊たら）　こう　いくつも　筋　線［を］、

ソー、　コ゜バンノメノヨーニ　カイトイテ　ホイデ、
そう、　碁盤の目のように　書いておいて　それで、

スベ、スベノイシ　ヒロテキテネー、　ジブンジブンニ　キメテ。
すべすべの石［を］　拾ってきてねえ、　めいめいに　決めて。

ホィテ　コー　コー、　ハイッタラー、　ケシテネ。
そして　こう　こう、　入ったら、　消してね。

ヒーロー　シテクヤツ　（A　アー）　シタデスラ。
広く　していくやつ［を］　（A　ああ）　しましたよ。

アレワ　ヨー　シタ。　ホイテ　テーデ　コカ゜ニ　スンノ。
あれは　よく　した。　そして　手で　このように　するやつ。

12↑13

（A　エ、　クニトリ）　（C　ウン）　マス　カカント、
（A　え、　「国盗り」）　（C　うん）　桝［目を］　書かないで、

（C　ウン　ウン）　ジブンノ、　ユビノ　ハバ　コーシテネ。
（C　うん　うん）　自分の　指の　幅［で］　こうしてね。

（A　ソー）　デ　マタ　コー　ウッテ　カッタラ　（A　マー）
（A　そう）　で　また　こう　打って　勝ったら　（A　まあ）

マタ　コー、　ソンダケカ゜ナ〔4〕　ジブンノ　ユビノ
また　こう、　それだけ分　自分の　指の

ハバ　トレテネ。
幅［の分だけ］　取れてね。

30C：ホイカラ、　チンココ　チューンカ？
それから、　「チンココ」　というのか？

31A：ダカラ　テ、　（B　チン）　テーノ　オオキイ　ヒト
だから　手、　（B　チン）　手の　大きい　人［は］

トクダッタノー。
得だったねえ。

32B：ン　ソー　ソ　ソー　テノ　{笑}
うん　そう　そう　そう　手の　{笑}

33C：チン　チン　パー　チューヤツヨ。
ちん　ちん　ぱー　というやつ［だ］よ。

34B：チンコク　テ　アタシ　ユータケド。
「チンコク」　って　私［は］　言ったけど。

35A：チンコク　チュータ。　エー。
「チンコク」　と言った。　ええ。

36B：アンタ　チンココ　テ　ナデヨー。　{笑}　（C　{笑}）
あなた　「チンココ」　って　何故［だ］よ。　{笑}　（C　{笑}）

37A：ソイカラ　イシケリ　チューノモ　オンナシヨーナモンヤネ。
それから　石蹴り　というのも　同じようなもんだね。

38B：ソーヤノ、　（A　ンー）　イシケリモ　アッタデスノ。
そうだね、　（A　んー）　石蹴りも　ありましたね。

チン　チン　パー　チン　チン　パー、　ホィテ、　ソコデ
ちん　ちん　ぱー　ちん　ちん　ぱー、　そして、　そこで

ヒックリカヤッテ、　(C　ソー　ソー　ソー)
ひっくりかえって、　(C　そう　そう　そう)

モドッテクルンデショ、(A　エー)　イチネン　ニネン　サンネン、
戻ってくるんでしょう、(A　ええ)　1年　　2年　　3年、

ヨネン　ゴネン　(A　エー)　ゴートーカ〔5〕。　{笑}
4年　　5年　　(A　ええ)　高等(強盗)科。　{笑}

イチネン　ニネン　トカ　ユータン
1年　　2年　　とか　言ったん

39A：ソレ　　ヨー　ヤリマシタ。
それ[は]　よく　やりました。

40B：ネ、　ミミモ　アッタデショ　(A　エー)　チサイコニワ　ミミ、
ね、　耳も　あったでしょう　(A　ええ)　小さい子には　耳[を]、

ツケテ　ソコエ、
つけて　そこへ、

41A：トビコシヤッタ、カラネ。
飛び越しだったからね。

42B：トビコシ、　　シヌクカッタラネ、　ミミ
飛び越し[を]、　しにくかったらね、　耳[を]

コサエタケ゜ヨカ　　テ。　マー　イロイロシテ　マー　ソンナ、
こしらえてあげようか　って。まあ　いろいろして　まあ　そんな、

43C：ンー　ナワトビヤナ。
　　んー　縄跳びでだね。

44B：ナワトヒモ　シタノー。　ナン　チューテ　ナワ　　トンダ？
　　縄跳びも　したねえ。　何　と言って　縄［を］　とんだ？

　　ナワトビ　チューノワ。　イマミタイニ　オーハイリ　ハイ　ヨロシ
　　縄とび　というのは。　今みたいに　「お入り　　はい　よろしい」

　　ラテ　ユエヘンノ。
　　などと　言わないね。

45C：イマカ。　（B　イマ）
　　今か。　（B　今）

46A：ハーヨー　ハイリヨシ　ハイリヨシ、　チューテノ。
　　「早く　入りなさい　入りなさい」、　と言ってね。

47B：ソーヤネー。　ンー　ソンナコト　　ユーテ　ヒッパッテー
　　そうだねえ。　んー　そんなこと［を］　言って　引っ張って

　　ナワトビモ　シタシ、　タスケオニコ゜ト　チューノ　　シタ。
　　縄跳びも　したし、　「助け鬼ごっこ」　というの［を］　した。

48C：ウン。
　　うん。

49B：テー　ツナイドイテ　ホイテ　ハシノヒトネー。　タスケニキテ、
　　手［を］　つないでおいて　そして　端の人ねえ。　助けにきて、

テー　ハッテモータラ　ミナ　タスカッテ　(C　タスカッテ)
手［を］ はたいてもらったら 皆　助かって　(C　助かって)

パーット　ムコーノー　ポプラノキーカラ、
ぱあっと　向こうの　ポプラの木から、

エノキノキーカラ　アッチーネ、　オーキナ　キーノ　カケ゜ー
榎の木から　あちらへね、　大きな　木の　陰へ

(C　ソーデ＊＊)　ヨッテノー。
(C　そうで＊＊)　寄ってねえ。

50A：ソーデスノ。
そうですね。

51B：ソレワ　シタノ。　アンタ　ダイニショーカ゜ッコーエ
それは　したね。　あなた［は］　第二小学校へ

アトカラ、　カワリナサッタンデナー。
後から、　替りなさったのでねえ。

52C：ソヤ　ソヤ、　サンネンノ、　(A　カワッタンカ)　ウン。
そうだ　そうだ、　3年の、　(A　変わったのか)　うん。

53B：チュートデ。
中途でね。

54C：アノー　ヤマサキエ　カワッタンデ。　(A　アー、　ソヤノー)
あの　山崎へ　替ったんで。　(A　ああ、　そうだねえ)

55B：ソレデー　サンネンコ゜ロマデ　ジブンラ　イッショニ　ダイーチイ
それで　3年頃まで　自分ら　一緒に　第一へ

イタケドノ、　ダイニエ　アンタ　カワリナハッタハカ。
行ったけどね、　第二へ　あなた　替りなさったから。

56C：ヨネンカラカ。
4年からか。

57B：コノカタ　ハイカラヤッタハカ　ローラースケート
この方［は］　ハイカラだったから　ローラースケート［を］

ナハッタデ？　ヤマサキノオウチー　アソビニイカイテモータラ
なさったよ？　山崎のお家へ　遊びに行かせてもらったら

シャーット　ローラースケート、　ローラスケート。
シャーっと　ローラースケート、　ローラースケート。

58A：タコ　アケ゜タンヤナ。
凧［を］　揚げたんだね。

59B：ソー。　{笑}　アンタワ　チット　ダン〔6〕、　{笑}
そう。　{笑}　あなたは　ちょっと　××　{笑}

オトコノコカ゜タヤッタ、　（A　タコ　アゲテネー、　タ、　タ）
男の子型だった、　（A　凧［を］　上げてねえ、　×　×）

チャンバラカラ、　（C　チャンバラガナ）
ちゃんばらから、　（C　ちゃんばらがね）

60A：ンー　ノイドイ　ハマッタコト　　アルナ。
　　んー　野井戸へ　落ちたこと［が］　あるね。

61C：ノイドトチカ゜ウンヤ　アイ　　X1サントコノ、
　　野井戸じゃないんだ　あれ［は］　X1さん［の］所の、

　　（A　フン）　イドヤ。
　　（A　ふん）　井戸だ。

62A：ソーカ。
　　そうか。

63C：ウン。　（A　ハーン）　タナベエキ　　ツクルトキ。
　　うん。　（A　はあん）　田辺駅［を］　作る時。

64A：Cチャン　タ、　タコアケ゜　　シヤッテ　（B　Cチャン）
　　Cちゃん　×　凧揚げ［を］　して　　（B　Cちゃん）

　　イドへ　ハマッタ　チューノ　　キータ。　（C　{笑}）
　　井戸へ　落ちた　というの［を］　聞いた。　（C　{笑}）

65B：ソーヤ　{笑}　モ　ソイデ　イチモクリョーゼンデ　コノカタノ、
　　そうだ　{笑}　もう　それで　一目瞭然で　　この方の、

66C：ニドノイケジヤデ。
　　「二度の生けり」だよ。

67B：メンボクヤクジョヤデノ。　（C　ンー）　ニドノイケジヤテカ。
　　面目躍如だよね。　（C　んー）　「二度の生けり」だって。

68C：ンー、　（B　ンー）　ジューニカ゜ツノ　ニジュークニチヤモン。
　　んー、　（B　んー）　12月の　　29日だもん。

（A　ホー）　ズット　コー　タコー、　＊　ヒモ　　コー
（A　ほう）　ずっと　こう　凧［を］、　＊　紐［を］　こう

ヒッパッテナ、　ウシロ、　コー　オ、　オリテキタンデ、
引っ張ってね、　後ろ、　こう　×　降りてきたので、

（B　ァオー）　ホイデー、　ウエー　アカ゜ラスタメニ
（B　ぁおー）　それで、　上へ　揚がらせるために

コー　ウシロイ　サカ゜ッタンヤ、　（B　ハー）　ホィタ
こう　うしろへ　下がったんだ、　（B　はあ）　そしたら

コイシカ゜　コー　イッパイ　コー　オイターッテンヤ。
小石が　こう　いっぱい　こう　置いてあったんだ。

アノ　プラットホーム　（B　X1サン）　ツクルニ、ツイテ。
あの　プラットホーム［を］　（B　X1さん）　作るにあたって。

（B　フーンー）　ソコイ　ノボッタツモリカ゜　コンド
（B　ふうんー）　そこへ　上ったつもりが　今度

イドダッタワケ。　ホイデ　パサーント。　（A　ハアー）
井戸だったわけ。　それで　パサーンと。　（A　はあー）

69B：ソイ　ミナ　X1サンノニワダッタン。　X1ノ。
　　それ　みな　X1さんの庭だったの？　X1の。

70C：ソヤ　ソヤ　ソヤ　ソヤ。
　　そうだ　そうだ　そうだ　そうだ。

13↑14

71B：X1サン、　ワタシモ、　アソビニワ　イタコト
　　X1さん［へは］、　私も、　遊びには　行ったこと［が］

　　アルケド　ニワ　ヒロカッタハカイノー。
　　あるけど　庭［が］　広かったからねえ。

72C：ウン。　ノミミズノ　イドダッタンヤ。
　　うん。　飲み水の　井戸だったんだ。

73B：オー。　アノジブンノ　タコー　センセー　ナンデスデノー、
　　おお。　あの時分の　凧［は］　先生　あれですねえ、

　　キマッテマシタノ。
　　決まっていましたね。

74A：キマッテマシタンヤ
　　決まっていたんだ。

75B：コーシテ、　ノ　ヤッコサンミタイナ　コカ゜ナー、
　　こうして、　×　奴さんみたいな　こんな、

76A：ヤッコダケヤ。
　　奴凧だ。

77B：アー　（A　ヤッ）　ウリヤル　モーヒトツダッタノ〔7〕。
　　ああ　（A　ヤッ）　売っている　もう一つだった［＝あった］ね。

78A：ヤッコダコトカ、　キントキダコ、トカナ。
　　奴凧とか、　　金時凧とかね。

79B：アー　キンタロサンノモ　（A　エー）　アッタノー　ソー　ユワ、
　　ああ　金太郎さんのも　（A　ええ）　あったねえ　そう　言えば、

80A：マ　ソノフタツカ゜　アットテキニ　オーカッタデスネ。
　　ま　その二つが　　圧倒的に　　多かったですね。

81B：ン　ホンマニ　カワッタノ　テ　ナカッタ。
　　ん　本当に　変ったの　って　無かった。

82A：ソィカラ　チョット　コートーナデワー　オーキ゜ダコ　チューノモ
　　それから　ちょっと　高等な［の］では　扇凧　というのも

　　アッテネ、（B　ヨー）　ア、　アラ　タカイバッカリデ
　　あってね、（B　よー）　×　あれは　高いばかりで

　　アンマィ　アカ゜ラナンダ　{笑}
　　あまり　揚がらなかった。{笑}

83B：ソレワ　シランナ　ワタシラノー。　ソーデスカ。　ワタシ　イマ
　　それは　知らないね　私ら［は］ねえ。　そうですか。　私　今

　　ウラニー　フヨー　サイタンネケド　アイ　ミタラ
　　裏に　芙蓉［が］　咲いているんだけど　あれ［を］　見たら

　　（A　アー）　オモイダスン　ダイイチショーカ゜ッコー　ヨー、
　　（A　ああ）　思い出すん［です］　第一小学校［に］　よく、

ア、　コ、　　ツクエ　　アルデショ、　　（A　エー）　ホィデ
×　　こう、　机［が］　あるでしょう、　（A　ええ）　それで

フタ　　パット　コー　アケタラネー、　カバン
蓋［を］　パッと　こう　開けたらねえ、　鞄［を］

イレルトコ　　アルンヤケド、　ソコエ
入れるところ［が］　あるんだけど、　そこへ

ダイーチショーカ゜ッコーノ　オモテノ　アノ　イシカ゜キノネー、
第一小学校の　　表の　　あの　石垣のねえ、

（A　エー）　ドバシノカ゜ッコー　チューテ　カドノトコニ
（A　ええ）　土橋の学校　　といって　角の所に

アイ　　アッテネー　フヨー、　　アイ　　ヒローテワ、
あれ［が］　あってねえ　芙蓉［が］、　あれ［を］　拾っては、

ヒナハン　　コシャエルンデスワ。
雛さん［を］　こしらえるんですよ。

84A：ハイカラサン　チュテネー。
はいからさん　といってねえ。

85B：アー　ハイー　エ、　アノ　チリカ゜ミデ　　キモノ　　キセテ、
ああ　はい　え、　あの　ちり紙で［作って］　着物［を］　着せて、

（A　エー）　ホイテ　ナンニンモ　ノセトイ　　アノ、
（A　ええ）　そして　何人も　　乗せておい［て］　あの、

ネカイテネー。（A　エ）　キョーシツノ　ツクエノ　シタエ
寝かせてねえ。（A　え）　教室の　　机の　　下へ

ヨー　{笑}。　アカ゜ナコトバッカリ　{笑}。　アソンダデスヨ。
よく　{笑}。　あんなことばかり　　{笑}。　遊びましたよ。

86C：マー、　ワタシラワ、　オモニ　コー
まあ、　私らは、　　主に　　こう

オトコノコミタィナ、アソビバッカリデ。（B　アー）
男の子みたいな遊びばかりで。　　（B　ああ）

チサイトキカラ、（B　フーン）　アイ　　タイキョー
小さい時から、　（B　ふうん）　あれ［は］　胎教［が］

ワリカッテンヤ　トモゥワ。（B　タイキョー　ワリカッタ　{笑}）
悪かったんだ　と思うよ。（B　胎教［が］　悪かった　{笑}）

オトコノコヤ　ト、マー　コンドー　オトコノコヤ　ト　オモ、
男の子だ　　と、まあ　今度［は］　男の子だ　　と　思［って］、

87B：アー　キタイサレタッタンヤ　（C　ウン）　アンタ
ああ　期待されていたんだ　　（C　うん）　あなた

ネーチャンー　ナニデナ　Cケ　　ツク゜ータメニ　ホラ
姉さん［が］　あれでね　C家［を］　継ぐために　　それは

オトコノコ　　ホシ　　ト　オモテ。
男の子［が］　欲しい　と　思って。

88C：ソイ、 ソイデカ シランケドー サンリンシャー カタナー ラッパ、
それ、 それでか 知らないけど 三輪車 刀 ラッパ、

（B ソーヨ） ナー。 （B ウン）
（B そうよ） ねえ。 （B うん）

89A：ンー、 オトコノ スルコトバッカリ シタッテン。
んー、 男の［子の］ することばかり していたんだ。

90B：ホイテ コー アノ、
そして こう あの、

91C：ソイテ テッポーカラ。
そして 鉄砲やら。

92B：ツイテ〔8〕 チュート ハシル ホラ、 （A エー スケ）
突いて ちゅうと 走る ほら、 （A ええ スケ）

スケー、 （A スケート） ウン、 （C ウン） ムカシナ。
スケー［ト］、 （A スケート） うん、 （C うん） 昔ね。

イマノ アシダケ ハイテ コー ラーラー、
今の 足だけ 履いて こう ××××［＝ローラー］

スケタ、 （C アェ ロ、 ローラ、
×××［＝スケート］、 （C あれ［は］ × ローラ［ー］、

ローラートチカ゜ワケナ） アイワ ローラートチカ゜ウンヤ ホイデ。
ローラーじゃないわけね） あれは ローラーじゃないんだ それで。

スケート　チューンカ？　（C　スケート）　ウン
スケート　というのか？　（C　スケート）　うん

（C　テ　ユーテンナ）　アンナハイカラナモン　　アッテノー。
（C　と　言ったんだね）　あんなハイカラなもの［が］　あってねえ。

93A：オンナノコワ　アンマリ　セナンダゲドノー。　（C　{笑}）
女の子は　あまり　しなかったけどねえ。　（C　{笑}）

94B：ホイテ　クマモトノオモチャヤニ　ホー、　アノ、　ニンキ゜ョノクビ
そして　熊本のおもちゃ屋に　それ、　あの、　人形の首［を］

ウリヤッテネ。　（A　ウン）　オヒナハンノ。　クビダケ　コーネー。
売っていてね。　（A　うん）　お雛さまの。　首だけ　こうねえ。

95A：エー、　ムカシワネー。
ええ、　昔はねえ。

96B：オ　ムカシワ　ホィデ　（C　ヨー　ムカシワネー）　ソレエ
×　昔は　それで　（C　よく　昔はねえ）　それに

キモノー　キセテ、　ハィ、　（A　ワラエ）　ワラエ、
着物［を］　着せて、　はい、　（A　わらへ）　わらへ、

（A　タバネタンノエ　サシテネ）　アエオ、　サシテネー
（A　束ねてあるのへ　差してね）　あれを、　差してねえ

ガッコーエ　イク　ミチノ　カ、　アサヒドー　アッテ
学校へ　行く　道の　×　朝日堂［が］　あって

クマモトノ　オモチャヤ　　アッテ　アソコラヘンニ
熊本の　　おもちゃ屋［が］　あって　あそこ辺りに

ウリャッテノー。　（A　ソーヤナ）　ホイテ　ソカ゜ナン
売っていてねえ。　（A　そうだね）　そして　そんなの［を］

モッテ　ガッコーエ　ガッコノカバント　イッショニ
持って　学校へ　　学校の鞄と　　一緒に

ソノヒナハン　　モッテイクンヨ。　ヒルカラ
その雛さん［を］　持って行くのよ。　昼から

モドッテキタラ　マタ　ソイオ　オカシノハコライ
戻ってきたら　また　それを　お菓子の箱などへ

ネカイテ　フトンモ、　ヌーテモーテネー　オヤニ。
寝かせて、　蒲団も、　縫ってもらってねえ　親に。

ホイデ　モッテ　オマハントコイカテ　ホリチョノヨー
それで　持って　あなたの所へだって　堀丁のねえ

X2チャントコマデ　　アイ　　モッテ
X2ちゃん［の］所まで　あれ［を］　持って

エカ゜ワカラ　イタワ。
江川から　　行ったよ。

97C：イタカ。
行ったか。

98B：アメノ　フルヒダッタン　　オボエタールケド、　ヒナハン
　　雨の　降る日だったの［を］　覚えているけど、　雛さん［を］

　　カカエテ　ヒナハン　　ネカイテ。
　　抱えて　雛さん［を］　寝かせて。

99C：ンー　ワタシワ　ナンセ　ニ　ニンギョーア、　デ　アソブ
　　んー　私は　なにせ　×　人形×　で　遊ぶ

　　チューコト　　アンマリ　セナンダ。
　　ということ［を］　あまり　しなかった。

100B：アンタノ。
　　あなたね。

101C：ウン。　ママコト　　シタカテ　イトコガ　ミナ　ホ、
　　うん。　ままごと［を］　したって　従妹が　皆　×

　　オンナバッカリヤロ？　ホタ　　オトーサンヤクヤ。　（B　{笑}）
　　女ばかりでしょう？　そしたら　お父さん役だ。　（B　{笑}）

　　サンリンシャデ　ノッテ。　トニカク　{笑}
　　三輪車で　乗って。　とにかく　{笑}

102A：コエカラ　　オトコヤクヤ。　{笑}
　　声から［して］　男役だ。　{笑}

103B：{笑}　ソーヤノー、　ママコト、　ママコトワ　ヨー
　　{笑}　そうだねえ、　ままごと、　ままごとは　よく

ハヤッタノ、　（A　フン）　ソノジブンニ　ママコ゜トモ
流行ったね、　（A　ふん）　その頃に　　ままごとも

シタシ　　ヒナハンコ゜ト　チューター　　ソノジブンワネ。
したし　「雛さんごと」　　といった、　その頃はね。

ヒナハンコ゜ト　チューテ　ハク〔9〕　セッケンノハコラ
「雛さんごと」　といって　××　　石けんの箱など［を］

モッテ？
持って？

104A：ホタラ　　ソノコロノ　コトバズカイチュタラ　　イマト　ゼンゼン
そしたら　その頃の　　ことばづかいといったら　今と　　全然

チカ゜ウンヤケドノー。
違うんだけどねえ。

105C：チカ゜ウヤロ　ト　オモゥワ。
違うだろう　　と　思うよ。

106B：ハヨー　シヨシラヨー　　ハヨー　オイデラヨー　　テ
「早く　してくださいよ」　「早く　来てくださいよ」　って

ユーテノー
言ってねえ。

107A：ハヨー　オイデラヨー　　ハヨ　　シヨシラヨー　　テ。
「早く　来てくださいよ」　「早く　してくださいよ」　って。

（B　ノー）　ソカ゜ナコト　ショスンナ　チュテノー、　オヤニモ
（B　ねえ）「そんなこと　しなさんな」　といってねえ、　親にも

ヨー　オコラレター。
よく　怒られた。

14↑15

108B：オコラレタラ　キバットショー　キバットショー　チュテ
怒られたら　「堪忍してよ　堪忍してよ」　と言って

ナ、　ナイタヨーニ　オモウ　{笑}　モー　キバットショ
×　泣いたように　思う　{笑}　「もう　堪忍して

セーヘンサカイ　キバッテラ　チューテ　{笑}
しないから　堪忍してよ」　と言って　{笑}

109A：マー　タナベ、コトバデ、　ヨ、　ヨソデ　ツーヨーセンノ、
まあ　田辺ことばで、　×　他所で　通用しないの［は］、

ソ　ソレカ゜　（B　ソ、　ソコラタリヤノー）
×　それが　（B　そう、　そこらあたりだねえ）

ヨコズナデショーナー。　キバッテ　チューノカ゜。
横綱でしょうねえ。　「堪忍して」　というのが。

110B：オカシヤサンラモ　アッタケドノー。　オカシヤサンモ
お菓子屋さんなんかも　あったけどねえ。　お菓子屋さんも

アッタシヤケド　マー
あったし、だけど　まあ

111A：コノコ゜ロ　モー　アノ　ゴイサレマセ　　チュナ〔10〕コト
　　この頃　　もう　あの「ごいされませ」というようなこと［を］

　　ユー　オバーサン　　モー　シンデシモータネー。
　　言う　お婆さん［は］　もう　死んでしまったねえ。

112B：ゴイサレマシェ　ッテー　アンマリ　ユワンネー。
　　「ごいされませ」　って　あまり　言わないねえ。

113A：ゴメンナサイ　テ　アノー　マエー　トールトキニネー。
　　ごめんなさい　って　あの　前［を］　通る時にねえ。

114B：ハー　ハー　アー　アー、　アー　ゴイサレマセ　　ユーテ。
　　はあ　はあ　ああ　ああ、　ああ「ごいされませ」［と］　言って。

115A：ゴイサレマセ　テ　ユテネー
　　「ごいされませ」　って　言ってねえ

116B：X3ヤンラ　オモシロカ゜ッテケド　X3ヤン
　　X3さんなんか　おもしろかったんだけど　X3さん［は］

　　チューブシテナハンネテネ。
　　中風［を］なさっている［＝患っていらっしゃる］んだってね。

――― 中　略 ―――

117B：イマミタイニ　ホィデ　トンボ　　トブデショー？（A　エー）
　　今のように　それで　トンボ［が］　飛ぶでしょう？（A　ええ）

ホイテ　アカトンボ　　トブヨーニ　ナッテキテ　コンド、
そして　赤トンボ［が］　飛ぶように　なってきて　今度、

オニヤンマヤトカ　ナントカ、　オンナワ　　セナンダケド、
オニヤンマだとか　なんとか、　女［の子］は　しなかったけど、

カミノケーデ　ホラ。
髪の毛で　　ほら。

118A：エー。
ええ。

119C：アンナモン　シタデ。
あんなもの　したよ。

120B：アー　アンタ　　オトコミタイナアソビ　スルサカ。　（C　{笑}）
ああ　あなた［は］　男みたいな遊び［を］　するから。　（C　{笑}）

121A：コノコ゜ロワ、　ソーイワ　　アレ　　ミランノー。
この頃は、　そういえば　あれ［を］　みないねえ。

122C：リョーホートモ　コカ゜イシテノー。　（A　アー）
両方とも　こうしてねえ。　（A　ああ）

123B：ホイモ　ホィデ、　ハマデノ。　（A　エー）　ハマエ　イタガナ。
それも　それで、　浜でね。　（A　ええ）　浜へ　行ったよね。

124A：クーキジューノタマオバ　アノー　アカノネー　アノ、
空気銃の玉を　あの　紅のねえ　あの、

モミ　チューテモー　センセーラ　　ゴゾンジナイデショーケド
もみ　といっても　先生がた［は］　ご存知ないでしょうけど

（C　ンー）　アノー　オンナ、ノキモノノウラジー、
（C　んー）　あの　女の着物の裏地へ、

（B　アー　モミ　モミ）　ウスイ　アカガ、　コノ、
（B　ああ　もみ　もみ）　薄い　紅が、　この、

コノコ゜ロ　ウラー　モー　ア　ア、　アカウラ
この頃　裏［は］　もう　×　×　紅裏

（B　アカー　センケド）　ウチマセンカラー　ナイデスケ
（B　紅［は］　しないけど）　打ちませんから　無いですけ［ど］

ムカシ　ミナ　アカウラ　（B　モミダッテン）　ソノモミデ、
昔［は］　皆　紅裏　（B　もみだったんだ）　そのもみで、

ツツミマシテネー、　ホイテ　ソンナン　フタツ　ツクッテー
包みましてねえ、　そして　そんなの［を］　二つ　作って

チョ　ソノアイダオバ　オンナノカミノケー　マ　ホソイデショ、
××　その間を　女の髪の毛　ま　細いでしょう、

ソイデ　コー　ツナイデ、　ホイテ　トンボ　トブトキニ、
それで　こう　つないで、　そして　トンボ［が］　飛ぶときに、

ホー　チュテー　ホルンデスヨ。　ソシタラ
ホー　と言って　投げるんですよ。　そしたら

ジャコ゜ ジャコ゜ ジャコ゜ ッテ　トンボ　　（B　ホーラ）
ジャゴジャゴジャゴーって　　トンボ［が］　（B　それは）

トンボ　　ヒッカカッテ　オチテクルン。　　ソ、
とんぼ［が］　引っ掛かって　落ちてくるん［です］。　×

125B：オーキナオニヤンマノー。
大きなオニヤンマねえ。

126A：モ　ソレカ゜　モー　（B　ウン）　アノ　ヒロッパチュー
もう　それが　もう　（B　うん）　あの　広場という

ヒロッパ　モー、（B　ナー）　トンボト、　トリデー
広場［が］　もう、（B　ねえ）　トンボ×　取りで

ジューマンシタンデスヨ　ムカシワ、　チョード
充満したんですよ　昔は、　ちょうど

イマコ゜ ロノキセツデスケドネ。
今頃の季節ですけどね。

127B：テ　オンナノコラ　ミーイタラ〔11〕　チョード
そして　女の子たち［が］　見ていたら　ちょうど

オトコノコラ　ソノーネー　ア、　ユーヤケシタールデショ
男の子たち［が］　そのねえ　あ、　夕焼けしているでしょう

アカネデネー、　ニシノソラ　ヤケタールシ　オトコノコーラカ゜
茜［色］でねえ、西の空［が］　焼けているし　男の子たちが

ソノ　トンボニネー、　アヤツラレテ　コカ゜イニ　{笑いながら}
その　トンボにねえ、　操られて　こんなに　{笑いながら}

オドリヤルミタイナ　ワタシラ　ヨーセンサカイニ、
踊っているみたいな、　私たち［は］　できないから、

ミーイタ　トッテキタラ　ココエ　イクツモ　ホイテ、　コー
見ていたら　取ってきたら　ここへ　いくつも　そして、　こう

ハソンデノ。　（A　ソーデスネ）　コー　ハソンデ　コー
挟んでね。　（A　そうですね）　こう　挟んで　こう

ユーユートシテ　モドッテキヤッタ　{笑}
悠々として　戻ってきた　{笑}

128A：ソノコロ　ホイテー　オンナノコ、　ミナ、　ミナ　オ、
その頃　そして　女の子［は］、　皆、　皆　×

ナーカ゜イオサケ゜カ゜ミダッタデショ、　ダカラ　ソノケーカ゜
長いお下げ髪だったでしょう、　だから　その毛が

ヨカッテン。　イマミタイニ　（B　キョービ　ナイワ　{笑}）
よかったんだ。　今みたいに　（B　今日［は］　ないよ　{笑}）

ミジカカッタラ　ソレ　マニアワン　{笑}　（C　{笑}）
短かったら　それ［は］　役に立たん　{笑}　（C　{笑}）

129B：ソーヤノー、　ケー　ナイワノー。　（A　ソー　{笑}）　ソーヤ
そうだねえ、　毛［が］　ないよねえ。　（A　そう　{笑}）　そうだ、

ソカ゜ナカミ　シターッタワノー。　ホイデ　エプロン
そんな髪［を］　していたよねえ。　それで　エプロン［が］

ナイサカィ　コカ゜ナ　シ、コノ＊＊　チョード　キモノノーハバノ、
ないから　こんな　×　この＊＊　ちょうど　着物の幅の、

コノクライノタケノ　ククット、　アマリキ゜レデ　キッテ　コー、
このくらいの丈の　××××　あまりぎれで　切って　こう、

（A　エー）　ククッテノー。　（A　ハー）　イマデモ　X4、
（A　ええ）　括ってねえ。　（A　はあ）　今でも　X4、

X4チャン　アカ゜イニシテナ、　デンコーノホー
X4ちゃん　あんなにしてね、　田高の方［で］

ジムイン　シ、　シテアッタ、　X4サン　アルデショ。
事務員［を］　×　していた、　X4さん　いるでしょう。

（C　ウン）　コノアイダ　ホイクエン　チョットネ、　（C　フン）
（C　うん）　この間　保育園［を］　ちょっとね、　（C　ふん）

テットーテアケ゜ラ　チュテ　オシメ　アライニ、デモ
手伝ってあげる　と言って　おしめ［を］　洗いにでも

ボランティアニ　キタケ゜ラ　チューハカ　キテモーテン。
ボランティアに　来てあげる　と言うから　来てもらったんだ。

ホイタラ、ノー　Bチャン　チョット　マッテヨ　チューハカィ
そしたら、「ねえ　Bちゃん　ちょっと　待ってよ」と言うから

ナニスルノ　アンタ、　ホイタラ　ナッカシー　アノ
「何をするの　あなた」[と言った]　そしたら　なつかしい　あの

ホソナーカ゜イ、　ネ、　(A　エー)　モメンノ、
細長い、　ね、　(A　ええ)　木綿の、

タンモノハバダケノネー、　(A　アー　マイカケ?)　マイカケ。
反物幅だけのねえ、　(A　ああ　前掛け?)　前掛け。

(A　アー)　デ　オンナジ　トモノデ　ヒモ　ツケテ、
(A　ああ)　で　同じ　共布で　紐[を]　つけて、

(A　ンー)　ホイテ　ソイ、　スンダラ　フタツニ　オッテ
(A　んー)　そして　それ[を]、　済んだら　二つに　折って

クルクルクル　ト　マイテ　ヒモデ　キュット　ククッテネ、
くるくるくる　と　巻いて　紐で　きゅっと　くくってね、

(A　アー)　ソイ　ダイテキテ　キュット　＊＊＊＊
(A　ああ)　それ[を]　出してきて　きゅっと　＊＊＊＊

X4チャン　ナツカシーヤツ　アンタ　モッテキテクレタ
「X4ちゃん　なつかしいやつ[を]　あなた　持ってきてくれた」

テ、　＊　シバラク　イロタヨ　{笑}。　(C　{笑})
って、　＊　しばらく　触ったよ　{笑}。　(C　{笑})

15↑16

アカ゜ナンバッカリ　ヤッテ　ホイデ
あんなのばかり　して[＝着けて]　それで

ライイチラモ　　イタデスゼ？　（A　アー）　ガッコエ
第一［小学校］なんかへも　行ったですよ？　（A　ああ）　学校へ

イクノニ。　マエカケ　　アテテネ。
行くのに。　前掛け［を］　着けてね。

130A：ソーデスネ、　ガッコエ　イクノニネー
そうですね、　学校へ　行くのにねえ

131B：ソー、　（A　エー）　マイカケ　　アテテノ。　エプロンラテ
そう、　（A　ええ）　前掛け［を］　当ててね。　エプロンなんて

ナ＊　コーヤッテ　ククッテノー。
××　こうやって　くくってねえ。

132A：ワタシラモ　ヨー　マイ　マイカケ　　ヤレ　チュテ　　ヨー
私たちも　よく　××　前掛け［を］　やれ　と言って　よく

オヤニネー。　ヤラナアカン　　チュテ、　　ヤリヨシ
親にねえ。　やらなければいけない　と言って、　やりなさい

ヤリヨシ　チュテー　ヤラサレタ。テューノー　　マー　ワタイ
やりなさい　と言って　やらされた。というの［は］　まあ　私［は］

ゴハン　　タベィトキ　　コボスサカィヤケド　{笑}
ご飯［を］　食べる時［に］　こぼすからだけど。　{笑}

133B：ア　ソーヤネー、　ココエーネー。　マイカケ　チューノ
あ　そうだねえ、　ここへねえ。　前掛け　というの［が］

アッテノー。
あってね。

134A：イマノコドモラ　ソンナコト　セーヘンケドー　ムカシワノー。
今の子供たち［は］　そんなこと　しないけど　昔はねえ。

135B：ムツカシカッタハカイノー。
厳しかったからねえ。

136A：ムカシワ　ミナ　コイ、　キモノダッテンモンネー　ワタシラー
昔は　皆　これ、　着物だったんだもんねえ　私たち［は］

ガッコェ　イクトキモ。　コンカ゜スリノキモノエ　ワラゾーリ
学校へ　行く時も。　紺絣の着物へ　わら草履［を］

ハイテ　イタンヤ。
履いて　行ったんだ。

137B：ソーデショーノー。（A　ンー）　ワラゾーリワノー、　ワラゾーリ、
そうでしょうねえ。（A　んー）　わら草履はねえ、　わら草履、

ワラゾーリニ　アサウラ　テ　ユーンカノー。　アサウラ　ウラカ゜
わら草履に　麻裏　って　言うのかねえ。　麻裏　裏が

ゴムニ　ナッタノワ　ヨーヨデシタノー。　ハジメ、　コー
ゴムに　なったのは　最近でしたねえ。　初め［は］、　こう

（A　モー）　オモテツキノドーリ　チューテ、
（A　もう）　表付きの草履　といって、

138A：モー　Cチャン　　イクコロワ　フクデシタカー？
　　もう　Cちゃん［の］行く頃は　　服でしたか？

139C：ウン、　ワタシントコー　（B　アンタ）　ワリニ　センタイ
　　うん、　私のところ［は］（B　あなた）　わりに　××××

　　イタ　　センタン　　イタンデ。　（A　センタン　　イタ）
　　行った　先端［を］　行ったので。（A　先端［を］　行った）

140B：アンタ　　ハ、　シェンタンオ　イタサカイヤ。（C　ンー）
　　あなた［は］　／　先端を　　行ったからだ。（C　んー）

141A：アー　ワタシラ　　イクコロ　　オトコノコデ　フク
　　ああ　私たち［が］　行く頃［は］　男の子で　　服［を］

　　キテンノ　　チュー、タラ　コーチョハンノムスコカ
　　着ているの　と言ったら　　校長さんの息子か

　　イシャノ、コドモク゜ライシカ　ナカッタンガノー。
　　医者の子供ぐらいしか　　なかったがねえ。

　　（B　ソーヤノ、　ヨケナカッタ）　ゼンブ　キモノ。
　　（B　そうだね、　多くなかった）　全部　　着物。

142C：ホテ　　モ　　クツ　　ハイテノー。（A　アー）
　　そして　もう　靴［を］　履いてねえ。（A　ああ）

143B：クツガ　ホイテ　ベッチューヤッテノ。（C　ベ　ウン）
　　靴が　　そして　別注でね。　　（C　×　うん）

クビツリク゜ツ　チュテ　　ココデ、　ココデ　トメルヤツデ　ワ、
首くくり靴　　といって　ここで、　ここで　とめるやつで　×

（C　ウーン）　ワタシラデモ　ベッチューシテモータンー
（C　うーん）　私たちでも　別注してもらったの

ベッチュー　チュ、　　ベッチューヨリ　　ナカッテンダ〔12〕
別注　　という［か］、別注より［ほかに］　なかったんだ

クツワ。　ウ、　ナラベテ　ウリナカッタ〔13〕ハカイ。
靴は。　×　並べて　売っていなかったから。

144C：ヤ、　オーサカイ　イタラ　アッテンノ。
いや、　大阪へ　行ったら　あったんだね。

145B：キセーヒンノ。
既製品ね。

146C：ウン。ホンデン　クツ　コーテキテ　クレテヤナー、（B　ンー）
うん。それで　靴［を］買ってきて　くれてだねえ、（B　んー）

ホテ、　イマカラ　オモタラ　ケイトノワンピースヤナィ、
そして、　今から　思ったら　毛糸のワンピースだね、

（B　ンー）　フクヨー、　（B　ウン）　ソイモ、　ソイ
（B　んー）　服［が］よ、（B　うん）　×××　それ［を］

キテヤナー、　ホイテ　タコ　　アゲ゜テ、
着てだねえ、　そして　凧［を］　揚げて、

ハマッテン。　（A　ハーン）　{笑}
[井戸へ] 落ちたんだ。　（A　はあん）　{笑}

147B：{笑}　オー　ソーヨ　ソ、　ヨーフクヤハン　テ　ユタ
{笑}　／／　そう[だ]よ　×　洋服屋さん　と　言ったら

リュージン、サン　テ　ユーノカ°　＊＊＊　ナンナ
龍神さん　って　いうのが　＊＊＊　／／／

ユービンショージ　サカエマチ　トント　デタトコニ　イッケンダケ、
郵便小路　栄町[を]　とんと　出たところに　1軒だけ、

リュージンサン　チュー　シタテヤサン、　（A　アリマシタナー）
龍神さん　という　仕立て屋さん、　（A　ありましたねえ）

ヨーフク　イッケンダッテン　タナベデ、　（A　ソー）
洋服　1軒だったんだ　田辺で、　（A　そう）

ソコデ　ワタシラモ　ボイルノフクオ　シタテテモーテネー、
そこで　私たちも　ボイルの服を　仕立ててもらってねえ、

ホイテ　オーサカノビーケー〔14〕エ　ホーソーニ　イタンヤラ
そして　大阪のBKへ　放送に　行ったんだ

ダイイチショーカ°ッコーカラ　ゴノ、　ゴニンホド　タナベエ
第一小学校から　××　5人程　田辺へ

キシャ　ツイテナイシ
汽車[は]　ついていないし

148A：ワタシラ、　チューカ゜ッコーエ　ハジメテ
私たち［は］、　中学校へ　初めて

ニューカ゜クスルデショー、　（B　オー　モー　＊＊＊＊）
入学するでしょう、　（B　おお　もう　＊＊＊＊）

ソシタラネ　アノー、　シカ゜ツニ　ニューカ゜ク　シマスカラ、
そしたらね　あの、　４月に　入学しますから、

コンドー　ロクカ゜ツツイタチカラ　ナツフクニ　ナリマスワナー、
今度　６月１日から　夏服に　なりますよねえ、

（B　フン）　タ　チューカ゜ク　チューノワ
（B　ふん）　そしたら　中学　というのは

シローノーナツフクダッテン、　（B　フン、　フン）　デ
白の夏服だったんだ、　（B　ふん、　ふん）　で

ソレマデノアイダ、　ナツフク　ツクルマデノアイダー、　キモノ
それまでの間、　夏服［を］　作るまでの間、　着物［を］

キテ　ハカマ　ハイテネー、　ホイデ、　クツ　ハイテ
着て　袴［を］　履いてねえ、　それで、　靴［を］　履いて

イタワケデスヨ。　ガッコエ。
行ったわけですよ。　学校へ。

149B：クツワ　ヤッパリ　カワカ　ナンドデスカ　（A　ウン）　アー。
靴［は］　やはり　革か　なにかですか　（A　うん）　ああ。

150A：ソレカ゜ネー、　マ、　キモノ　　キテ　ハカマ　ハイテ
それがねえ、　ま、　着物［を］　着て　袴［を］履いて

チューノ　　ワカルンデス、　ソレー　ミテ、
というの［は］　わかるんです、　それへ　加えて、

（B　{笑}　クツ）　クツ　　ハカサレタワケデス
（B　{笑}　靴）　靴［を］　履かされたわけです

151B：デ　ボーシワ　カブッターッタ
で　帽子は　　かぶっていた

152A：イマーダッタラ　オカシーケド　ソノコロワ　ミナカ゜
今だったら　　おかしいけど　その頃は　　皆が

ソーヤカラ　{笑}、　ナットモ　オモワナンダ　ボー、
そうだから　{笑}、　なんとも　思わなかった　××

ボーシワ　フツーノガクセイボー　（B　アラー）　カブッテ。
帽子は　普通の学生帽［を］　（B　あら）　かぶって。

153B：タカラズカデモノー　アレ　キモノ　　キテノー、
宝塚でもねえ　　あれ　着物［を］　着てねえ、

154A：エ、　ホイテー、　ハカマ　　ハイテ　クツ　　ハイテマス＊＊
え、　そして、　　袴［を］　はいて　靴［を］　履いています＊＊

155B：アノ　アノ　クツ　　ハイタッタノー　ハイ　ハイヒールミタイナ
あの　あの　靴［を］　履いていたねえ　××　ハイヒールみたいな

ハイターッタノー　　タカラズカー、　セ、　セイトモノ。
[靴を] 履いていたねえ　宝塚 [の]、　×　生徒もね。

156A：ムカシワ　アレデモ　オカシー　ト　オモワナンダンヤカラ。
昔は　あれでも　おかしい　と　思わなかったんだから。

キョービダッタラ　ヤッパリ　オカシー　ト　オモウヤロナー
今日だったら　やはり　おかしい　と　思うだろうなあ

ト　モウケド。
と　思うけど。

16↑17

157A：ホンヤ　マー、　コンド　チット　コドモノ、ジブンニ、
それでは　まあ、　今度 [は]　ちょっと　子供の時分に、

チット、　オヤタチノテツダイデモ　シタヨーナコト、
ちょっと、　親達の手伝いでも　したようなこと [を]、

オモイダシナハッタラ　イッペン、
思い出しになられたら　一度、

158C：ナーンニモ　テツダイ　セン　ワタシワ、　＊＊＊＊
なんにも　手伝い [を]　しない、　私は、　＊＊＊＊

(A　{笑})
(A　{笑})

159B：アー　アンタワ　マー　オヨドンツキヤハカイニ、　ナニヤケドモ
ああ　あなたは　まあ　女中さん付きだから、　あれだけれども

ホイデモ　ヨソサンノドカ゜イニ　ミナ　テッタイヤッタン〔15〕
それでも　他所の方のどのように　皆　手伝っていたの［を］、

ミキキ　シタ　チューノ　　ナイデスカ？
見聞き　した　というの［は］　ないですか？

160C：マー　オトトヤ　イモトヤナンカノコモリヤノ。
まあ　弟や　妹やなんかの子守だね。

161B：ア、　コモリワー　コモリ。
あ、　子守は、　子守り。

162A：ムカシワ　コモリ　シタワ、　ネ。（C　フン）　アー
昔は　子守［を］　したよ、　ね。（C　ふん）　ああ

ヒドイノニ　ナッタラ、　コ、　アノ　コモリ
ひどいのに　なったら［＝ひどい場合には］、×　あの　子守［を］

シテ　ガッコーエ　キタモンネ。（B　アッタ　アッタ）
して　学校へ　来たものね。（B　いた　いた）

コドモ　ツレテ。（C　フン）　ハー。
子供［を］　連れて。（C　ふん）　はあ。

163B：ワタシラノトモダチモ　アッタ　ホイテ　イモトハン　ツレテキテ
私たちの友達［に］も　いた、　そして　妹さん［を］　連れてきて

ハタエ　スワライテネ。
そばへ　座らせてね。

164A：イマ　オソラク　ナイー、ヤナイカ　ト　オモィ、（B　ノー）
今［は］おそらく　ない［の］でないか　と　×××　（B　ねえ）

オモーノー。　ガッコーデワ、　ソノコロ　ミナ　ヤヤコ
思うねえ。　学校では、　その頃　皆　赤ん坊［を］

オーテキテネー、　ホイテー　ガッコーデ、　ホイテ　アネカ゜ネー
背負ってきてねえ、そして　学校で、　そして　姉がねえ

イッペン、アノー　チチニネ、ソノ　オトト　ツレテイカイテクレ
一度、　あの　父にね、　その　弟［を］連れて行かせてくれ

チュータンヤ。ホイテ　ソノコロ　ガッコーデ　ソノ　オヤコーコーヤ
と言ったんだ。そして その頃　学校で　その 親孝行だ

チュテネ、　（C　{笑}）　ガッコーノセンセーガ　ホメタンヤ。
と言ってね、（C　{笑}）　学校の先生が　褒めたんだ。

ホイデ　ワシモ　ホメラレタイサカイ　ツレテイカイテクレ。
それで 私も　褒められたいから　連れて行かせてくれ。

（B　{笑} オネーサン）　チ、　チチニ　オ、　シカラレテ　{笑}
（B　{笑} お姉さん）　×　父に　×　叱られて　{笑}

165B：ホラ　ソーヤ。
それは そうだ。

166C：コカイタクライナラ　チューアナ〔16〕モンヤ。
倒したくらいなら　というようなもんだ。

167A：ソー＊＊＊、　コカイタラ　ナンヤケド。
　　そう＊＊＊　　倒したら　　あれだけど。

168B：イヤー　ホイデ　ア　マー　ワリケド　コマッタオウチカ゜ノー
　　いやあ　それで　あ　まあ　悪いけど　［お金に］困ったお家がねえ

　　（A　ソーデスヨ）　シタハカィ　（A　エー）
　　（A　そうですよ）　したから　（A　ええ）

　　ホラ　ソンナコト　シャレン＊＊＊
　　それは　そんなこと［を］　［してはいけない］、

　　フー　ワリ　チューコッデ、
　　風［＝聞こえ］［が］　悪い　ということで、

169A：ア、　アンマィ　ユーフクナオウチワ　ソンナコトワ　セナンダ。
　　×　あまり　裕福なお家は　そんなことは　しなかった。

170B：アー　フー　ワリ　テ　ユーコトヤハカイ　ホラ
　　ああ　風［＝聞こえ］［が］　悪い　って　いうことだから　それは

　　ソーヤ、　ノー　コドモコ゜コロデスノー　ホイデモ。
　　そうだ、　ねえ　子供心ですねぇ　それでも。

171A：コドモコ゜コロヤ。
　　子供心だ。

17↑

――― 中　略 ―――

172B：オモリワ　モ　　イチバン　ミナ　シテンノー。　　コモリワ、
　　お守りは　もう　一番　　皆　　したんだねえ。　子守りは、
　　↑18
　　（C　ソーヤナー）　コモリワノー。（A　マー）　ホイテ　オチン
　　（C　そうだねえ）　子守はねえ。　（A　まあ）　そして　お菓子[が]

　　ナカッテノー、　アノ、　トマメ　　カンデ　ヤーラコー
　　なくてねえ、　あの、　そら豆［を］　噛んで　柔らかく

　　ナッタヤツオ　アカチャンノクチー　コカ゜ニ　ベタット、　イレタワ。
　　なったやつを　赤ちゃんの口へ　　こんなに　べたっと、　入れたよ。

173C：アカ゜ラ　　モータホーヤ。　{笑}
　　私など［は］　貰った方だ。　{笑}

174B：アンタ　　モータホーヤロ？　エ　ソ、
　　あなた［は］　貰った方だろう？　え　×

　　ソカ゜ーナーオチンバッカリ、　コモリ　　シテ　イモトヤ
　　そんなお菓子ばかり、　　子守り［を］　して　妹や

　　オトートニ。
　　弟に。

175C：チッサイトッカラ　ハー　　ワリカッタハカイ、
　　小さい時から　　歯［が］　悪かったから、

176B：ソラマメ　　イッタヤツオナー、　トマメノイッタヤッオ　コーシテ。
　　そら豆［を］　煎ったやつをねえ、　そら豆の煎ったやつを　こうして。

177C：アンデ　ジブンデ　ヨー　カマンロ？　デ　ハハオヤニ　ソノ、
それで　自分で　噛めないだろう？　で　母親に　その、

（A　ウン　カンデモーテン）　タラ　チット　ア、
（A　うん　噛んでもらったんだ）　[そし] たら　ちょっと　×

アマインヤラ　ホイタラ。　{笑}　カンデモータラナ。
甘いんだよ　そしたら。　{笑}　噛んでもらったらね。

（B　カ、　カンデモータンヤ　アンタラワ）　ンー　ホイデ
（B　×　噛んでもらったんだ　あなたたちは）　んー　それで

カンデモーテ。　ツバクロミタイナモンヤ。　{笑}
噛んでもらって。　燕みたいなもんだ。　{笑}

（A　ソーヤ）　（B　ノー。　ツバクロ　{笑}）
（A　そうだ）　（B　ねえ。　燕　{笑}）

178A：イ、　イマダッタラ、　フエイセイヤ　ッテ　ユワレル。
×　今だったら、　不衛生だ　って　言われる。

（C　ソーヤナヤ　{笑}）
（C　そうだねえ　{笑}）

179B：ソーヤ、　イマデモ　ソノ　ツバ　エーンヤ　チューテノー
そうだ、　今でも　その　唾 [は]　いいんだ　と言ってねえ

（A　アー）　ツワニ　ショードクエキ、　ショーカエキワ
（A　ああ）　唾に　消毒液、　消化液は

モチロン　アルケド　ショードクーノヨーソ　アルンデス
もちろん　あるけど　消毒の要素［が］　あるんです

チューテ　コナイダモ　ナン　カイターッタデ？
と言って　この間も　何［かに］　書いてあったよ？

（A　ムカシワ）　ムカシノヒトワ　カシコカッタンヤ
（A　昔は）　昔の人は　賢かったんだ、

シッテタンヤ。
知っていたんだ。

180A：コドモントキ　キオーカ゜ン　チュー　クスリ　アッタデショー。
子供の時　奇応丸　という　薬［が］　あったでしょう。

181B：キオーカ゜ン　アッター。
奇応丸　あった。

182A：キオーカ゜ン　ノマサレルトキニ　アノ　センベーオバ
奇応丸［を］　飲まされる時に　あの　煎餅を

カンドイテネー、　（B　エー）　ホイテ　キオーカ゜ン　ツケテ、
噛んでおいてねえ、　（B　ええ）　そして　奇応丸［を］　付けて、

（B　ホイテ　イクツブ　チューテ）　ホ、　ホイテ、　ホイデ
（B　そして　幾粒　と言って）　×　そして、　それで

タベサセテモータンデ　ソイワ　ヨー　オボエトルワ。
食べさせてもらったんだよ　それは　よく　覚えているよ。

183B：ヤッパリ　ソノ　ネツ　　デテ　ツライトキニ　ハハオヤカ゜、
やはり　その　熱［が］　出て　辛い時に　母親が、

ツバ　　サキ　　ナメトイテ　ホイテ　キヨーカ゜ン
ツバ［を］　先［に］　嘗めておいて　そして　奇応丸［は］

コマコイデヒョー？　（A　エー　エー）　ギンノ、　タート
細かいでしょう？　（A　ええ　ええ）　銀の、　さらさらと

ケシツブミタイナハカイノー。　（A　コマコイ、　エー　エー）
ケシ粒みたいな［の］だからねえ。（A　細かい、　ええ　ええ）

ソィオバ　コー　イッコ　コーシテ　ナメテ、　イ、　イレラレタ
それを　こう　1個　こうして　嘗めて、　×　入れられた

キオク　　アリマスノー。
記憶［が］　ありますねえ。

184A：アリマス　（B　アー）　ソレワ　ダレデモ　アルデショーノ、
あります　（B　ああ）　それは　誰でも　あるでしょうね、

（B　アル、　ノー）　アル　ト　オモイマスネー。
（B　ある、　ねえ）　ある　と　思いますねえ。

185B：カン　　デタ　ト　ユーテワ　キヨー　カ゜ンヤシノ。
疳［が］　出た　と　言っては　奇応丸だしね。

（A　アン）　テツダイラ　シタカ＊＊＊＊　ヘン　ト
（A　うん）　手伝いなんか　したか＊＊＊＊　／／　と

オモウノー。
思うねえ。

186A：マー　テッダイ　　テ　ム、　ヤー　ソラー
まあ　手伝い［をしたかどうか］　って　×　いやあ　それは

カンカ゜エテーオルケドモ　ソラ　シテマスヨ。
考えているけれども　それは　していますよ。

ン　ムカシノコドモワーネー、　ヨー　シテマスワー　マ、
んー　昔の子供はねえ、　よく　していますよ　ま、

（B　イッペン）　ソノナカデモ　イチバン　ヨー　シテンノワ
（B　一度）　その中でも　一番　よく　しているのは

エ、　ヤッパリ　ノーカノコドモヤナ。（C　ソーヤナ）
／　やはり　農家の子供だね。（C　そうだね）

（B　ソーデショーノー。　アノー）　ノーカノコドモワ　モー、
（B　そうでしょうねえ。　あの）　農家の子供は　もう、

187B：タウエヤスミ　テ　アッタハカノー。
田植休み　って　あったからねえ。

188A：ソー　ソー、　カナラズ　ソノー　ヤク、
そう　そう、　かならず　その　役［＝手伝い］［を］

ササレテオルネ。　ソレカ　マー　マチノコワー　マ
させられているね。　それから　まあ　町の子は　まあ

ノーカノコドモーノホドノコトワ　ナイケドモ、　ヤッパリ
農家の子供ほどのことは　ないけれども、　やはり

ソラー　チットワ　シタールネ。
それは　ちょっとは　しているね。

189C：マー　ショーカトカナー、　マー　ナンカダッタラ　ソンナニ
まあ　商家とねえ、　まあ　なんかだったら　そんなに

テツダイワ　ナイケドモ　ナンカワ　シターラナ。　（A　エー）
手伝いは　ないけれども　何かは　しているよね。　（A　ええ）

190B：アンタハンラ　ウシノミズ　チューノ　オボエテマヘンカ。
あなたがた［は］　牛の水　というの［を］　覚えていませんか。

（C　ア　ハ）　ショクジ　スンダラネー、　マー　ザンパン
（C　あ　は）　食事［が］　済んだらねぇ、　まあ　残飯［が］

デルデショー？　（A　アー）　カ　ザンパンオケーガ、
出るでしょう？　（A　ああ）　×　残飯桶が、

イドノハタニ、　オケー　オイタルワケ。　（A　アー）
井戸の端に、　桶［を］　置いてあるわけ。　（A　ああ）

ホイタラ　ソイ　ウシノミズ　チューテネー、　（A　ウン）
そしたら　それ［を］　牛の水　といってねえ、　（A　うん）

マー　ユータラ、　ブターノ、
まあ　言ってみれば、　豚の、

191C：エサーミタイナトカ
餌みたいな［の］とか

192B：エサトカ、　（A　アー）　ウシニ　アケ゜ル　ダ、　ナニオバ、
餌とか、　（A　ああ）　牛に　あげる　／　あれを、

（A　エー）　ソコイ　イレトクワケ。　（A　アー）　デ　ソノ
（A　ええ）　そこへ　入れておくわけ。　（A　ああ）　で　その

ウシノミズ　アツメニ、クル、ノンワ　オバサンノヒト、　デ、
牛の水［を］　集めに来るのは　おばさんの人、　で、

マー　チョードー、　（A　オバサンモー　＊＊＊＊＊）
まあ　丁度、　（A　おばさんも　＊＊＊＊＊）

コエトリサンミタイデ、　（A　エー　エー）　モ、
肥取りさんみたい［なもの］で、　（A　ええ　ええ）　も、

トシノクレニ　マタ　ナニカ　オレイ　クレタリネ、
年の暮れに　また　何か　お礼［を］　くれたりね。

（A　アー　アー　アー）　ウシノゴチソー　アツメニクルンヤケド。
（A　ああ　ああ　ああ）　牛の御馳走［を］　集めに来るんだけど。

（A　ホー）　ソノ　ウシノミズオ　アツメニマワッタ　チュー
（A　ほう）　その　牛の水を　集めに廻った　という

トモダチカ゜ネー、　（A　ウン）　ショーカ゜ッコージブンニ
友達がねえ、　（A　うん）　小学校［の］時分に

オトコノコカ゜、　コノ　X5ッツァン　チューンヤケドネ、
男の子が、　この　X5さん　というんだけどね、

コノヒトカ゜、　ロサンゼルスイ　{笑}　ノ、　アン
この人が、　ロサンゼルスへ　{笑}　ね、　あの

ロスノー、シンブンキシャ　シャルンヤケドネ、　エイコ゜
ロスの新聞記者［を］　しているんだけどね、　英語［を］

ヒトツモ　ヨー　シャベランネ。　（A　ハー）　ホイデ、
一つも　しゃべれないんだ。　（A　はあ）　それで、

18↑19

ニホンコ゜ダケヤケドモ　マー、　ムコーデ　クラシシテ、
日本語だけだけれども　まあ、　向こうで　暮らしして、

ナンデ　ソカ゜ナン　オマハン　X5サン　ソイデ　ヨー、
どうして　そんなの［で］　あなた　X5さん　それで　よく、

アノー　ロスセーカツ　デキルノー　チュタラ、　ニホンハン、
あの　ロス生活［が］　できるねえ　と言ったら、　日本版、

ニホンージノホー　ウケモッタルハカイ、　ソノナカニ　ソノ、
日本字の方［を］　受け持っているから、　その中に　その、

ウシノミズ　ホイテ　ズイヒツ　カキャンネ
牛の水　そして　随筆［を］　書くんだ

モクヨーズイヒツ　テ　マイシュー　カイテ　モ　ソイ、
木曜随筆　って　毎週　書いて　×　それ［を］、

ホンニ　マトメタネー、　　マエ　　オクッテキタンヤケド
本に　まとめた［のを］ねえ、　前［に］　送って来たんだけど

ソノナカニデモネ、　ボク　　ウシノミズ　　アツメニイタ
その中にでもね、　僕［は］　牛の水［を］　集めに行った

チュテ、　ホイタラ　ソノマエー　オンナノコカ゜
といって、　そしたら　その前を　女の子が

ドーキューセイカ゜　トーッテネ、　ハナ　　ツマンダ　テ
同級生が　通ってね、　鼻［を］　つまんだ　って

ユーテネ、　ホイテ　ソイカ゜　ハラ　　タッテ、
言ってね、　そして　それが　腹［が］　立って、

{スーと息を吸って}　エー　ソノコノホッペタトカ
{スーと息を吸って}　ええ　その子の頬っぺたとか［を］

ナク゜ッタッタ、　コドモノナマエ　　ココニ　カイタラ
撲ってやった、　［その］子供の名前［が］　ここに　書いてあるよ

{笑}　X6チャンヤナィ、　（C　ンー）　ホイテ　{笑}
{笑}　X6ちゃんだよ、　（C　んー）　そして　{笑}

X6チャンノコト　　コ＊＊＊　　カイターン、　　コイ
X6ちゃんのこと［が］　こ［こに］　書いてあるの、　これ［を］

ヨンダラ　タナベノジュンノ〔17〕　ムカシ、　ソノ
読んだら　田辺のその頃の　昔、　その

ウシノミズアツメノ、テツダィ、　（A　オー）　ソイモ
牛の水集めの手伝い、　（A　おお）　それも

ノーカダッテン　X5クント（コ）　（A　アー）　オトツサン
農家だったの　X5君［の］ところ　（A　ああ）　弟さん［が］

イマ　タイプヤ　シヤルケドネ。
今　タイプ屋［を］　しているけどね。

193A：ワッタシラ　ハ、　アノー、　ハー、　Cチャン　ゴゾンジノヨーニ
私の　×　あの　母［は］　Cちゃん　ご存じのように

オトナシカッテノー。
おとなしくてねえ。

194C：ンー　ンー　オトナシカッタナ。
んー　んー　おとなしかったね。

195A：マー　オーキナコエデ、　シカラレル　ッテ　ユーコトモ
まあ　大きな声で、　叱られる　って　いうことも

アマリ　キオク　ナインヤ。
あまり　記憶［が］　ないんだ。

196B：アー　オンナ　アノー　（A　エー）　オー　センセー
ああ　女　あの　（A　ええ）　おー　先生［は］

（A　ハーワ）　アー　ハー　ハー。
（A　母は）　ああ　はあ　はあ。

197A：トコロカ゜ネ　イッペン　メーオバ　サンカクニシテ、
ところがね　一度　目を　三角にして、

シカラレタコト　イッペン、　ヨー　ワスレンネケドネ。
叱られたこと［が］　一度、　忘れられないんだけどね。

（C　アルカ　ウン　ウン）　ソイ　ワタシ　ミッツカ
（C　あるか　うん　うん）　それ［は］　私［が］　三つか

フタ、　ミッツク゜ライノトキダッタ　ト　オモウンヤケドネー
ふた［つ］、　三つぐらいの時だった　と　思うんだけどねえ

ジブンノコトー、　アノ　ボク　テ　ヨー　イワナンデネ、
自分のことを、　あの　僕　って　言えなくてね、

マー　アノ　ジョセイテキダッタンデスヨネ。
まあ　あの　女性的だったんですよね。

198B：アベコベヤノ　{笑}　アベコベダノ。
［AさんとCさんは］あべこべだね　{笑}　あべこべだね。

199A：ソレデネー、　アノー　ジブンノコトワ　Aヤン　Aヤン
それでねえ、　あの　自分のことは　Aヤン　Aヤン

チュートッテン。　（B　ハー）　ホテー　コノオサカナ
と言っていたんだ。　（B　はあ）　そして　このお魚［を］

Aヤンニ　オクレヨ　テ　ユタラ　ホイータラ　ハハカ゜ネー
Aヤンに　おくれよ　って　言ったら　そしたら　母がねえ

アノー、オトナシーハハカ゜　メー　　サンカクニシテ、　マタ
あの　おとなしい母が　　目［を］　三角にして、　　また

ソカ゜ナコト　　ユー、チュテネー。　デ　デー　ソ、　＊　＊
そんなこと［を］言う、と言ってねえ。　で　で　／　＊　＊

（C　オトッチャンガ）　アノー　ジブンノコト　　Aヤンラ
（C　お父さんが）　　あの　自分のこと［を］　Aヤンなど［と］

ユーモンヤナイ、　チュテネー、　ホイデ　アシ、アノー　ボク
言うもんじゃない、と言ってねえ、そして　アシ、あの　僕

テ　ヨー　ユワンノダッタラ　アシ　テ　イヨシ　　チュテネー、
って　言えないんだったら　　アシ　と　言いなさい　と言ってねえ、

エ　ソイカラ　シバラク　アタシ　アノ　アシ　アシ　テ　ユー
え　それから　しばらく　私［は］あの　アシ　アシ　って　言う、

ユートッタンデスヨー。　（D　フーン）
言っていたんですよ。　（D　ふうん）

200B：ソー　イエバ　ジブンラ　　オハリー　イクジブン　（A　エー）
そう　言えば　自分たち［が］お針へ　行く時分［に］（A　ええ）

センセー　アシ　アシ　テ　オッシャッリナカッタカ〔18〕。
先生［が］　アシ　アシ　って　おっしゃっていなかったか。

（C　ンー　ユイヤッタカナー）　ユーイヤッタワ、（C　ウン　ウン）
（C　んー　言っていたかなあ）　言っていたよ、　（C　うん　うん）

ホンデ　アタ　ソェ、
それで　××　××

201A：ソイカラ　アシ　アシ　ニ　ナッテネー。　ソイカラ、
それから　アシ　アシ　に　なってねえ。　それから、

{スーと息を吸って}　マ　ショーカ゜クー　モー　ヨ　マ　サ、
{スーと息を吸って}　ま　小学　　もう　／　ま　／

ショーカ゜ッコエー　イテー　ニネン　　サンネンカン　ナッテカラ
小学校へ　　行って　2年［か］　3年かに　　なってから

ボク　テ　　ユーヨーニ　ナッタケドネー、（B　ンー）　ソレマデ、
僕　　って　言うように　なったけどねえ、（B　んー）　それまで、

アシ　アシ　　ユーテン。
アシ　アシ［と］　言ったんだ。

202C：ウン　ウン、　（B　ウン）　ヨー　　ユータナー。
うん　うん、　（B　うん）　［一般に］よく　言ったねえ。

203A：ホデ　　ハハラデモ　オト　アノー　オコラナンダケドモ
それで　母などでも　××　あの　　怒らなかったけれども

コットバズカイワ〔19〕　ヤカマシカッタデス。
ことばづかいは　　うるさかったです。

204B：ネー。　{間}　アシ　チューコトバ　　ヨ、　ホンデ
ねえ。　{間}　アシ　ということば［は］　／　それで

ショーカ゜ッコージブンワ　ミナ、　オンナノコワ　タイカ゜イ、
小学校［の］時分は　皆、　女の子は　大概

（A　イーマシタナ、　エー）　ソイ　アシノヤヨー　テ
（A　言いましたね、　ええ）　それ　アシのだよ　って

ユータデスワノー、　（A　エー）　ワシトゥ　ユワンケド
言いましたよねえ、　（A　ええ）　ワシとは　言わないけど

アシ　ッテ　ユータノ、　アン。　ユータデスノー　アシ　テ
アシ　って　言ったの、　／／　言いましたね　アシ　って

ユーコトバ　アッタデスワ。
いうことば［が］　ありましたよ。

205A：コノコ゜ローノコドモデ　ホイテ　モー、　オトヤン　オカヤン　テ
この頃の子供で　そして　もう、　オトヤン　オカヤン　って

ユーコドモ　ナイノー。
言う子供［は］　ないねえ。

206C：ナイワ。
ないよ。

207B：ソーヤノー。
そうだねえ。

208A：アー　ムカシワ　ミナ　オトヤン　オカヤン　{笑}
ああ　昔は　皆　オトヤン　オカヤン　{笑}

209B：オトヤン　オカヤントカネー、
　　オトヤン　オカヤンとかねえ、

210C：ヤン、　ヤンツキダッタノ　X7ヤンーデ
　　ヤン、　ヤン付きだったね　「X7ヤン」で

　　(A　ソー　ソー　ソー)　ウン　ヤシ　Aヤンヤシ　(A　ンー)
　　(A　そう　そう　そう)　うん　だし　Aヤンだし　(A　んー)

211B：ソーヤ　ウ、　ソー　Aヤンヤシノー、
　　そうだ　×　　そう　Aヤンだしねえ、

212C：ホイテ　　アソバンノ　　ヤラ。
　　そして　「遊ばないの」　だよ。

213B：Aヤン　アソバンノー　(A　ウン、　ソー)　テ　　ソーヤノ、
　　「Aヤン　遊ばないの」　(A　うん、　そう)　って　そうだね、

　　ウン。
　　うん。

214C：{笑}　X７ヤン　　アソバンノ　　テ　　ヨー　ユーテタンヤ。
　　{笑}　「X７ヤン　遊ばないの」　って　よく　言っていたんだ。

215B：ソーヤ　ソーヤ、　ソーヤ　ソー　ユタノー。　　ユータデスノー。
　　そうだ　そうだ、　そうだ　そう　言ったねえ。　言いましたねえ。

　　ワータシラ　　スサミノー、　　ハハ
　　私たち［は］　周参見［出身］の、　母［が］

モッテキタンカシランケ、　オトーサン　オカーサンダッタデス＊。
持ってきたのかしらないけど、お父さん　お母さんでした＊。

19↑20

216C：ウン　ワタシラモ　（B　ウン）　モー　オトーチャン
うん　私たちも　（B　うん）　もう　オトーチャン

オカーチャンダッタケドノ。
オカーチャンだったけどね。

217B：アー　ソー。（B　ウン）（A　ンー）　ケ
ああ　そう。（B　うん）（A　んー）　け［ど］

タイカ゜イ〔20〕　オトヤン　オカヤン、カ゜
大概　オトヤン　オカヤン［と呼ぶの］が

オーカッタノー。アー　オーカタ　オトヤン　オカヤンダッタノー。
多かったねえ。　ああ　大方　オトヤン　オカヤンだったねえ。

オトハン　オカハン、　ンー　ハ、　X8チャンラ、　オトハン
オトハン　オカハン、　んー　×　X8ちゃんなど、　オトハン

（C　オトハン　ッテ）　オトハン　オカハン　テ　アキリワ
（C　オトハン　って）　オトハン　オカハン　って　秋利は

オトハン　オカハン　テ　（A　ンー）　ユ、　イヤッタヨーニ
オトハン　オカハン　って　（A　んー）　×　言っていたように

オモタヨ、　ワタシトコ　ナンカ　シラン、　ハハ、
思ったよ、　わたし［の］ところ［は］　何か　知らない、　母、

ハハカ゜タカ゜　モテキタンカシラン。
母方が　　持ってきたのか知らん。

218C：オトハン　オカハン　テ　ユーダッタラ、　ハン
オトハン　オカハン　って　言う［の］だったら、　ハン［が］

ツイタッタラ　オーサカベンヤロカ。（D　フーン）
ついていたら　大阪弁だろうか。（D　ふーん）

219B：{笑いながら}　ナンカ　シランケドモー。（D　ンー）
{笑いながら}　何［だ］か　知らないけれども。（D　んー）

220C：ハン　テ　ユワノー。（D　ウン）（A　ンー）
ハン　って　言うよねえ。（D　うん）（A　んー）

ゴリョーハン　テ　ユーシ。（D　ウン）
ゴリョウハン［＝奥さん］　って　言うし。（D　うん）

221B：アー　ソーヤノー（C　ンー）　ソー　ユワノー。
ああ　そうだねえ（C　んー）　そう　言うよねえ。

222A：アノ、　ワタシ　コイ、　カーヤン　テ　ユタナー。
あの、　私［は］　これ［を］　カーヤン　って　言ったねえ。

223C：アー　カーヤン。
ああ　カーヤン。

224B：カーヤンカー。
カーヤンか。

225D：アー。　オカーサ、　　オカーサンノコトー。
　　ああ。　お母さ［ん］、　お母さんのことを。

226A：オカーサンノコトー。　（D　ホー）
　　お母さんのことを。　（D　ほう）

227B：カーヤン　トーヤン。
　　カーヤン　トーヤン。

228A：ホイデモ　ナイ、　モー　ズット　カーヤンダッター〔21〕。
　　それでも　ねえ、　もう　ずっと　カーヤンだった。

　　（C　アー　ソーカ）　チュ、　ン　ンー　チューカ゜ク
　　（C　ああ　そうか）　××　　ん　んー　中学校［へ］

　　アカ゜ルジブンカラー、　ン　ヤット　オカーサン　テ
　　上がる時分から、　　ん　やっと　お母さん　って

　　ユーヨーニ　ナッタケド、　ソイマデ　　カーヤン　カーヤン
　　言うように　なったけど、　それまで［は］　カーヤン　カーヤン

　　チュッテ。
　　と言って。

229C：イッタン、　ヨビツケタラ　チョット　カワリヌクイモンデノ、　ンー。
　　いったん、　呼びなれたら　ちょっと　変わりにくいもんでね、　んー。

230A：ウン　カワリニクイ。
　　うん　変わりにくい。

231B：ソーヤノー　ソーヨ　カワリニクイ。
そうだねえ、　そう［だ］よ　変わりにくい。

232A：エー　ホイテ　ウチ　チチニワネ、　オトッツァン　チューテ。
ええ　そして　うち［の］　父にはね、　オトッツァン　と言って。

エー。
ええ。

233B：オトッツァン　テ　ユヒトモ　オーカッタノ
オトッツァン　って　言う人も　多かったね

234C：オーカッタナ。
多かったね。

235A：オトッツァント　カーヤント。（B　アー）（C　アー　ソーカ）
オトッツァンと　カーヤンと。（B　ああ）（C　ああ　そうか）

（B　アー　ハン　ハン。　カーヤン）　ホイデ　ホイター、
（B　ああ　はん　はん。　カーヤン）　それで　そしたら、

イッペン　ガ　ガッコーデ　オヤノコトオバ　ナ、　ナンテ　ヨブカ
いちど　が　学校で　親のことを　×　何と　呼ぶか

テ　センセー　キータワケデスヨ、ホイタ　エカ゜ワカラ　キタ
って　先生［が］訊いたわけですよ、そしたら　江川から　来た

アルヒトカ゜ネ、（D　フン）　ワシラ　モー　オトー
ある人がね、（D　ふん）「私ら［は］　もう　オトー

オカー　テ　　ユーンヤ　チュテ〔22〕　ユーンヤ。　（B　ンー）
オカー　って　言うんだ」と言って　　言うんだ。　（B　んー）

ソカ゜ンコト　　ユーモンヤナイ　　キョーワ　カエッテネー
「そんなこと［を］　言うもんじゃない、　今日は　　帰ってねえ

オカーサン　テ　　イーナサイ。　（D　ウン）　ン、
お母さん　　って　言いなさい。」　（D　うん）　／

センセーッ、　ヤクソク　＊＊　シタゾ？　　ッテ　ユーテネー。
「先生と、　　約束　　＊＊　したぞ？」　って　言ってねえ。

ホイテ　アクルヒ　キタカラ、　　キノー　カエッテ
そして　明くる日　［学校へ］来たから、「昨日　帰って

オカーサン　テ　　ユータカ　　チ　ユタ、　　{笑}　イーマシター、
お母さん　　って　言ったか」　と　言ったら　{笑}「言いました」、

ドーナ、　　オカーサン　ヨロコンダヤロー　チュッタ、
「どうだ、　お母さん　　喜んだだろう」　　と言ったら

ココロタイ〔23〕ノ　　ワリコト　　ユーナ　テ　　ユータ
「ココロタイの［＝気持の］悪いこと［を］言うな　って　言った」

チュアナコト　　{笑}　（全員　{笑}）
というようなこと［を］　{笑}　（全員　{笑}）

236B：トージ　マダ　アノ　リョーバデワ　ソー、
当時　　まだ　あの　漁場では　　そう、

アタ〔24〕ココロタリノワリ　　テ　ヨー
アタココロタリノワリ［＝なんと気持の悪い］　って　よく［言った］

ゴショダニ、　（C　ソーヤナ）　ゴショダニワ　リョーノヒトガ
御所谷、　（C　そうだね）　御所谷は　漁の人が

オーカッンデネー、
多かったんでねえ、

237A：コ、　ココロタリノワリーコト　　ヌカスナ　テ　ユータ　テ。
×　「ココロタリの悪いこと［を］　言うな」　って　言った　って。

{笑}
{笑}

238B：ユーカ゜タ　オフロヤエ　イクト、　{笑}　アタガ　ツイタヨ
夕方　お風呂屋へ　行くと。　{笑}　アタが　ついたよ

マダ。　（C　フン　フン）
まだ［その上に］。　（C　ふん　ふん）

アータココロタリノワリコト　トカ
アータココロタリノワリコト［＝なんと気持の悪いこと［を］］　とか

テ　ヨー　ユーテノー。　ホンマニ　イロイロト。
って　よく　言ってねえ。　本当に　いろいろと。

ゴンスライ　トカ　ユーヨーナコトバモ
ゴンスライ［＝ございます］　とか　いうようなことばも

ヨー　ユイヤッタワノー。　ソーデゴンスライ、
よく　言っていたよねえ。　ソーデゴンスライ［＝そうでございます］、

トカ　ユーテ。
とか　言って。

239A：モー　センセーモ　ナケ゜イテネ、　（D　{笑}）
もう　先生も　　嘆いてね、　（D　{笑}）

モー　オカーワ　オカーダケカ゜ナヤ　　チュテ　　{笑}
「もう　オカアは　オカアだけ［の］値打ちだ」　と言って。　{笑}

（B　{笑}）
（B　{笑}）

240C：ソーデゴンスライダ〔25〕ヤ。　　ラー　ツクンヤノー。
ソーデゴンスライダ［＝そうでございます］だ。　ラが　つくんだねえ。

241B：ソーヤ　（C　ウン）　ソーデスライラ
そうだ　（C　うん）　ソーデスライラ［＝そうです］

（A　ソーデスライラ）　ライラ、　ウーン。
（A　ソーデスライラ）　ライラ、　うーん。

ソーデスラー　　ホンマニノー　ユーテモ
「ソーデスラー［＝そうでございます］　本当にねえ　言っても

ホラ　シヤナイデスライダヨ
それは　シヤナイデスライダヨ［＝しかた[が]ないのでございますよ］」

チューヨーナコト　　ユータナー。　ウン　テツダイ　チューノワ
というようなこと［を］　言ったねえ。　うん　手伝い　というのは

モヒトツ ホンマニ ソーイワ　テツダイニモ ナラナンダノー。
もう一つ 本当に　そう言えば 手伝にも　ならなかったねえ。

20↑21

242D：マ　マチノヒトワ　（B　マチワ）　ソシタラー
まあ　町の人は　（B　町は）　そしたら

メク゜マレターッタワケデスネ。　イマデモ　マー　＊＊＊
恵まれていた訳ですね。　今でも　まあ　＊＊＊

243B：ソーヤ　（C　ソーヤ）　（A　ソーデスネ）　ホイデ　サーカ゜
そうだ　（C　そうだ）　（A　そうですね）　それで　差が

ヒドカッタワ。　（D　ネ）　ア。　ホイデ　マー
ひどかったよ。　（D　ね）　はい。　それで　まあ

コチラサンラノヨーニ　（D　ウン）　ゴケッコーデ　＊
こちらさん方のように　（D　うん）　御結構［な身分］で　＊

（D　ハー）　ワタシラトコデ、　ンー　モー　アノ、
（D　はあ）　私たち［の］所で［も］、　んー　もう　あの、

244A：オタクコソ　ゴケッコーヤ。
お宅こそ　御結構だ。

245C：ソーヤデ。
そうだよ。

246B：ア　イヤ、　アネ　アネートカネ、　アネト　ワタシト、
あ　いや、　姉　　姉とかね、　　姉と　　私と、

イモトト　ミンナ、　ヒトリズツ　ベツノ、モリサン
妹と　　皆、　　一人づつ　別の子守［が］

ツイターッタシノー、　ソノホカニ　ミズ　　エカ゜ワ
ついてたしねえ、　　そのほかに　水［が］　江川［に］

ナカッタハカイニ、　ミズ、　　クマンナンハカイ
なかったから、　　水［を］、　汲まなければならないから

ジョチュサン　キテクレターッタシノー。（A　アー）　デ
女中さん［が］　来てくれていたしねえ。　（A　ああ）　で

イチバンハジメ　ジョースイドー　エカ゜ワ　ヒータンデスワ。
一番初め　　上水道［は］　江川［が］　引いたんですよ。

（A　アー　アー　ナルホドネ）　モー　ミズ　　クムノニ
（A　ああ　ああ　なるほどね）　もう　水［を］　汲むのに

ナンキ゜シテノー。（A　ウン）　ミズナシデ、クローシタンデ、
難儀してねえ。　（A　うん）　水なしで、　苦労したので、

エカ゜ワカラ　ジョースイドー　タナベシ　　ハジマッタ
江川から　　上水道［は］　田辺市［の中で］　始まった

チュークライデノー。（A　エー）　デ　ナット　シテデモ
というくらいでねえ。（A　ええ）　で　なんと　してでも

ミズ　　クムヒト、　　イッタンヤノー。　　ホイデニ　エー
水［を］　汲む人［が］、　必要だったんだねえ。　だから　ええ

247C：ホイタ　マー、ツイー　ヤッパ　ソージヤトカ　ソカ゜ナンモノー
そしたら　まあ、つい　やはり　掃除だとか　そんなのもねえ

サ、　ミズダケ　　クムダケデナシニヨー、　サスンヤデネ、
／　水だけ［を］　汲むだけでなくてねえ、　させるんだよね、

248B：ソーヤノー　モリサン　　ヒトリズツ　ソーヤ、　モリサン
そうだねえ　子守り［が］　一人づつ　そうだ、　子守［が］

チコ゜タッター　ヒトリズツ　ツイ、　　モ、　モー
違っていた　　一人ずつ　つい［て］　もう、　もう

オモリ、　　シテモラワナ　　シヨナカッテンノ
お守り［を］、　してもらわないと　しかた［が］なかったんだね

ムカシワノー　ナンチューコト　　ナカッタケドモ。　ホラー
昔はねえ　　なんということ［も］　なかったけれども。　それは

ホンマニー　ホィテ　ソンナンヤサカ、
本当に　　そして　そんなのだから、

249A：モリサン　テ　ユーノ　　ホイテ　マタ　モー　タベサシテサエ、
子守　　って　いうの［は］　そして　また　もう　食べさせてさえ、

250B：サーカ゜　ヒドカッタンヤ。　ア　ソヤ　ソヤ、
差が　　ひどかったんだ。　あ　そうだ　そうだ、

251A：エー、　モー、　キューリョーモ　ナニモー、　（B　ウン）
　　ええ、　もう、　給料も　　なにも、　（B　うん）

　　ロクスッパ　イラナンダ。　（B　ウン）　モー　タダ
　　ろくに　　要らなかった。（B　うん）　もう　ただ

　　（B　タダー　タベタラ）　モ　サンド　サンド　タベ、　{咳}
　　（B　ただ　食べたら）　もう　三度　三度　××　{咳}

　　タベタラ　ヨカッタ。　{咳}
　　食べたら　よかった。　{咳}

252D：デ、　ヤトイヤスカッタワケデスナ。　（B　ソーヤ）
　　で、　雇いやすかったわけですね。　（B　そうだ）

253A：ヤトイヤスカッタ。
　　雇いやすかった。

254C：ソヤ　ソヤ、　マー　（A　ウン）　クチベラシノツモリデ、
　　そうだ　そうだ　まあ　（A　うん）　口べらしのつもりで、

　　（A　ソー）　ダシタワケヤナ。
　　（A　そう）　出したわけだね。

255A：クチベラシデ　ダシタワケデスネ。
　　口べらしで　出したわけですね。

256B：ホイテー、　シチヤー。　ワタシー　モー　チサイジブンワ
　　そして、　質屋。　私［が］　もう　小さい時分は

シチヤ　　シーナカッタケド　　コノー　ニワノオシーレノウエニ
質屋［を］　していなかったけど　この　　庭の押入れの上に

ミョーナモン　　アルンデスワ、　ナンナイノ　ト　オモタラ、
妙なもの［が］　あるんですよ、　何かしら　　と　思ったら、

リョーニ　イクトキニ、　カブル、　アブラカ゜ミデ　コサエタ、
漁に　　行くときに、　かぶる、　油紙で　　こしらえた、

リョーノヒト　　カブ、　　（A　エー、　エー）
漁のひと［の］　かぶ［る］、（A　ええ、　ええ）

カッパヤトカネー、（A　エー　エー）　イロンナモ
合羽だとかねえ、　（A　ええ　ええ）　いろんなも［のが］

コイ＊、　コイ　　ナンナ　カーサン　テ　　ユータラ、
「これ＊　これ［は］　何なの　母さん」　って　言ったら

コイ　　ヒチデ　ナガエ、　ナガレター、シナモンヤ　チュテ
「これ［は］　質で　　×××　　流れた品物だ」　　と言って

シチデ　ナカ゜レタ　テ　　ナットー　　ナカ゜サレテクンナイノ　ト
質で　　流れた　　って　どうやって　流されてくるのかな　　と

オモテ　　{笑}　ワタシ　　オモタンヤケド　ソノ、
思って　　{笑}　私［は］　思ったんだけど　その、

ソカ゜ィナモンマデ　シチ　　イレニキテ、（A　イレニ、　アー）
そんなものまで　　質［へ］　入れに来て、（A　入れに、　ああ）

ヨー　トンニコント〔26〕。　（A　アーン）　ホイテ　ユーカ゜タニ
取りに来られなくて。　（A　あーん）　そして　夕方に

ナッタラ　シンブンカ゜ミカ゜　タイヘン、
なったら　新聞紙が　大変、

ホートクナイトキダッテネー、　（A　ンー）　サカナ　アイタ
少ない時であってねえ、　（A　んー）　魚［を］　明日

ウンニクヒトカ゜ネー、　ソノオバサンカ゜　ユーカ゜タ　ハイッテ
売りに行く人がねえ、　そのおばさんが　夕方　入って

ワタシラ　ゴハン　タベ＊ルジブンニ　ナッタ　コンバンワ
私たち［が］　御飯［を］　食べ＊る時分に　なったら　「今晩は」

テ　ハイッテキテ、　ホィテ　ナンド、　カミサン
って　入ってきて、　そして　何か、　「カミサン［＝奥さん］」

テ　ユー、　ヤ、　カミサン　カミサン　テ　ユーテノー、
って　言う、　／　カミサン　カミサン　って　言ってねえ、

（A　カミサン　テ　ユータ、　ウン）　カミサーン　マタ　シンブン
（A　カミサン　って　言った、　うん）「奥さん　また　新聞［を］

ワケトショー　テ　ユー、　ホィテ、　ホィタ　ハハ
分けてほしいよう」　って　言う、　そして、　そしたら　母［が］

タッテ　シンブンカ゜ミネ、　チンキ゜デ　ハカッテネ、　ホィテ
立って　新聞紙［を］ね、　はかりで　測ってね、　そして

ソノヒト　コーテ　カエリヤンネ。（A　フーン）　ダシ　アイタ
その人［が］　買って　帰るんだ。　（A　ふうん）　／／　明日

シン、　オサカナ　ウンニイクトキ　ソ、　（C　イルワケヤナ）
××　お魚［を］　売りに行く時　／　（C　要るわけだね）

（A　アー　ツツムノニナ）　ツツムノニ、　（A　ンー）　ホイテ
（A　ああ　包むのにね）　包むのに、　（A　んー）　そして

ソンガイニ、シテ　マ　チョイチョイ　クルンデスワ。
そんなにして　まあ　ちょいちょい　来るんですよ。

21↑22

257B：オーソージ　チュタラ　ソノ　オマツリノマエニノー、（A　エー）
大掃除　と言ったら　その　お祭りの前にねえ、　（A　ええ）

オーソージ　ス、　シタラ　オマツリ　クルンデネー、　テ
大掃除［を］　×　したら　お祭り［が］　くるのでねえ、　そして

オマ、　ソノオーソージノゴチソーカ°　モー　オソーメント　ン
××　その大掃除の御馳走が　もう　おそうめんと　ん

ナンド　ウリマメカ　ナンド　シテー　スンデカラ
何か　瓜豆か　何か［を］　して　［掃除が］すんで

ウツクシナッタ、　エンノハナデー　ミナ　イッパイ
美しくなった、　縁の端で　みな　いっぱい

ノンデノー、　オカエルン
［酒を］飲んでねえ、　お帰りになるの［が］

キマッターッタケドヨ。　オーソージ　シタラ、　オマツリ
決まっていましたけどね。　大掃除［を］　したら、　お祭り［が］

キマシタノー。　オマ、　オタクノホーワ　オマツリ
来ましたねえ。　××　お宅の方は　お祭り［の出し物は］

ウマデスカ？
馬ですか？

258A：ウマデス。　（B　ウマ。　アー）　コトシ　ウマトーバンダッテネ。
馬です。　（B　馬。　ああ）　今年　馬当番でね。

（B　アー　ソー）　（C　アー　ソー）　エラカッタ。
（B　ああ　そう）　（C　ああ　そう）　大変だった。

259B：ソラー　ソラ　エラカッタデショーノー。
それは　それは　大変だったでしょうねえ。

260A：ンー。　アレ　マツリモナー。
んー。　あれ　祭りもねえ。

261B：ンー、　アカ゜ナキ゜ョージワ　イマモ　カワランデスノ、　ムカシモ。
んー、　あんな行事は　今も　変わりませんね、　昔も。

262A：カワリマセンネー。　（C　ンー）
変わりませんねえ。　（C　んー）

263B：アー。　オンナシヨーナモンデショーノー。
ああ。　同じようなもんでしょうねえ。

264D：ウマワ　ドコカカラ　カリ、　カリテクルンデスカ。
　　馬は　どこかから　××　借りてくるんですか。

265A：カリテクルンデス。
　　借りてくるんです。

266D：アー　ドノヘンカラ　カリテキマスカ。
　　ああ　どの辺から　借りてきますか。

267A：アノ　タナベニ　アリマスンデ、　アノー　キミーデラアタリー
　　あの　田辺に　ありますので、　あの　紀三井寺辺りへ

　　ケーバニ　ツレテイキマショー？　（D　アー）　（B　ンー）
　　競馬に　連れていくでしょう？　（D　ああ）　（B　んー）

　　ソノウマ　カリテクルワケデス。　（B　アー　ソー）
　　その馬［を］　借りてくるわけです。　（B　ああ　そう）

　　（D　ホー）　エー。　ホイタ　ゴボーアタリカラ　カッテクルトネー、
　　（D　ほう）　ええ。　そしたら　御坊辺りから　借りてくるとねえ、

　　イチンチン　ゴマンエンク゜ライ　トラレルネ。　（D　ホー）
　　１日に　５万円位　取られるんだ。　（D　ほう）

　　（B　フーンー）　（C　へー）　エー、　ホィデ　タコー　ツクネ、
　　（B　ふーん）　（C　へえ）　ええ、　それで　高く　つくんだ、

　　ホィデ　タナベーニ、
　　それで　田辺に、

268B：タナベニ　アノ　ウマノシ、　　アンタモ　ウマ、
田辺に　あの　馬の飼［育］、　あなたも　馬［＝乗馬］［を］、

ヤッタロ　　バジュツ。　（C　{笑}）
やっただろう　馬術［を］。　（C　{笑}）

269A：＊　チャント、　コータウチ　　アルンデネー
＊　ちゃんと、　飼っているうち［が］　あるんでねえ

（D　フン、　フン）　ソレデー、　（B　コノヒト）
（D　ふん、　ふん）　それで、　（B　この人）

カッテクルンデス　（D　ホー）　トッコロカ゜ネー　ムカシワ
借りてくるんです　（D　ほう）　ところがねえ　昔は

アノー　バ、　バリキウマ　チューノ　　アッタデショー、
あの　×　馬力馬　というの［が］　あったでしょう、

アノー　（D　ン、　バンバデネ）　アシノフートイ、
あの　（D　ん、　輓馬でね）　脚の太い、

（C　ウン　ウン）　（B　アー　ハー　ハー　ソー　ソー）　ホィタ
（C　うん　うん）　（B　ああ　はあ　はあ　そう　そう）　そしたら

アレワ　オトナシーンデネー、　（B　ナレタウマヤ）　ジット
あれは　おとなしいんでねえ、　（B　馴れた馬だ）　じっと

シテルワケデス、　トコロカ゜　キョービ　カッテクルヤツワ
しているわけです、　ところが　今日　借りてくるやつは

ミナー　ケーバウマデショー、　ホイタラ　ソノ　キカ°　ハシカイ、
皆　　競馬馬でしょう、　　そしたら　その　気が　　たっている、

マ　　カッコワ　　エーンヤケド。　ホイタラ、　アノ、　イ、
まあ　かっこうは　良いんだけど。　そしたら、　あの、　／

ニジューコ°ニチノバンナンカ　ヤブサメーノギョージ　シテー、
25日の晩など　　流鏑馬の行事［を］　して、

（B　フン　フン）　ホイデ　ヤー、　　イテー　マ、　マトイ
（B　ふん　ふん）　それで　矢［を］、　射て　　×　　的へ

カチッテ　アタッタラ　ミナー　ワート　　（B　ウン）　テーオバ
カチッて　当たったら　皆　　ワーッと　（B　うん）　手を

タタクデショ、　ホイタ　　ンマワ　ソノ、　ゲ、　ゲート
叩くでしょう、　そしたら　馬は　　その、　×　　ゲート［が］

ヒライタント　マチカ°ウワケデス。　（B　{笑}）　ウワーット
開いたのと　　間違うわけです。　　（B　{笑}）　ウワーッと

ソイカラ、　{笑}　モ　　カナラズ　マエー　バーテ　　コー
それから、　{笑}　もう　必ず　　前へ　　バーって　こう

ツッコムワケデスヨ。　（B　ツライワー）　ンナ　　モー
突っ込むわけですよ。　（B　辛いよ）　　そしたら　もう

コトシラネー　　モー　ヒヤヒヤシマシタ。　（D　アー）
今年なんかねえ　もう　ひやひやしました。　（D　ああ）

ヒヤヒヤシタネ。
ひやひやしたね。

270B：オー　ソーデスカ。　（C　ンー）
おお　そうですか。　（C　んー）

271A：アー　ン、　ドーゾ　マー　ブジニ、　オワッテクレ　ト　オモテー
ああ　ん、　どーぞ　まあ　無事に、　終ってくれ　と　思って

（C　{笑}）　ホイテ　モ　{笑}　コドモラ　オチラレタラ
（C　{笑}）　そして　もう　{笑}　子供ら［に］　落ちられたら

コチャ　セキニン　アルシネ。
こちら［は］　責任［が］　あるしね。

272B：ホンマニノー、　ホー。
本当にねえ、　ほう。

273A：ホラ　モー、　トリー　＊＊＊
それは　もう、　鳥居　＊＊＊

274C：コノコ゜ロ　モー　バリキウマ　ナイワナ。　（B　ナイワノー）
この頃　もう　馬力馬［は］　ないよね。　（B　ないよねえ）

275A：トリノマエデ　スワッテルンヤケド　モー　ハクハクーシター。
鳥居の前で　坐っているんだけど　もう　はらはらした。

276C：ノー　バリキ　ヒキヤンノ　テ、　ミタコト　ナイワ。
ねえ　馬力［を］　引いているの　って、　みたこと［が］　ないよ。

277A：アレ　ナットカ　セナンダラー　ホンマニヨー。
あれ　なんとか　しないと　本当にねえ。

278B：ムカシワー　ウマオバー　ミナ　タナベエ　ダイタンカイテ
昔は　馬を　皆　田辺へ　出したのかして

（A　エー）　ワタシネー　エー　Bへ　ヨメニ　イッテ
（A　ええ）　私ねえ　ええ　Bへ　嫁に　いって

ホイテ　ソノジブン　ナヤ、　ウマコ゜ヤ　ウシコ゜ヤ　トリコ゜ヤト
そして　その時分　納屋、　馬小屋　牛小屋　鶏小屋と

コー　ズット　コー　キナヤカー　シバコ゜ヤカ　コヤ、
こう　ずっと　こう　木納屋から　柴小屋から　小屋［が］、

ナランダールヤロ、　デ　ソノ　ア　ヒトトコニ　ナニカ　カソ、
並んでいるだろう、　で　その　あ　一つ所に　なにか　／／

アノ、　ソノ　サ、　タケノ、サオエネ、　（A　エー）　タケ、
あの、　その　×　竹の竿へね、　（A　ええ）　竹、

ササエネ？　（A　エー）　アノー、　コカ゜ナ、　（A　ビラ）
笹へね？　（A　ええ）　あの　こんな、　（A　ビラ）

エマ　チューンカ　（A　ビラ）　ビラーカ　（A　ウン、　ンー）
絵馬　というのか　（A　ビラ）　ビラか　（A　うん、　んー）

カイターンネー、　（A　エー　エー）　ツケタヤツヨ、
書いてあるんだ、　（A　ええ　ええ）　つけたやつね、

(A　エー　エー)　マダ、　オイターンノ　　(A　ソーデスネ)
(A　ええ　ええ)　まだ、　置いてあるの［を］　(A　そうですね)

ワタシ　　ミタ。　(A　ア)
私［は］　見た。　(A　あ)

279D：ア、　ウマヤドノトコ。
あ、　馬宿の所。

280B：デ　シ、　ウマヤドノトコ　ハー。　(A　エ、　ソー　ソー)
で　／　馬宿の所［へ］　はい。　(A　え、　そう　そう)

デ　ソイー　　ミタ　　ソエニ　クマヒコ　テ　　カイテネー、
で　それ［を］　見た［ら］　それに　熊彦　　って　書いてねえ、

(A　エー)　ジブンノサトノナニカラ、　(A　アー)　アケ゜タ
(A　ええ)　自分の実家のあれから、　(A　ああ)　あげた

ビラカ゜　ツッターンネ、　(A　アー　アー)　ワタシー
ビラが　吊ってあるんだ、　(A　ああ　ああ)　私［は］

ソノトキ　　ミカケタ、コト　　アッタデスワ、　ホイデ　ミナ
その時［に］　見かけたこと［が］　ありましたよ、　それで　皆

ナカハヤアタリカラ　ミナ　ウマ　　ダイテキテ、
中芳養辺りから　　皆　　馬［を］　出してきて、

(A　アー　イマ)　ソノ、　ササノビラ　　ツケタヤツ
(A　ああ　今)　その、　笹のビラ［を］　つけたやつ［を］

ツケテ、　（A　ハー　ハー）　マ、　ウマノマコ゜サン
つけて、　（A　はあ　はあ）　×　「馬の馬子さん

（A　ソー）　ハヨ　キテオクレヨ　　テ　　ウタイモテ
（A　そう）　早く　来ておくれよ」　って　唄いながら

（A　エー　エー）　イタンヤナ。　　（A　アー　ソーデスネ）
（A　ええ　ええ）　行ったんだね。　（A　ああ　そうですね）

{歌う}　ウマ　ヨホホーイ　ウマノマゴサンー　ハヨ　キテオクレ
{歌う}　「馬　ヨホホーイ　馬の馬子さん　　早く　来ておくれ

ヨホホー　　{ここまで歌}　チュテ
ヨホホー」　{ここまで歌}　と言って

281A：ナカハハヤヤ　カ　カミハヤ　チュテ、　ユータラ、　ウマドコデネ
中×芳養や　×　上芳養　と言って、　言ったら、　馬どころでね

ムカシワ。　エー　ホイデ　メイバモ　ソ、　アノ　アノー、
昔は。　ええ　それで　名馬も　／　あの　あの、

（B　デタンカイテナー）　アノタニカラ　デテマスワ。
（B　出たのかしてねえ）　あの谷から　出ていますよ。

22↑

和歌山県田辺市1981注記

〔1〕オサラ

おてだま。

〔2〕シナ

シナの言いさしは標準語で「しなかった？」と言いかけての訂正と思われる。

〔3〕アテトミ

アテテオミ（当てて御見。あててごらんなさい。）の縮約。

〔4〕カ゜ナ

ほど，分。

〔5〕ゴートーカ

「ちんこく」（遊戯）の唱えごとの一部で，学制の高等科を強盗科ともじったもの。

〔6〕ダン

ダンシガタ（男子型）とでも言いかけて，言いなおした。

〔7〕ダッタノ

ダッタは，ホドアッタ（程あった）の縮約であろう。「もう一つホドあったね」でホドは意味が軽い。

〔8〕ツイテ

動詞ツクの意味は「（人が）力を加えて（自転車などを）進める。押す。」である。

〔9〕ハク

ハコ（箱）の言いさし。

〔10〕チュナ

チュナ<チュヨナ<チューヨナ。

〔11〕ミーイタラ

「見居たら」で「見ていたら」という意味である。ミーイルのような「動詞連用形＋イル」「動詞連用形＋ヤル<アル」は進行態を表す。標準語では，結果態を表す「～ている」（昨晩の雨で道がぬれている　など）は進行態の

形式と同じだが，この方言では，結果態は「動詞連用形＋テ＋ターる＜アる」であって，進行態とは異なる形式で区別されている。

〔12〕ナカッテンダ

ナカッタノダの転訛。

〔13〕ウリナカッタ

「売っていなかった。」ウリナカッタは「ウリ+ナイ+タ」で，ウリナイはウリアル（進行態）の否定である。

〔14〕ビーケー

関西地方で使われる、NHK 大阪放送局の通称・愛称。コールサインのJOBK に由来する。

〔15〕テッタイヤッタン

「動詞テッタウの連用形テッタイ＋進行態助動詞ヤル＜アルの連用形＋タ＋ン」。テッタウは「手伝う」。

〔16〕チューアナ

チューヨーナが縮まり，ヨが逆行同化でアとなったもの。

〔17〕ジュン

ジブン（「時分」）の[ｂ]が脱落。

〔18〕オッシャリナカッタカ

オッシャリナイは，オッシャリアル（進行態）「(今）おっしゃっている」の否定。

〔19〕コットバズカイ

コトバズカイ（「言葉遣い」の強調形。ッの部分は，完全な促音よりは軽微で短い音であるが，促音に準じて，ッと表記した。

〔20〕タイカ゜イ

大概。「①大体，②たいへん，非常に」の二義がある。ここでは曖昧さを避けるため，次でオーカタ（①と同義）を使って言い換えている。

〔21〕ダッター

この文末の長音は，詠嘆の表出。

〔22〕チュテ

「ト＋ユー＋テ」の縮約。ユー（「言う」）の意味は薄れ，～チュテで引用

の助詞トに相当する。

〔23〕ココロタイ

ココロアタリ（「心あたり」）の約。ココロは，「感じ。心待ち。」の意。クチアタリ（「口当たり。味覚。」）と同様の構成。

〔24〕アタ

アタは，アタ（「仇。」）と同根の接頭辞。悪い評価を表す形容詞につく。近世に，アタカシマシイなどがある。

〔25〕ライダ

終助詞。聞き手の注意を促すソラと聞き手に持ちかけるヨが連続したもの。「ソラ＋ヨ＋ソラ＞ラ＋イ＋ラ＞ライダ」。

〔26〕ヨー　トンニコント

ヨーは能力可能の意の副詞。「ヨー＋～スル」は「～できる」，「ヨー＋～セン」は「～できない」。「ヨー＋コン」は「来られない」の意。トンニは，トリニ「取りに」の撥音便。コントのトは接続助詞。前後を単純接続する。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて，文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは，「全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存する」目的で行われた，全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は，全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は，実施時期ごとに，第1次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第7次（昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ，それぞれ3年計画で，収録を行った。

各都道府県教育委員会は，言語学，国語学，方言学の専門家から調査員として，主任調査員2名と調査員若干名を選出し，さらに，専門家や学識経験者を交えて，調査地点，具体的な調査方法，全国共通の場面設定会話項目などについて検討し，その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し，後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって，1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち，自然な方言会話の部分を3時間程度選んで，文字化を行い，共通語訳をつけて，記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話，または，男女を含む3人の会話（2時間）

②老年層の男性1人の対話，または，老年層の男性3人の会話（1時間）

③老年層の女性２人の対話，または，老年層の女性３人の会話（１時間）
④老年層と若年層との対話，または，両者を含む３人の会話（１時間）
⑤老年層の男性２人の，目上の者と目下の者の対話（２時間）
⑥場面設定の対話（１時間，各場面につき１～３分程度）
場面に応じて，老年層の男性２人の対話，または，老年層の男女各１人による対話
⑦当該地域に伝わる民話（１時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，
⑧老年層の女性２人の，目上の者と目下の者の会話（１時間）
または，
⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，２人の対話（１時間）
を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について５地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は３年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を１本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を２本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を１部，正の複製（副）を２部作成する。

調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果，地域的密度，収録量，方言的内容のいずれの面からも，他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後，これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は，各教育委員会から，「各地方言収集緊急調査」報告として，文化庁に提出され，永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

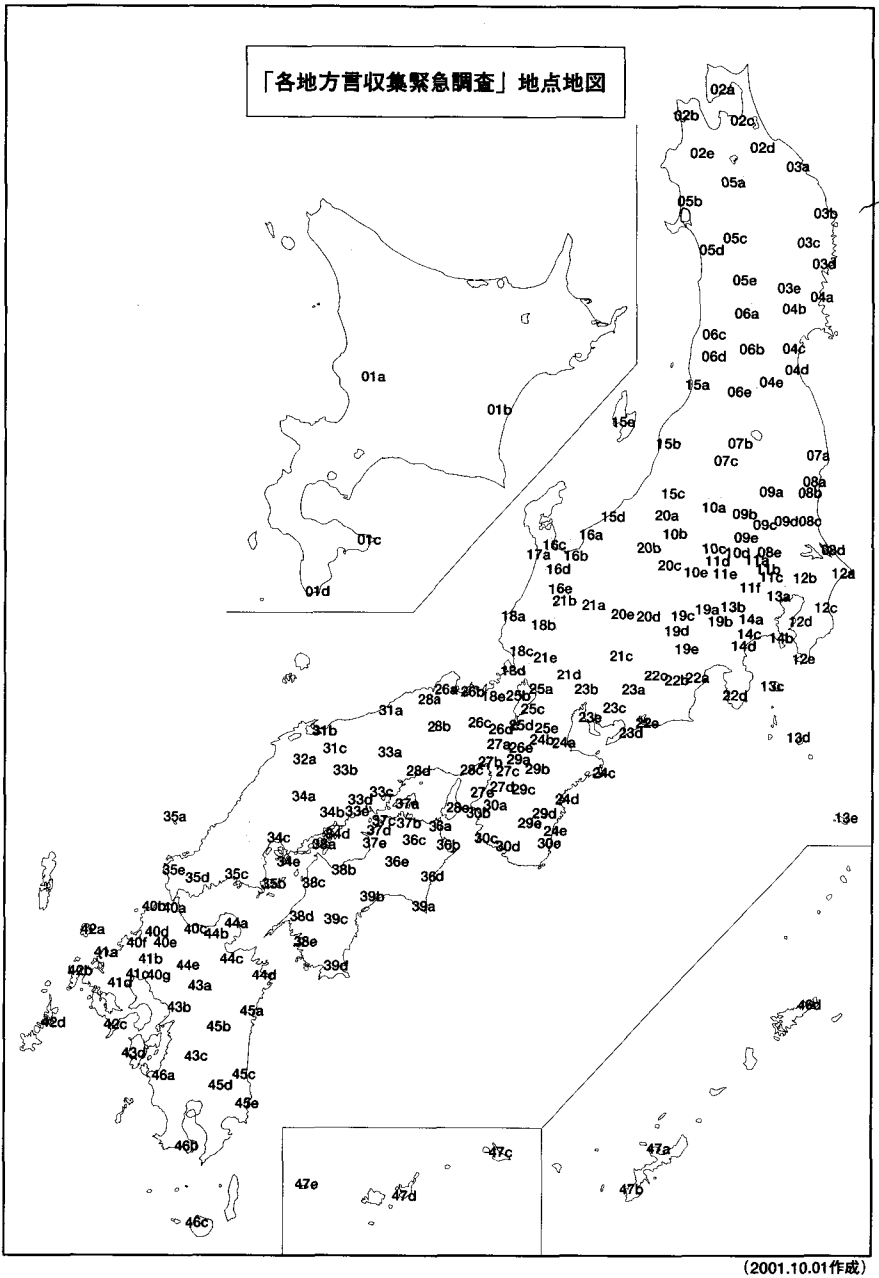
北海道
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
01b 十勝支庁中川郡豊頃町
01c 渡島支庁亀田郡椴法華村
01d 渡島支庁松前郡松前町
青森県
02a 下北郡川内町
02b 北津軽郡市浦村
02c 上北郡野辺地町
02d 三戸郡五戸町
02e 弘前市
岩手県
03a 久慈市
03b 宮古市
03c 遠野市
03d 大船渡市
03e 一関市
宮城県
04a 本吉郡本吉町・歌津町
04b 栗原郡築館町
04c 仙台市
04d 亘理郡亘理町
04e 刈田郡七ケ宿町
秋田県
05a 鹿角市
05b 能代市
05c 仙北郡西木村
05d 河辺郡雄和町
05e 湯沢市
山形県
06a 新庄市
06b 寒河江市
06c 東田川郡櫛引町
06d 東田川郡朝日村
06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
福島県
07a いわき市
07b 大沼郡会津高田町
07c 大沼郡昭和村
茨城県
08a 高萩市
08b 久慈郡里美村
08c 水戸市
08d 鹿島郡大野村（一鹿嶋市）
08e 古河市
栃木県
09a 大田原市
09b 日光市
09c 宇都宮市
09d 芳賀郡益子町
09e 安蘇郡田沼町
群馬県
10a 利根郡片品村
10b 吾妻郡六合村
10c 前橋市
10d 邑楽郡大泉町
10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県
11a 加須市
11b 南埼玉郡宮代町
11c 春日部市
11d 児玉郡上里町
11e 秩父郡長瀞町
11f 入間郡大井町
千葉県
12a 海上郡飯岡町
12b 印旛郡印西町（→印西市）
12c 長生郡長生村
12d 木更津市
12e 館山市
東京都
13a 台東区
13b 西多摩郡檜原村
13c 大島町
13d 三宅村
13e 八丈町
神奈川県
14a 愛甲郡愛川町
14b 横須賀市
14c 秦野市
14d 小田原市
新潟県
15a 村上市
15b 西蒲原郡分水町
15c 十日町市
15d 糸魚川市
15e 佐渡郡佐和田町
富山県
16a 黒部市
16b 富山市
16c 氷見市
16d 砺波市
16e 東礪波郡上平村
石川県
17a 羽咋郡押水町
福井県
18a 坂井郡芦原町
18b 勝山市
18c 南条郡南条町
18d 敦賀市
18e 遠敷郡名田庄村
山梨県
19a 塩山市
19b 大月市
19c 韮崎市
19d 南巨摩郡早川町［奈良田］
19e 南巨摩郡身延町
長野県
20a 下水内郡栄村
20b 長野市
20c 小諸市
20d 伊那市
20e 木曽郡開田村

岐阜県
21a 高山市
21b 大野郡白川村
21c 中津川市
21d 岐阜市
21e 揖斐郡徳山村
静岡県
22a 静岡市
22b 榛原郡本川根町
22c 磐田郡水窪町
22d 賀茂郡松崎町
22e 浜名郡新居町
愛知県
23a 北設楽郡設楽町
23b 西春日井郡師勝町
23c 岡崎市
23d 豊橋市
23e 常滑市
三重県
24a 安芸郡美里村
24b 阿山郡阿山町
24c 志摩郡阿児町
24d 北牟婁郡海山町
24e 南牟婁郡御浜町
滋賀県
25a 長浜市
25b 高島郡安曇川町
25c 神崎郡能登川町
25d 大津市
25e 甲賀郡甲賀町
京都府
26a 中郡峰山町
26b 舞鶴市
26c 船井郡丹波町
26d 京都市
26e 相楽郡山城町
大阪府
27a 高槻市
27b 大阪市
27c 八尾市
27d 河内長野市
27e 泉佐野市
兵庫県
28a 豊岡市
28b 朝来郡生野町
28c 神戸市
28d 相生市
28e 洲本市
奈良県
29a 大和郡山市
29b 宇陀郡榛原町
29c 五條市
29d 吉野郡下北山村
29e 吉野郡十津川村
和歌山県
30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
30b 和歌山市
30c 御坊市
30d 田辺市
30e 新宮市

鳥取県
31a 鳥取市
31b 米子市
31c 日野郡日野町
島根県
32a 仁多郡仁多町
岡山県
33a 勝田郡勝央町
33b 新見市
33c 岡山市
33d 小田郡矢掛町
33e 笠岡市
広島県
34a 三次市
34b 府中市
34c 広島市
34d 因島市
34e 安芸郡倉橋町
山口県
35a 萩市
35b 大島郡大島町
35c 徳山市
35d 美祢市
35e 豊浦郡豊北町
徳島県
36a 鳴門市
36b 阿南市
36c 美馬郡脇町
36d 海部郡海南町
36e 三好郡東祖谷山村
香川県
37a 小豆郡土庄町
37b 木田郡三木町
37c 丸亀市
37d 仲多度郡多度津町
37e 観音寺市
愛媛県
38a 越智郡大三島町
38b 西条市
38c 松山市
38d 大洲市
38e 宇和島市
高知県
39a 室戸市
39b 高知市
39c 高岡郡檮原町
39d 幡多郡三原村
福岡県
40a 北九州市
40b 遠賀郡芦屋町
40c 築上郡新吉富村
40d 飯塚市
40e 嘉穂郡稲築町
40f 福岡市
40g 八女市
佐賀県
41a 東松浦郡鎮西町
41b 鳥栖市
41c 佐賀市
41d 武雄市

長崎県
42a 壱岐郡芦辺町
42b 平戸市
42c 長崎市
42d 南松浦郡奈良尾町
熊本県
43a 阿蘇郡阿蘇町
43b 熊本市
43c 球磨郡錦町
43d 天草郡天草町
大分県
44a 東国東郡国東町
44b 宇佐市
44c 大分郡挾間町
44d 佐伯市
44e 日田郡前津江村
宮崎県
45a 延岡市
45b 東臼杵郡椎葉村
45c 宮崎市
45d 北諸県郡山田町
45e 日南市
鹿児島県
46a 出水市
46b 揖宿郡頴娃町
46c 熊毛郡上屋久町
46d 大島郡龍郷町
沖縄県
47a 国頭郡今帰仁村
47b 那覇市
47c 平良市
47d 石垣市
47e 八重山郡与那国町



（2001.10.01作成）

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1．年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2．調査県一覧

第1次 (S.52～54)	第2次 (S.53～55)	第3次 (S.54～56)	第4次 (S.55～57)	第5次 (S.56～58)	第6次 (S.57～59)	第7次 (S.58～60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年５月１日
文化庁長官裁定
（昭和62年６月１日廃止）

１．趣旨

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し，必要な事項を定めるものとする。

２．補助事業者

補助事業者は，都道府県とする。

３．補助対象事業

補助対象となる事業は，当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

４．補助対象経費

補助対象となる経費は，次に掲げる経費とし，その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

５．補助金の額

補助金の額は，補助対象経費の２分の１以内の定額とし，750千円を最高限度額とする。ただし，沖縄県については，別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分		項	目	目の細分	説　明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金	調査員，調査補助員等謝金
					○○文字化謝金	
					○○協力謝金	資料
				旅費	普通旅費	
					費用弁償	
					特別旅費	
				需用費	消耗品費	野帳等文具，録音用テープ
					印刷製本費	調査報告用紙
					会議費	企画委員会打合会
				役務費	通信運搬費	郵便，電信電話料等
				使用料及び賃借料	会場借上料	
					器具借上料	
				委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年７月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては，文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか，この実施要領によるものとする。

１．地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては，県下の方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また，離島など，特色の認められる方言は，可能な限り収録するよう努めなければならない。

２．録音内容・話者

ア　老年層話者による会話

収録内容――次の３種類の対話又は会話を収録する。

(1)　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話

(2)　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話

(3)　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話

話者の年齢など――原則として，収録時において60歳以上とし，やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また，話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴――その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，その期間が短い（在外期間は３年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り，婿入りした人は採らない。ただし，女性については，他に適当な人が求められないときは，近隣地域から嫁入りした人でも，収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者――主たる話者のほかに，話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は，あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し，会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題――自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ　老年層と若年層との会話

収録内容――老年層の男性と若年層の男性との対話，又は，両者を含む３人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など――老年層については前項アに準ずる。若年層については，原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴――老若ともアに準ずる。

ウ　目上の者と目下の者の会話

収録内容――目上，目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として，たとえば，僧侶対その檀家に当たる人物，その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業，漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢――目上，目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴――原則として前項アに準ずる。ただし，目上に当たる者については，在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので，アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ　場面設定の会話

目的と方法――自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容――各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し，各場面の録音量は，1～3分程度とする。

話者――場面に応じて老年層の男性どうしの対話，老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ　民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3．録音機・録音技術

必ず，ステレオで録音することとし，テープは，オープン，カセットのいずれでもよい。この調査は，自然な方言会話を良い録音で収録し，それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は，録音技術に習熟した者が行い，会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお，良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

①　雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音，とびらの開閉音，机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など），紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

②　内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので，必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③　マイクはなるべく話者の近くに配置し，どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので，この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には，音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④　テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤　カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4．文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし，文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には，共通語訳を付けるとともに場面，文脈，特徴的音声，方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5．収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1．調査（方言収録）の年次計画（(　) は実施要領・文字化の時間数）

○　第１年次

①　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話（アの(1)・２時間）

②　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話　（アの(2)・１時間）

○　第２年次

①　目上の者と目下の者の会話（ウ・２時間）

②　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性3人の会話　（アの(3)・１時間）

○　第３年次

①　老年層と若年層との会話（イ・１時間）

②　場面設定の会話（エ・１時間）

③　民話（オ・１時間）

(注)　３年次の「③　民話」の収録不能のときは，２年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性２人の会話を収録

2．調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

・正……収録した生のテープ　１部

・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　２部

(2)　文字化原稿

・正……手書き原稿　１部

・副……正のコピー　２部

3．調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO.正

○　○　県　－○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点＿＿＿＿＿＿＿＿

2　採録年月日＿＿＿＿＿＿＿＿

3　話題・時間　A面＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）分

B面＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）分

4　話者＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿

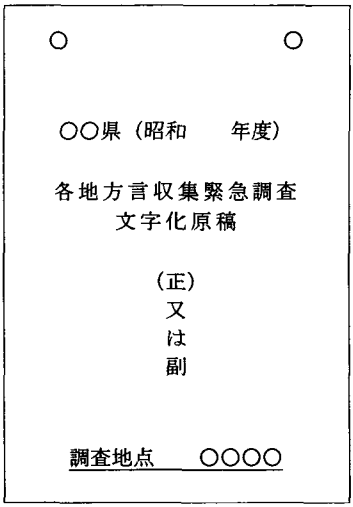
＿＿＿＿＿＿＿＿

5　採録機種＿＿＿＿＿＿＿＿

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

⑵　文字化原稿の表紙

文字化原稿は,各調査地点ごとに，(1) 録音内容記録票，(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B４板目紙）を付けて綴ってください。



⑶　文字化原稿の用紙

①　録音内容記録票
②　方言資料割付用紙
③　方言調査解説用紙

（別紙のとおり）

調査実施上の留意事項について

1　調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アー(1)） ②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アー(2)）	10	2 1
2年次	①　目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ） ②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アー(3)）	10	2 1
3年次	①　老年層と若年層との会話（イ） ②　場面設定の会話（エ） ③　民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。）	10	1 1 1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2　調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

正……収録した生のテープ　1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　2部

(2)　文字化原稿

正……手書き原稿　1部

副……正のコピー　2部

3　調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO.正

○　○　県　　－○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　　(　　)分

B面　　(　　)分

4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2)　文字化原稿の表紙

文字化原稿は,各調査地点ごとに,(1) 録音内容記録票,(2) 収録地点とその方言の特色等解説 (初年次のみ),(3) 録音文字化原稿の順で表紙 (B4板目紙) を付けて綴ってください。

○　　○

○○県 (昭和　　年度)

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

(正)
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については，国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

(1) 原稿用紙には，「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の２種類があり，「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を，「解説用紙」には収録地点の概観，収録方言の特色，表記法についての説明，文字化内容についての注記などを記入する。

(2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。（青インキは不可。）

割付用紙への記入

① 割付用紙の第１ページには，タイトル（録音内容を代表するようなもの），話し手の略号・氏名・性・生年を記入し，一段あけて，録音内容の文字化・標準語訳を記入する。（記入例参照）

② 割付用紙の左端の[---]には話し手の略号を記入する。

③ カウンターつきの録音機を使用した場合は，その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし，各センテンスの末尾に句点「。」「，」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお，談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが，あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは，利用者の便宜，文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし，対象とする方言の性格によって，カナ表記では特殊な字母を多数必要とし，かえって煩雑になると判断される場合は，国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻（音素）表記は採らない。これは，音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や，自然会話にしばしば現われる無造作な発音，また，標準語的な発音の混入などを，解釈を加えずに，音声学的に記述しようとする意図による。なお，カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから，それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については，解説（表記法の項）で説明しておいていただきたい。

エ 長音，鼻音，あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合，原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ)ガ行鼻音は，カ゜ キ゜ ク゜ …のように表わす。

例 カカ゜ミ [kaŋami]（鏡）

（ウ） 鼻音化には「ˆ」（上つき小字のン）を用いる。

例 マˆド［ma˜do］（窓）

カˆゴ［ka˜go］（籠） －高知方言など－

（エ） 合拗音の［kwa］［gwa］はクヮ，グヮのように表わす。

例 クヮジ［kwaʒi］（火事） －九州方言など－

（オ） ［ʃe］［dʒe］はシェ，ジェのように表わす。

例 シェナカ［ʃenaka］（背中） －九州方言など－

（カ） ［ti］［di］はティ，ディ，［tu］［du］はトゥ，ドゥのように表わす。

例 トゥキ［tuki］（月） －高知方言など－

（キ） ［Φa］［Φi］［Φe］…はファ，フィ，フェのように表わす。

例 フェンビ［Φe˜bi］（蛇） －奥羽方言など－

（ク） ［je］の音はイェで表わす。

例 イェダ［jeda］（枝） －九州方言など－

（ケ） ［æ］［kæ］［sæ］…はアェ，カェ，サェのように表す。

例 アカェー［akæ:］（赤い） －岡山方言など－

（コ） ［ɛ］［kɛ］［sɛ］…はエァ，ケァ，セァのように表わす。

例 アゲァ［agɛ］（赤い） －奥羽方言など－

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか，あるいは，一般的な字母を使用しておき，そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注［kçïmono］

オ アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含め，担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には＿＿線を付けておく。

例 カステクレァー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを＿＿線付きで記述し，他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレァー(注)→注「カステケロエ」または
「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし，最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない，すなわち，話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが，このような場合には，文字化担当者に「聞こえる音声」を＿＿線付きで記述し，話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には，＿＿線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ，言いかさなり，言いなおし，笑い声など。

ア 言いよどみは，その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には，次のように（ ）を利用し，発言

が重複する部分に＿線を付ける。

例　A　ヒルママデ　マズ　スコ゜トモ　オエッカラッテ

（B　ンダケンド　オレァー）　アト　スク゜イ　モッテクッカラ

ウ　重複部分が長い場合や，一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には，改行して，重複部分に＿線を付ける。

例　A　アー　バサマ　オチャ　ダシェ　マズ。　チョイット

ナカ゜ス　キター。

B　イヤ　イソカ゜スィンダテ　キョーノー。

エ　言いかけて，それを言いなおした場合には，言いかけた部分に×××××を付ける。

例　アノー　ワズカナ　ゴ　ゴジュー

××　××××××

ゴジューエングラェージャッタカナー。

オ　笑い声などは文字化本文中に（　）に入れて記す。

例　ウレシーナー　（笑）

⑥　標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし，それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には，注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが，標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え，訳しかたが問題となるような箇所については，なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦　注記について

ア　「割付用紙」には注記番号のみを（　）に入れて記し，注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ　注記は，音声的特徴，基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など），方言形の意味・用法・語源，民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など），文脈のねじれ，標準語訳についての補足，話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに，方言形の意味・用法については，できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A　収録地点とその方言について

1　地点名

2　収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3　収録した方言の特色

①　方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

②　音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③　文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4　その他（地点選定の理由，協力者の氏名，協力内容など）

B　表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C　収録内容の概説，注記など

1　タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）

2　録音年月日

3　録音場所

4　話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。　　（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）

5　録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は,方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が，この資料の一部を用いて，独自に報告書を刊行している。ただし，市販されているわけではないので，一般には入手しにくい。また，その形態は印刷物であり，電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については，未公開であった。

その後,「各地方言収集緊急調査」報告資料は,文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では，受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために,膨大な報告資料を整備して,方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には，一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において,報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は，情報資料研究部第二研究室（当時)，担当者は，井上文子であった。所外研究委員として，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは,「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は，情報資料部門第二領域，担当者は，井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所)，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所)，田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部)，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科,元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成9(1997)～13(2001)年度には，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けて，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成データベース名は,「全国方言談話資料データベース」,作成委員会名は,「全国方言談話資料データベース」作成委員会である。作

成委員長は，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度は交付の最終年度であり，『全国方言談話データベース』の公開を開始した。

なお，「全国方言談話資料データベース」の作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成９年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については，日本全国の47都道府県でそれぞれ５地点程度，計200地点あまりにおける，約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと，その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので，現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが，膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので，段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では，まず，第一段階として，各都道府県につき１地点，計47地点の老年層男女の自然会話を選び，その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには，次のような作業が必要であった。

①録音テープには，正が１本，副が２本ある。正は収録したオリジナルのテープ，副は正より文字化部分のみを編集したもので，いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し，複製を作成する。

②文字化原稿には，正が１部，副が２部ある。正は，文化庁指定のＢ４判の用紙を使用した手書き，副は正のコピーである。正の文字化，共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では，できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。

③文字化原稿の収録地点，話者，収録内容，状況記録などの確認をし，その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。

④今回刊行するものでは，老年層男女の自然談話のうち，各都道府県につき１地点30～50分をめやすとして，データベース化部分に選定する。

⑤データベース化する部分の文字化テキストと，それに対応するデジタル録音音声を抽出する。

⑥音声データをもとに，文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては，原資料の文字化原稿に従って行うが，見やすさを優先させたり，全体の統一を図ったりするため，必要に応じて変更を加える。この作業は，その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

⑦記号の種類と使い方，句読点，分かち書きなどについて，凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は，見やすさや全体の統一のため，必要に応じて変更を加えているので，「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

⑧文字化データに沿う形で，注記を整える。原則としては原資料に従って行うが，場合に応じて最低限の変更を加える。

⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。

⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。

⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それをpdfファイルにする。

⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて，文字化のtextファイル，共通語訳のtextファイルを作成する。

⑬音声データは，デジタル化した後，サンプリングレート，音声ファイル形式などの調整を行い，音声waveファイルを作成する。そして，それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。

⑭CD-ROMは，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。

⑮CDには，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。

⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。

⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。

⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字はFDを媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。

⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CDから成り，方言談話の音声（waveファイル），文字化（カタカナ表記，textファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，textファイル），文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

なお，刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子 1冊 A5判 約200ページ，CD-ROM 1枚，CD 1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	8
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	9
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	10
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	11
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-12

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第12巻 奈良・和歌山

2002年1月30日 発行

編集：国立国語研究所
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL：03-3900-3111（代表）
FAX：03-3906-3530（代表）
URL：http://www.kokken.go.jp

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421（代表）
FAX：03-5970-7427（営業）
URL：http://www.kokusho.co.jp

（平13-08）